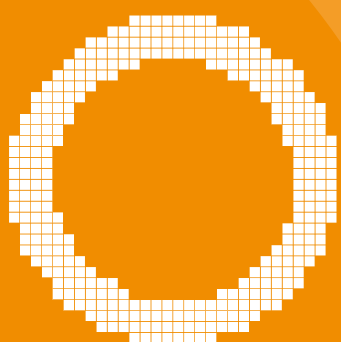




MAEBASHI index

ま え ば し い ン デ ッ ク ス

政 策 の 背 景 ま で わ か る ！



MAEBASHI index

まえばしインデックス

目次

前書	龍の思い	002p
1 章	リーダーシップとは	004p
2 章	医療・福祉	007p
3 章	ICT	019p
4 章	公共交通	023p
5 章	子育て	028p
6 章	社会はひとつ	038p
7 章	教育	041p
8 章	農林業	049p
9 章	産業・雇用	055p
10 章	賑わいの復活	061p
11 章	歴史・文化	077p
12 章	スポーツ	088p
13 章	観光に価値を	094p
14 章	エネルギー・環境	096p
15 章	安全な街	103p
16 章	市民主体	108p
17 章	行財政改革	113p
18 章	未来へ	120p
巻末資料		121p

政策の背景までわかる！ 山本龍の “まえばしインデックス” MAEBASHI index



言葉、行動…いろいろなメッセージを発信しながらリーダーは「今より少しでも良き社会」を目指して市民と歩いていかねばなりません。この道を進もう。あの山を目指そう。ゆっくりと。あるいは急いで、そして立ちすくむ人には肩を貸して進むのです。

一番大切なメッセージは「言葉」です。「言葉」は道を示し、なぜその道を進むのかを市民に納得してもらえる大きな力です。

市長は「市民の暮らし」や「地域の夢」をたくさんの「言葉」にして伝えます。街頭演説も議会討論も市民集会も「言葉」を語り共感を得るものです。だからこそ政治が語る「言葉」の意味や解釈、あるいはその「言葉」への期待や背景まで 人々と共有されなくては、真意は伝わりません。

私は「私が語る言葉の意味」を改めて説明する機会を探していました。4年間の市長としての足跡を振り返り、また今後の前橋市の展望を書き起こすにあたり、今まで私が語ってきた「言葉」の解説を行う事にしました。それこそが、最も「山本龍の思い」をお伝えできる方法だと考えたからです。

「言葉」はその意味を共有されて初めて力を持ちます。この拙文が前橋市を愛する皆さんはもとより、地方自治に携わる皆さん、地域を愛し行動する主体的な市民にとってささやかなアドバイスになることが出来れば幸いです。

2016年秋 山本 龍

最上段の左から
3番目が私です



山本龍の「前橋への思い」とは？

私が生まれたのは群馬県と長野県の県境にある草津温泉です。前橋市総社出身の小学校の恩師が、私を前橋の地に連れ戻ったのが理由です。「本気で頑張るなら、前橋に出してやる」とは父の言葉です。総社町の恩師宅に下宿させていただき、私の前橋での学びがスタートしました。日新電機の工場の大きさ、古墳、大きな田んぼ、鉄道、ビル、デパート、商店街アーケード…一番の驚きはクラスメートです。クラスメートは皆カッコよくて頭が良く見えました。

私にとって、この前橋には希望があふれていました。「ここで頑張れば成長できる。」との確信がありました。私の中学校1年生の写真をみると何故か野球部もないのに坊主頭です。私のやる気の表れです。そして前橋が私を育ててくれました。

今、前橋人はこのまちへの誇りを失いかけています。しかし私の目に映る前橋はいまだに輝いています。医療の輝き、教育の輝き、産業の輝き、ここに暮らす市民の理性、落ち着きと歴史の深みがある街並、…そして広瀬川。このまちは今でも、県都の輝きを持っている。このまちが希望の街だと皆さんに思い出してもらいたい。誇りを取り戻してもらいたい。時間はかかります。市や県や国の役人を説得しながら、私は「前橋の誇りを復活させる」という約束を実現するために石にかじりつく思いで前進してきました。本当に時間がかかります。先日、赤城山の黒檜山の山頂の枝払いを行いました。4年前、「赤城山をきれいにする。100名山の黒檜に登っても木々が茂って何も見えない。木を切って関東平野を一望出来る名所に変えてみせる。」と言ってきました。環境省、森林局、群馬県、隣の沼田市や桐生市と掛け合い、4年近くを費やし、やっと実現しました。時間はかかっても、志をもって誠実に取り組めば前橋をよくする道が拓けます。

霧の中だった前橋、しかし今は「前橋が県都の誇りを取り戻す道」が今の私にははっきり見える。霧が晴れた！しかし私は皆さんを背に担いでは歩けません。自らの足

でこれからの険しい道のりを一緒に進んで下さい。私は、皆さんが掛けそうになった時にはその手を引き、励まします。しかし歩くのは皆さん自身です。道の向こうに夢や希望が見出せるようにしましょう。人は夢があれば挫けず歩けます。希望を失った人はまっすぐに歩けません。希望は人をまっすぐに導く羅針盤です。

「本当に前橋は変わるのか？」と半信半疑だった方が、「前橋の誇りを一緒につくり上げよう！」と思って下さることを、前橋の未来を信じてくださることを願っています。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の画面の中で、先人たちの活躍にワクワクしました。私たちの故郷・前橋は東国文化の時代から誇れる歴史を積み上げてきました。前橋空襲による焼土からも高い志を持って蘇ってきました。すべて先人の努力のおかげです。今を生きる私たちの責任を心に刻みます。「明治維新」「戦後復興」に次ぐ「県都再生」は今の時代の責任です。新たな価値観に立つ純粋な精神に結びついた草莽の心がそれを成します。ともに成し遂げてまいりましょう。

もう一度、私が皆さんに「前橋はすごいまちだ。」「輝くまちだ。」と伝えたい。もう一度このまちを「希望の溢れるまち」に再生していきましょう。それは私一人ではできません。皆さんの力が必要です。一人で出来る事など無い。世界中に一人で事を成したリーダーなどいません。そこには同じ志を持つ仲間がいました。前橋の誇りの復活には志を持つ市民の力が必要なのです。草莽崛起です。



大河ドラマ花燃ゆのポスターの前に「草魂」と墨書した2015新年



前橋空襲のよって尖塔の屋根を失った前橋カソリック教会

“

この道を進もう！あの山を越え、あの谷を渡り、進もう。
足に刺さった棘を抜き、道を塞ぐ大岩をどけ、肩を貸して、ともに進む。

”

これが私の皆さんに申し上げたい一番大切なメッセージです。そのメッセージを発信し続けることが私の使命であり、役割です。汗する市民に力あれ。

1 章
リーダーシップ
とは5年を振り返って…
山本龍の
「リーダーシップ」とは何か？

リーダーシップとは人を変革へ導く責任です。つまり人を過去から未来へ、「豊かな社会」へと導いていく。私の考える「豊かな社会」の「豊かさ」とは金の多寡でもなく、物欲を満たすことでもない。「誇りをもって過ごせる社会」という意味です。「誇りこそ幸せである。」との価値を生み出していきたい。「誇り」は人だけが持つ感情だからです。

私は前橋市を誇りある郷土にするために、市民を導きます。急激な変化ではなく来年は今年より少しだけ進化すればいい。毎年1%変化すれば、数年後には別物になる。人とオラウータンのDNAの違いはたった1%しかないのです。

私が初当選した2011年からの5年間で前橋市は変化の端緒に就きました。納税への批判や苦情は10分の1になりました。窓口対応も市民に寄り添うようになりました。2016年の前橋花火大会は見違えるほど変化しました。関東平野を一望できる赤城黒檜山頂の景色を塞いだ樹木も枝打ちできました。たったこれだけの変化に5年

もの歳月が必要なのです。**この5年で市民の信頼される市役所に変わり始めました。来る日も来る日も人々を1%の変革へ導く気持ちがあれば、社会は良くなる。それが私のリーダーシップです。**

人は誰しも変革を恐れます。変化への先に幸福が保証されていないからです。しかしリーダーは立ち止まることは出来ません。眼前に大きな崖があれば進路を変えなくてはなりません。砂漠に水を求めてキャラバンを進めなくてはなりません。遅れる市民を励まし、別の道を進もうとする市民を納得せねばなりません。

リーダーシップは信頼されることから始まります。

信頼とは自らの行動によって人を納得させなければ得られません。行動こそ「山本龍となら一緒に道を進める！」と信頼される唯一の手段です。如何に政治の理想を語っても、家庭人として友人として人としての信頼がなくては、言葉は空しいものです。信頼は行動によってのみ得られます。やって見せなくては人に信じてはもらえないものです。

私は数々の本から学びを得ました。特に政治を担うようになってからは、導かれるように読みました。とりわけP・ドラッカーの組織論は私に政治家としての行政組織の改善への示唆を与えました。S・コービーの「七つの習慣」は私の人生の役割の認識を明確にしました。このほかにも様々な偉人の伝記は私に力強く、不屈に、圧倒的な正義と使命感をもって生きる事を諭しました。また、研究者が記した経済書は経世済民の経済政策の参考になりました。読んでは、メモを起こし、そのメモを見ては行動を起こしていく。人生は学びという「模倣」の連続です。

それらが今の私を形作っています。私の市長として、父として、夫として、…私の人生における多様な役割を果たす道を、先人の書物は灯台のように眩しい輝きで照らしています。

今までの読書は何かを成すための学びを得る為でした。現状を是正し社会制度の不備を正すために「行動する学び」です。吉田松陰さんや田中正造さん、そして大塩平八郎さんの伝記をよみました。そこに書かれた「知行合一」との精神は私にとって大切な行動規範となりました。「学んだら行動せよ！」との教えです。そのことば通り、

この3人は社会変革のために行動し、吉田松陰は処刑され、田中は行き倒れ、大塩は自決します。行動し自らの人生を閉じます。

（「花燃ゆ」から感じた松陰さんは私の松陰さんのイメージ通りでした。しかし、違った点がありました。私が破

リーダーは無私である事です。

私欲を捨てることはなかなか出来ないものです。私欲を捨てる為には修養が必要です。私は残念ながら無私の境地にたどり着くことはできませんでした。その代わりに、私は「社会を良くすること」を自分の欲にしようと思ったのです。その瞬間、心が楽になりました。

その気付きは良寛さんの歌から与えられました。良寛さんは現状を肯定し、受け入れ、社会を疑わず、愛するだけです。良寛さんのリーダーシップを考えることがあります。最近、良寛さんの言葉を読み直す機会がありました。改めて今読む良寛の残した言葉は、その「力強いリーダーシップ」とは一線を画するものでした。そのことが大いに私を悩ませました。何かを達成しようと努力しない良寛さんの生き方は、変革を達成しようと足掻く私にとっては理解できないものでした。いったい、良寛さんは「何を手に入れたかったのでしょうか」むしろ反対に「捨てる事」しか私には伝わりません。彼の言葉から感じる理想の社会とは「皆が欲しがらない社会」です。皆が無欲に暮らす社会を描きだします。無欲社会です。他者を導くでもなく、自らの心を整えるだけに徹し、社会への変革の圧力を与える事もしません。「両手いっぱいには荷物を持っていれば、誰の手も引くことは出来ません」と私に捨てる事の大切さを教えてくれるのです。

「世の中に まじらぬとは
あらねども ひとり遊びぞ 我はまされる」
と社会から離れて影響を与えようとしません。今、良寛さんが社会へ与えるものは、他人が勝手に良寛さんから感じているのであって、良寛さんが積極的に発信したのではありません。まさに何も成さない事に徹したと感じています。

「形見とて 何残すらむ
春は花 夏ほととぎす 秋はもみぢ葉」

何もいらないよ。何も持っていないよ。でも世界は美しい。無欲に生きれば変革に伴う痛みを受けず自分の心を安寧に出会えるという事です。どの英雄も出来なかった無欲の心を成し遂げた良寛さんの妻さです。これは陽明学の「至誠」にも通じるものがあるようです。論語にある

滅への覚悟と思っていたものは、再生への過程としての死だったのですが…そこに見えるのはリーダーシップのリスクです。危険を顧みず火中の栗を拾い、虎穴に入るリスクです。そこリスクを冒しても必ず手に入れるべき理想があるのです。）

君子は腹が減っても騒ぎません。

「君子固より窮す、小人窮すれば斯に濫る。」

この言葉は「窮しても（腹が減っても）君子は騒がないものだ。小人はすぐに心を乱してしまうのだ」という意味です。貧乏で食事も取れず野宿しながら諸国を放浪する一夜に孔子は弟子から「君子も腹を減らして死にそうですな」との皮肉を言われました。「困ったときに徳を忘れるな」と孔子は諭したのです。良寛さんも君子を実践した歌を残しています。雪が降って托鉢に行けない、今日食べるものも無く、腹を空かせても

「飯乞ふと 里にも出でず なりにけり
昨日も今日も 雪の降れば」

と慌てもしない良寛さん。孔子の言葉と良寛さんの言葉はスゴイと思います。

このことと私は大震災の後の日本人の行動規範を結びつけて感じます。

「この里の 桃の盛りに 来て見れば
流れにうつる 花のくれなゐ」

この春、被災地にも前橋にも、春は巡りくる。それは自然の節理であって誰かの意思で成すものではありません。めぐる季節に感謝して花々を迎えるばかりです。

リーダーは変化を急がない事です。

市長は、「市民を信頼し、職員を信頼していく、見守っていく」のです。
凍土の下に花の種があると信じて、光を、水を降り注ぎ続けることです。

なかなか良寛さんのような仙人のような境地には達しませんが、自らの性急な達成欲を抑えて、周囲に急激な変化を強いることはしません。

しかし気持ちを抑えながらもリーダーには暮らしを支える明確な志が必要です。新しい年度の予算は数字の行列ではありません。様々な暮らしを支える為に市民からお預かりしたお金です。どのような志を持ってこの予算を執行するか。私を含めすべての市職員に課せられた責任です。つまり責任を果たす為には力を籠める必要があります。力を込めなければ、道は開けない。

※ここまで書いて、「警察犬がワンワンと吠えても、ワンと優しく鳴いても同じです」と言った思想家・小林正観さんと富士見の山荘でお話をした時の会話を思い出しています。政策の実行や社会正義の達成に焦る私の言葉に「気負いを捨てて、政治をしたらどうか？」との示唆だったと解釈しています。その時の私は「俺なら出来る!」という我欲を持っていたのでしょうか、正観さんの言葉を理解出来ませんでした。やっと今ごろになって、正観さんの言葉は「こういう事だったのか!」と、おぼろに感じられるようになったのです。

「凍土に 眠れる種や 春間近」 りゅう

山本龍が考える「行政の正義」とは？

条例や規則は守らなくてはいけません。しかしそれだけが「行政の正義」ではありません。市民の暮らしに寄り添うには、規則順守だけでは出来ません。

前橋市が行う政策が新聞紙面に取り上げられる事は増えたように感じます。市政の取り組みが新聞に掲載される、雑誌社の記事になることは嬉しい事です。しかしそれが成果なのではありません。それらは「花」です。「花」が散った後に、市民が幸せを感じられる果実を実らせなければなりません。しかし最も大事なものは、「木の幹」です。幹とは市役所の職員がどれだけ市民を思って対応できるかです。その心が政策の基本にあるべきだと思うのです。「市民を思う」とは「行政の正義とは何か?」と問う

ことでしょう。私達市役所の法令順守とは、実は市民の為ではなく、役所の保身・逃げ口上になっているのではないかと法を乗り越える勇気が求められていると私は考えるのです。市民の暮らしに寄り添い、規則や法律を暮らしに合わせていきたい。そのことが最も「正義」に近づく道です。何時か大勢の方々が前橋市の果実を味わい、幸せを感じてもらえるように正義の木を育てていきましょう。私が正義の道を進めますように皆様からの厳しいご指導をお願いします。

2 章 医 療 ・ 福 祉

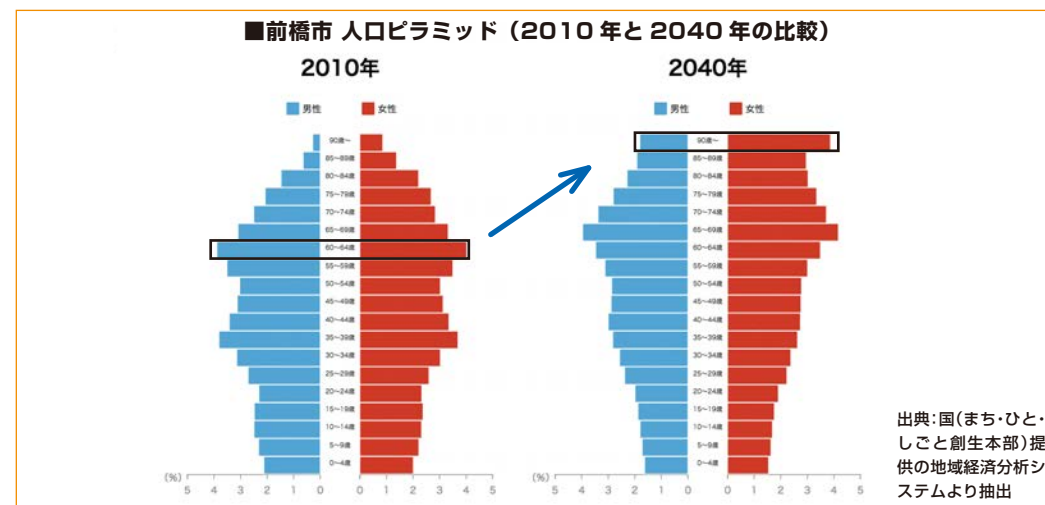
目 標 『健康寿命を伸ばして 生涯現役の街』

生涯にわたって住み慣れた地域で活動できる健康都市を作りましょう。前橋は、全国でもトップクラスの健康寿命を誇ります。もっともっと伸ばしましょう。皆さんも健康増進に取り組んで下さい。市役所がその応援をします。

健康医療都市

前橋市の人口予測を見れば判る未来への備え。

この現役世代減少が突きつける人口のグラフをご覧ください。前橋市の2010→2040年の人口変化を予測したものです。2010年において60歳の女性人口が2040年の90歳代の女性人口に移動しています。90歳以上の女性の棒グラフの長さは女性の長寿を表しています。男性のグラフはそれほど大きくはありません。男性も健康寿命を伸ばせるはずです。さらに現役世代と子供世代は減少しています。これは前橋市だけの現象ではなく、東京、日本全体、さらには中国、韓国も含めた現象です。



この現役世代減少が突きつける課題とは

- 首都圏でも中韓台でも現役世代が減少
→「地域間格差」ではなく日本全体そしてアジアの地盤沈下
- 就業者総数の減少
→所得総額の減少→消費総額の減少の連鎖
- 税収減少→国の借金どう返す？
- 医療福祉介護の担い手の不足
- 空地・空店舗が郊外でも急増へ

などの深刻な課題の原因になるでしょう。

前橋市の人口の変化が起因する問題は高齢者の増加と働き手の減少です。この課題解決には「健康寿命を伸ばす政策」、「高齢者や女性が働きやすく、子どもたちを増やす努力」が必要なのです。

群馬の女性は健康寿命全国2位。もっと伸ばそう！

いくら平均寿命が伸びても、寝たきりでは意味がありません。誰もが健康で生き甲斐のある人生を過ごしたいと願っています。健康増進に頑張る市民のお手伝いをすることが政治の最大課題です。

健康寿命とは、健康上の問題がなく日常生活を普通に送れる状態を指します。厚生労働省の発表(10月1日)によると、2013年の国の健康寿命は、男性が71.19歳(対2010年比+0.78歳)、女性が74.21歳(同+0.59歳)です。全国の順位を調べてみました。「沖縄が一番だろう?」と思っていましたがなんと群馬県の女性が75.27歳で全国2位(1位は静岡県)。男性も71.19歳で全国10位です。

前橋市は平均寿命ではなく健康寿命の延伸を目指している。女性も男性も全国トップになれる健康と医療の環境が前橋にはあるからです。健康を守る市民自らの意志と努力を応援します。

下段の表は全国の健康寿命の順位です。高齢者の健康は前橋市の活力です。



健康寿命を伸ばす市の政策とは？

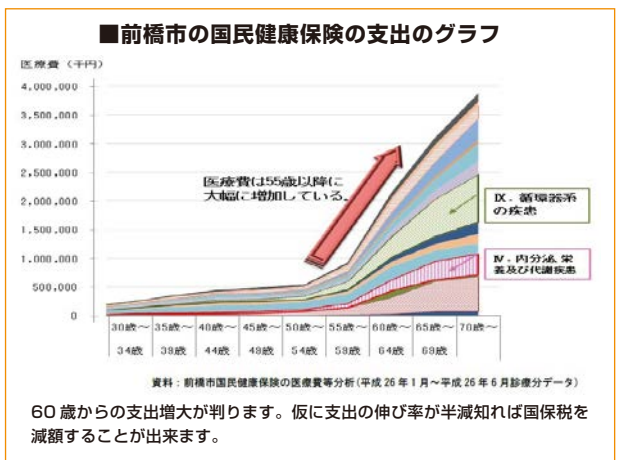
前橋市はいろいろな政策を講じて健康を応援しています。

- ①健康診断(歯周疾患健診も含む)の完全無料化
- ②後遺症によって運動障害が残らないように、救命救急を充実させる3次救急病院の拡充や救急車が呼ばれてから手術を受けるまでの時間(急患搬送時間)を26分への短縮
- ③妊婦の歯科検診の無料実施や子どもたちの将来健康を考えての特定ワクチンの段階的無料化
- ④口腔衛生を普及するために「前橋口腔衛生条例」も制定し、様々な口腔衛生の政策を実施
- ⑤活動量を計り、健康ウォーキング倶楽部やピンシャン体操などの機会を提供

しかし市役所の政策も限界があります。健康は自らの努力によって得るものです。そこで前橋市は市民のみなさんに呼び掛けています。

せっかく健診無料なのですから市民の皆さんは健康診断を必ず受診し、健康指導を受けていただき運動や早期治療に取り組んで下さい。救急車をタクシー代わりにせず、掛りつけ医に先ずは受診相談するように努めて頂くようにお願いします。日々の運動、食事、禁煙など皆さんが主体的に健康を維持しなくては医療費の抑制に力

を貸してほしいとお願いします。暴飲暴食で運動嫌いの結果、病気になって医療費を費やすことは、市民にとっても勿体ないのです。

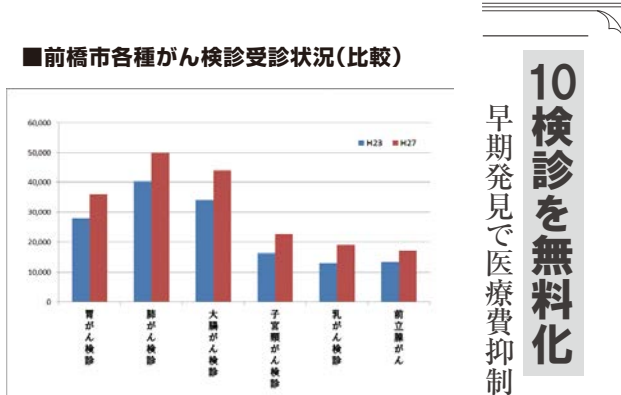


グラフは前橋市に国保医療費の支出です。60歳以上から急激に増加する医療費の伸びを半分にできれば10億円の国保支払いを減らすことが出来ます。つまり国保料金をその分減らせるのです。健康を維持することは市民の義務です。

ガン死亡率が前橋市では減っています。

平成24年から7億円の予算を組んで思い切ってがん検診の完全無料化を実施しました。予想通り、完全無料化によって前橋市ではがん検診率が伸びています。市民自らがご自身の健康を把握して健康を守ってほしいのです。

期待通り、今では中核市でも最高の受診率になっています。その結果、死亡理由のガンの割合が低下しつつあります。これからも早期発見・早期対応で健康でいる期間を伸ばすことが前橋市の目標です。



妊婦の歯科検診や歯周病の検診を始めました

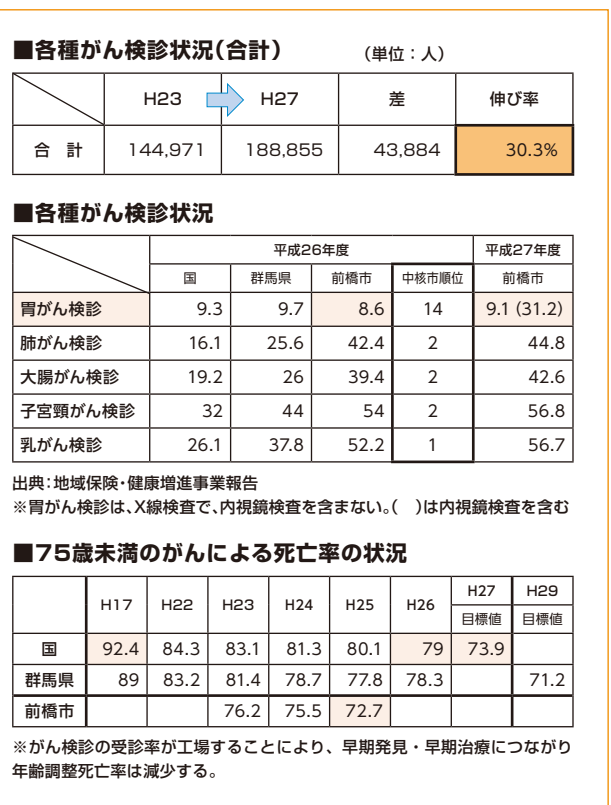
日本人が歯を失う原因の半数は歯周病です。前橋市はいろいろな角度で市民の健康を支えます。前橋市の「40歳歯周疾患検診」「50歳歯周疾患検診」「妊婦歯科健康診査」「後期高齢者(75歳)歯科健康診査」はお近くの指定歯科医院で無料にて受けることができます。この機会にご自分のお口をチェックしてみませんか？

妊娠中の女性は、つわりや食生活の変化などによりお口の中の状態が変化しやすく、むし菌や歯周病が発症しやすい状況にあるため、病気の早期発見、予防、および早期治療が大切になります。

また、むし菌はお母さんやお父さんの唾液を介して赤ちゃんのお口の中にうつることが分かっています。

※近年の調査研究によると、妊娠中の歯周病は早産や低体重児出産のリスクとなると言われています。

歯周病は自覚症状なしに進行する場合も多く、気がついたときには手遅れということにもなりかねません。「歯がぐらぐらする」「歯ぐきから血がでる」「口臭が気になる」などの症状はありませんか？ 重度の歯周病にかかっているかもしれません。また最近では、歯周病が全身の健康に及ぼす影響も明らかになってきています。



特定ワクチンの無料化がなぜ必要なの？

前橋市では結核予防のＢＣＧ接種や、４種混合、麻しん、風しん等の予防接種法に基づく接種については無料で行っています。また高齢者の肺炎球菌やインフルエンザ、おたふくかぜ、ロタワクチンについては市が一部助成を行っています。

近年予防接種の種類は増加し、平成25年度には、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチン、平成26年度には水痘ワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチンが定期接種になりました。さらに平成28年10月からB型肝炎ワクチンが定期接種になります。日常、私たちが生活している中には、さまざまな細菌やウイルスが共存しています。それぞれに対する抵抗力がないと病気(感染症)にかかってしまいます。ワクチンを接種することで、個人の

病気を予防したり、症状を軽くできます。

また、もう1つの効果として、接種をした人によって社会全体が守られる(集団効果)ということもあります。社会全体の免疫を高め、病気の流行を抑え、蔓延阻止に役立っています。つまりワクチンはご本人の健康を守り、且つ社会の病気の流行を防ぐ2つの目的があります。社会全体の為にワクチン接種の無料化を継続しなければなりません。

ロタワクチンとは、……

冬に流行する感染性胃腸炎の原因になるロタウイルス。ロタウイルスは感染力が強く、乳幼児から大人まで感染するリスクがあり、集団感染も起こりやすいのが特徴です。特に乳幼児には感染しやすく、重症化する場合もあるので、予防接種を考えている方もいると思います。ロタウイルス予防接種は任意で、費用はだいたい1回1万2千円～1万4千円程度になります。1ヶ月程度の期間をあけて、2回接種するのが一般的です。また、ロタウイルスの予防接種には接種期限があります。生後6ヵ月までに2回のワクチン接種を完了させる必要があります。これは、生後6ヵ月以後に予防接種を受けると、腸閉そくなど「腸重積」の副作用があるためです。したがって、生後6ヵ月までにスケジュールを組んでワクチン接種の準備をする必要性があります。

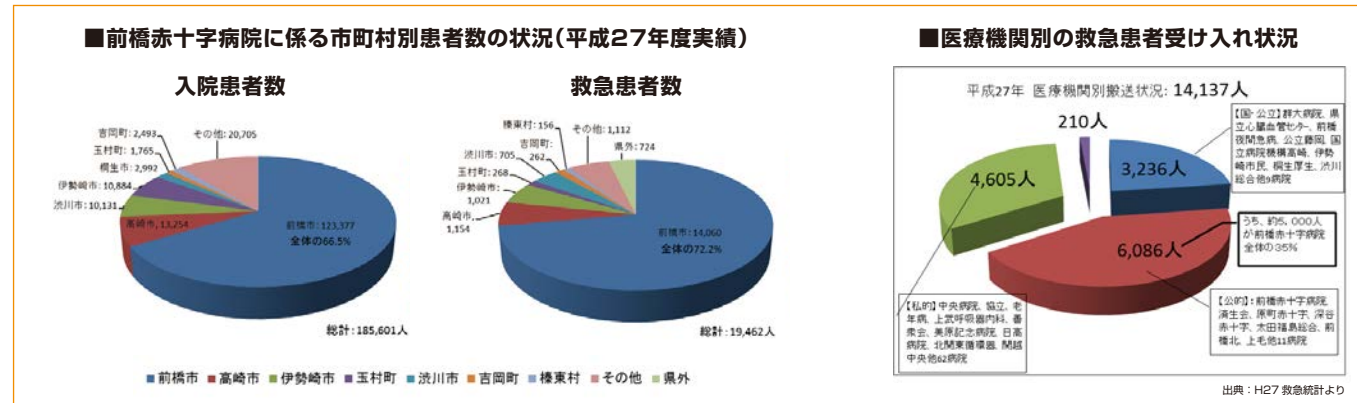
ロタウイルス 予防接種は必要！

日本では、ロタウイルス感染症による乳幼児の死亡はほとんどありません。そのため、「ロタウイルスの予防接種は必要なの?」と思う方もいるようです。しかし、他の病気に比べて重症化しやすく、ロタウイルス感染症にかかった約10%の乳幼児が脱水やけいれんなどで入院します。ひどい脱水症状によって脳炎や脳症などを発症し、後遺症が残る可能性があるのも事実です。ロタウイルスの予防接種を受けておくと、点滴や入院が必要になるような重症化を約90%減らす効果があります。リスクを減らすためにも、予防接種を受けることをおすすめします。

効果があるのは確かですが、ワクチン接種の費用は高いのが難点です。そこで前橋市では補助を行っています。重症化や後遺症などが残るリスクを考えれば、予防接種の助成のする必要性はあると思います。

日赤病院の新築に30億円も応援する必要性は？

3つのグラフからわかるように、日本赤十字前橋病院は前橋市民の命を守る拠点病院といえます。日赤前橋病院以外にも、済生会前橋病院、群馬中央病院、群馬大学病院、群馬県立心臓血管センター、老年病研究所、などの病院群が救命救急の砦として前橋市民を支えている医療都市です。それぞれの機能を強化することこそ、医療都市前橋の基礎を固めることと認識しています。

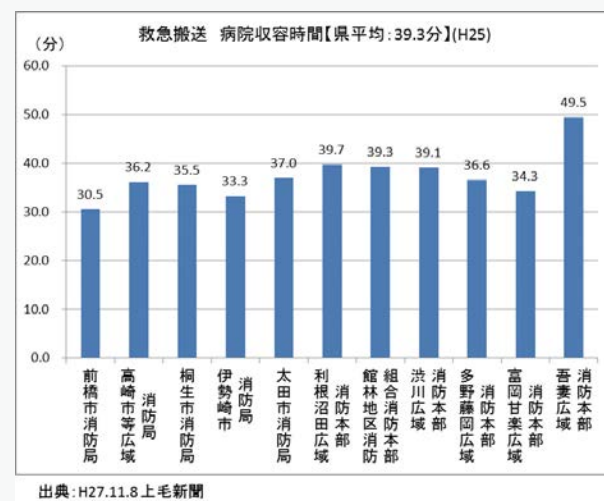


コラム 新しい日赤病院で前橋市の救急車がもっと早く

前橋市の南部、朝倉町の田園風景の中に大きなクレーンが何本も立ち上がっている様を見ると新しい医療の力が生まれと感じます。「医療健康都市まえばし」の大きな力です。**「救急車の搬送時間26.2分」**の目標に近づきましょう。前橋市・各病院・前橋消防が力を合わせて取り組んでいます。119番通報から緊急手術が行われるまでの所要時間26.2分が達成できれば、日本で最速の搬送時間となります。これによって助かる命があり、さらには重度の障害が残らないようにすることが出来ます。医療機関の少ない地域では助かる命も救えず、緊急手術までの時間が掛かれば半身麻痺などの後遺症が残る場合が多いでしょう。この救命救急の速さこそ、前橋市の安心であり誇りであります。**健康で元気に働き続ける前橋をつくりましょう。**

さらに前橋市の医療の力は、群馬県全体を支えています。県民にとって前橋市は命の砦なのです。さらには首都圏直下型地震などの災害時には、東京からの避難者にとっても命の砦となります。この医療都市を築き上げられた多くの先人に感謝を捧げます。(だからこそ現日赤病院の跡地利用も先人の意思を尊重してまいります。)

医療の恩恵をドクターヘリや災害対応によって前橋市以外の人にも提供する義務が前橋市には有る。それが県都前橋の役割であり、責任であると私は考えています。



高齢化をピンチではなくチャンスにする!

国の人口推計では、高齢化率は上昇し続け、子どもの人口数は減り続けていきます。超高齢化社会を迎えることは、間違いなく地域、そして産業界にとってはピンチなのです。では、超高齢化社会のピンチをチャンスにしてどう乗り越えるのか？その答えは「アクティブシニアの活躍促進」、次世代を創るための「包括的な子育て支援」の2つです。

少子化と超高齢化が同時に進行する状況は地域にとってのピンチです。

- ・医療費や介護費が増え財政が破たんする
- ・労働力の減少による人手不足
- ・消費する人口が減少し地域経済が縮小

この3つの課題を解決するには

- ・健康を維持し病気になること
- ・いつまでも元気に働き続ける健康を維持する
- ・子育て支援によってお母さんの就労を促進しかつ子供が生み育てられる
- ・地方移住の促進によって人口を増やす

この解決方法こそ「前橋の生涯活躍のまち計画」です。景気の3要素は「マネー循環」「雇用拡大」「生産性」です。元気な高齢者は知識や技能をもって働き続け、趣味にお金を使い、経済循環のエンジンになります。一方、病気の高齢者は医療費や介護保険を費やすだけです。高齢者の健康は社会の為にも、ご本人の幸せのためにも必要です。だから健康医療都市を目指す前橋市の取り組みは日本の社会モデルにならねばなりません。少子化・高齢化は日本中の自治体のために見本をつくる責任が前橋にはあります。

コラム 健康市民ウォーキング倶楽部って何？

前橋市で活動する医療・福祉の専門家の有志が立ち上げた健康指導です。活動量計を持ってウォーキングをし、健康指導を行います。医師による医療指導、作業療法士による歩行訓練などを行います。まずは中心市街地で健康指導ステーションを拠点に開始します。周辺には健康メニューを提供する食堂やカーブスのような室内トレーニング機能などが展開されるように期待しています。

さらには市街地以外にも公民館、各地の医療機関、介護施設、柔整医院などを中心にそれぞれの医療人材が中心に健康市民クラブの活動が広がっていくように取り組みます。

すべての市民が活動量計による健康データによって、「見える化」数字を励みにして自らの健康増進に取り組む前橋を作りましょう。

市民活動に参加するとポイントが貯まります。このポイントを健康活動にも広げたい



改善した健康指数でポイントをもらえる仕組みも検討中です。頑張っ健康になって医療費を使わない市民に僅かでもお返しします。今後も活動量計の活用や市民健康クラブによる健康づくり事業を推進し、健康寿命の延伸に取り組みます。

※前橋健康市民ウォーキングクラブは2017年春からまずは中心市街地にて活動を開始します。街中がウォーキングの人々で賑わうことも合わせて期待します。



健康ウォーキングで広瀬川を歩いてきました

前橋の生涯活躍センター(前橋版CCRC)とは??①

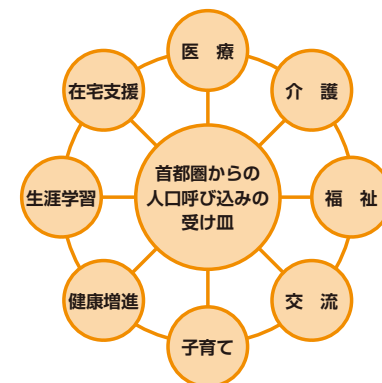
生涯活躍のまち構想(前橋版CCRC)とは？

前橋版CCRC構想は、全市域を対象に、「市民誰もが、住み慣れた場所で、生きがいを持って、生涯活躍できるまち」の実現を目指すものです。そのために、アクティブシニアだけでなく、特に子育て世代を中心とした人たちの移住を目指します。また、子育て世代の移住者だけでなく市民も利用できる、医療介護機能の提供拠点である生涯活躍センターを市内に複数設置し、既存の地域包括ケアシステムや子育て支援体制などと連携していこうとしています。

東京圏等からの人口移転、関連産業や雇用の創出、ICTの利活用、多世代交流などを一体的に進めることができ、前橋の健康長寿を伸ばせることが期待できます。日赤跡地を生涯活躍センターに変えれば旧市内の多くの高齢者が、ここから提供されるサービスを在宅で受けることができるのです。

私は日赤跡地に加えて、東西南北の各地域で地域在宅支援を行っている福祉医療の拠点到生涯活躍センター機能を付加することを進めていきます。そうすれば前橋のすべての市民が在宅での支援を受けられ、拠点の生涯活躍センターで医療や福祉介護、健康増進のサービスを受けられるようになります。これが私の「前橋版CCRC構想」つまり「生涯活躍のまち」です。

この9つの機能の集を前橋版CCRCと呼んでいます。



CCRC (Continuing Care Retirement Community)とは？

「生涯活躍のまち(日本版CCRC構想)」は、「東京圏等の元気な高齢者や中高年層(アクティブシニア)が、地方に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域」のこと。しかし前橋版CCRCは日本版CCRCに加えて移住住民だけでなく前橋全体を在宅支援できる仕組みです。東京をはじめ首都圏ではこれから大量退職時代を迎えます。当然、医療福祉の充実した都市への移住が増える筈です。彼らが培ってきた知識や技能を前橋市で活かす事を新しい社会力にしていけばいいのです。

	従来の高齢者施設等	日本版 CCRC	生活活躍のまち 前橋 CCRC
居住の時期	主として要介護状態になってから選択	健康時から選択	子育て世代から入居可
高齢者の生活	高齢者はサービスの受け手	仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加(支え手としての役割) 必要に応じてサービスを受ける	生涯活躍のまちの生活に加え、さらに多世代との交流を行い、 健康寿命を延伸 させる
地域との関係	住宅内で完結し、地域との交流が少ない	域に溶け込んで、多世代と協働	地域包括支援システムの新たな主体として、地域をリードする
機能と施設	施設が中心(一施設一機能)	多機能が集積	多機能が集積

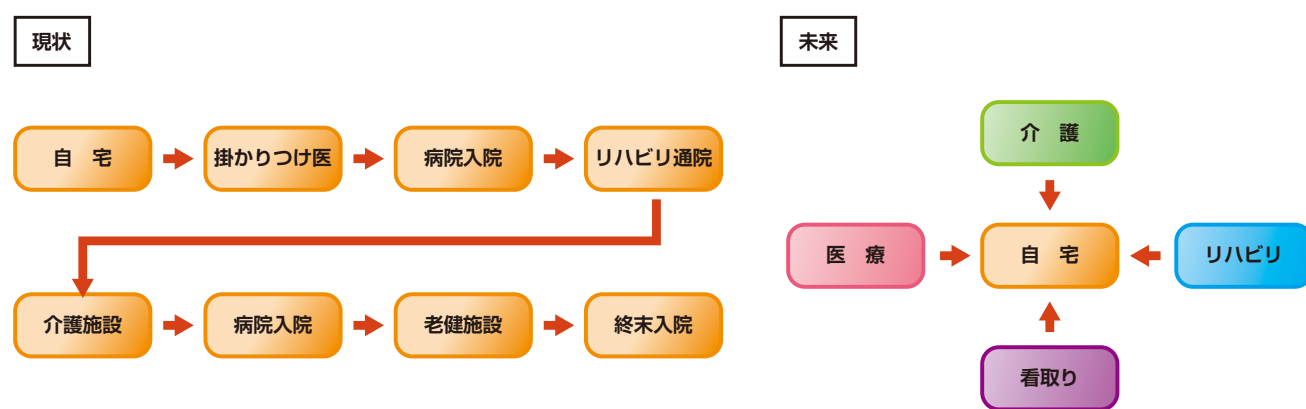
前橋の生涯活躍センター（前橋版CCRC）とは?? ②

「あっちの施設、こっちの病院、転院の連続」⇒自宅に居られる支援の仕組みに変えます。

人は誰でも老います。今の日本では「老い」は病院や介護施設を転々とする引越しの連続です。本当に必要なのは、家に居続けられる仕組みが生涯活躍のまち

なのです。

自分が入院や入所するのではなく、医療や介護が自宅に来てくれば、引越しをする必要はなくなるのです。



「行くのではなく来てくれる仕組み」こそ「地域包括在宅ケアネットワーク」で市民を在宅や地域で支える町の形なのです。私はこの拠点としての**生涯活躍センターを前橋市の東西南北中央に配置**していこうと考えています。

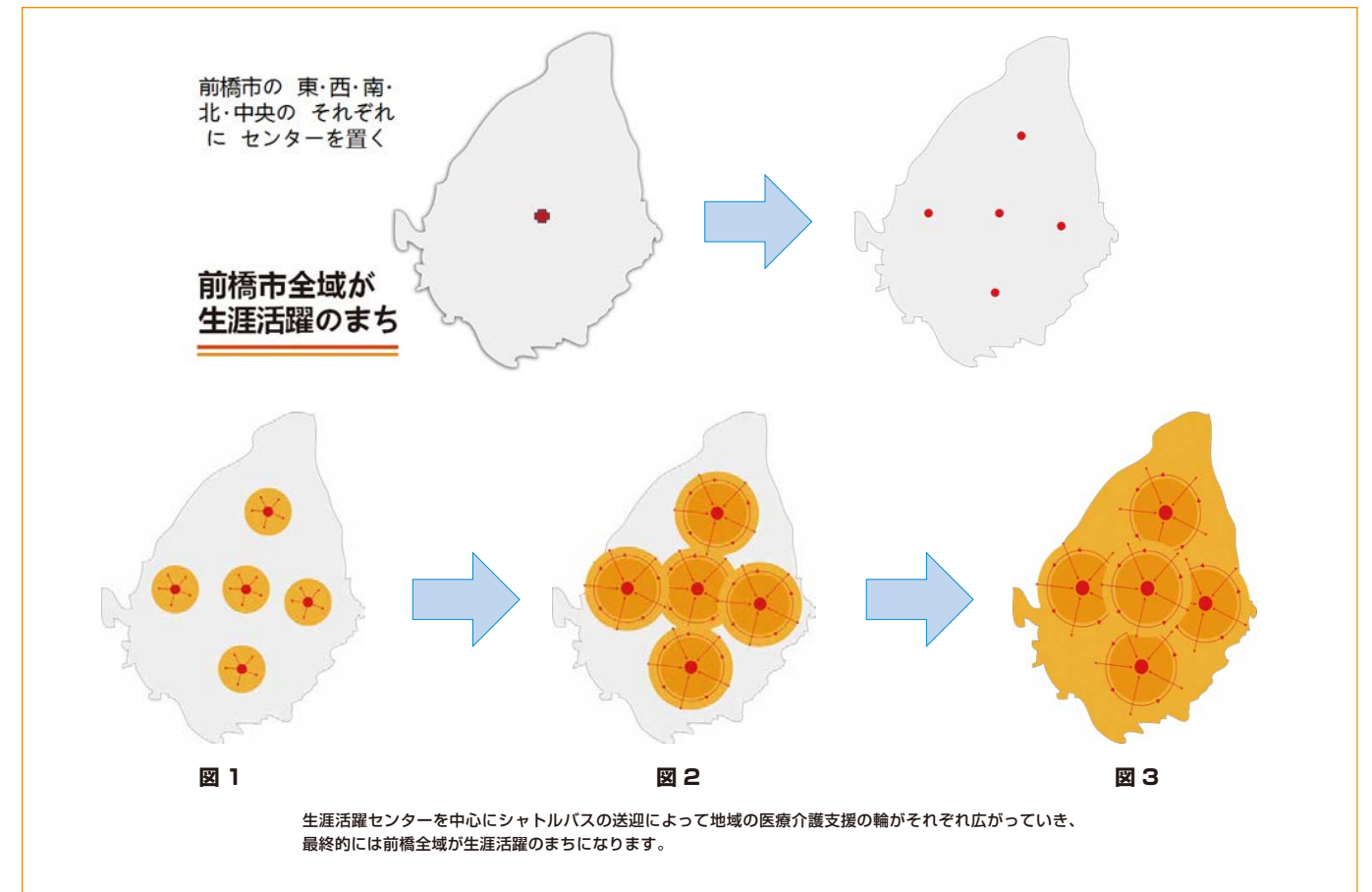
団塊の世代が75歳以上となる2025年に、各地域で実情にあった在宅支援（医療・介護・健康指導・リハビリ・投薬などの包括体制）を前橋市は目指しています。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。

前橋の生涯活躍センター（前橋版CCRC）とは?? ③

加齢に伴う健康変化に関わらず、最適な医療介護が受けられる高齢者の入居施設群と私は解釈しています。このCCRCに上記の在宅支援の仕組みを付加すれば、CCRC周辺へ高齢者在宅ケアを提供可能なのです。前橋のすべての高齢者に転居する必要のない在宅支援が提供できる。これが私の前橋版CCRCの完成形です。

この「周辺を支える機能」が前橋版では大切なところ。前橋版CCRC＝生涯活躍センター」を市内の東西南北と中央（日赤病院跡地）に開設し、それぞれの地域へ訪問サービスします。すると、例えば5か所の場合、それぞれが周辺を半径1キロの円を支えるなら図1になります。これが半径2キロなら図2に、そして5キロなら前橋全域の在宅や移動支援が完成します。吉岡町や榛東村、旧

群馬町、玉村町、新里や赤堀までにじみ出していくことでしょう。それが前橋市の健康医療都市の責任であるはずでしょう。



生涯活躍センターは公的な施設である必要はありません。地域で活動する医療介護を頑張っている皆さんが、同じ役割を担っていけばいいのです。新しい法人を開設する必要はありません。規模の基準もありません。

（入居者）＋（地域住民への包括支援）の2つを同時に提供する意思と能力のある方が担っていくものです。すでに江木町の病院の経営陣は新病院の上棟式において「本病院は周辺に対して包括支援を行う生涯活躍センターを目指す」と発言されています。それがこれからの医療・介護を担う方々の良心です。病院の皆さんは金沢市にあるCCRCである「シェア金沢」を視察されたとお話をされていました。

もう1つ大事な生涯活躍センターの機能で必須なのが、「長生き＋やりがいの時代への対応」です。なぜなら人は身体だけでなく、心も健康になって初めて生きる意味を感じられるのです。生涯学習機能や農作業など、指導者として活躍する場所が大切です。

そこで私は次の機能が必要だと提唱します。

- 高齢者が今までの人生で培ってきた知識や技能を活かせる場
- 高齢者が新しい学びや鍛錬から得た知識や技能を活かせる場

つまり、健康寿命まで担い手として働き社会を支える生き甲斐を得られる場です。ここは多様な人材の宝庫です。高齢であっても地域社会に貢献しようという善意の宝庫でもあります。この人材が前橋市を良き方向へ導いてくれるのです。

例えば・・・

- 東京で活躍したダンススクールの指導者が、この生涯活躍センターで前橋市民ダンス教室を主宰し入居者と地域の住民に対してダンス教室を主宰する。
- 東京の大学の研究者が前橋工科大で教鞭をとり、メーカーの技術者が前橋の金属加工会社に技術顧問として再就職して、ご自身の知識を前橋市に移殖する。

東京で培った力を老いや引退によって封印するのではなく、この地でさらに花を咲かせてほしいのです。定年や廃業がピリオドではありません。志がある限り社会にその力や知識を還元する責任が人にはあります。そのためには志を持つ人を迎えることが必要なのです。前橋市が多くの方の希望の地になることを私は目指します。志を持つ人にとって、前橋が第二の故郷になるのです。希望を前橋につくりましょう。人は命ある限り社会に活躍の場を持たねばならないのです。宝を眠らせてはなりません。

生涯活躍センターと市民の暮らしを結ぶバス

生涯活躍センターは健康増進の在宅支援を行います。この施設は入居者だけの天国ではありません。周辺に住むすべての市民にとって、健康や生き甲斐を提供する施設です。だからこそ通えるバスの提供が重要です。何故なら「移動」することが高齢者社会の一番の悩みだからです。「運転免許を返納した」などの人達が激増する社会では、移動の手段が必要です。

在宅サービスによって自宅で安心して暮らせる。たまにはシャトルバスでセンターへ通って大きなお風呂を楽しみ、器具のあるリハビリも利用出来る。スイコウスクエア（水戸市）には周辺の高齢者を迎えに行く巡回バスの仕組みがあります。これが重要なのです。

このバスを使えば、地域の市民のための日赤病院跡地利用ができます。健康食堂、地域の学童保育、子育てサロン、病児保育、障害者授産施設・・・広く地域の市民にとって暮らしを支える機能を担う施設になります。



水戸市で見学した施設は無料の送迎バスや路線バスのネットワークが整備されていました

なぜ日赤跡地に生涯活躍センターを設置するのか？

「日赤病院跡地には医療機能を残します」という約束を果たすうえで、跡地利用に生涯活躍センターを設置するのが唯一の解決策です。日赤病院は新病院で手一杯の状況です。日赤には良い病院を建設してほしいですから、前橋市がアイデアと実行力をもって約束を果たすために頑張るのです。

さて元々のお話をします。日赤の南部移転決定前に廻ります。私は県議会議員としてその決定プロセスに関わっていました。この過程をお話しないと私の本意は伝わりません。何故なら「前橋日赤病院の現在地で建て替え」の場合には「跡地は存在しない」からです。

日赤群馬県支部の長として、知事は日赤前橋病院の移転を決断しました。現在地である中川地区の皆さんに対して「移転後も医療機能は残す」と約束されました。知事と前橋市長も「日赤病院跡地の活用については前橋市、地元での医療・介護体制の核になりうるプランとすること」との方針をもって、跡地利用に取り組む事になりました。

一方、日赤前橋病院とすれば新病院の建設と運営に当たらなくてはなりません。跡地の利活用を担う余裕はありません。しかし日赤病院跡地を放置することは出来ません。前橋市にとって有効に活用すべきと考えるのは市長の責任です。「この跡地には医療機能を残す」地元の

方々との約束を守るためにも、単なる夜間休日診療センターだけではなく、地域の市民に対して訪問医療や訪問介護、リハビリ、訪問しての薬の指導など在宅支援を行うセンター機能としての可能性調査研究を、国から交付された費用で始めました。この研究の結果が「前橋版CCRC」です。はっきり言います。「夜間休日診療所設置」だけなら約束を果たしたことになるのではありません。この日赤が多くの方々の善意によって朝日町の建っている歴史を知れば、市長として責任をもって約束の履行を果たすのは当然です。

※この日赤跡地も含め前橋市全域に在宅高齢者の支援センターを併設する「前橋版CCRC 生涯活躍センター」を東西南北それぞれに配置していく第一歩のモデルが日赤病院の跡地の構想です。前橋にすでにある医療・介護の多職種の連携で地域市民の在宅での健康を守る仕組みのスタートです。

日赤跡にシニアタウン
施設集約介護
東京圏から移住促す

高齢者の移住が前橋市に財政を圧迫しないか？

いろいろな想定が出来ますが、財政への影響は以下のシナリオではすべてプラスとの評価です。シニアを厄介者ではなく、社会の担い手だという発想に転換すべきです。60歳で移住された方が仮に80歳まで経済の第一線で働いてくだされれば前橋市は財政的には得をします。前橋の健康維持の環境があれば多くの方が、要介護にならずに活躍し続けられるでしょう。介護にしないことで利益を得るポジティブな介護保険モデルを構築したいと思っています。

前橋市は高齢者の移住による経済波及効果の試算を民間委託により行いました。移住者数の規模や年齢層等に応じて次のシナリオで試算を実施しました。

①多世代まちなか移住:270人

移住意向アンケートにおいて、一都三県で1年以内に前橋市のまちなか移住を希望し、CCRCに関心のある単身者の需要を想定。

※算出方法

例) 男性25～49歳単身:2,239,254人（一都三県の同セグメントの人数）×0.29%(群馬県内に1年以内に移住希望あり)×21.88%(前橋市のまちなかを希望)×26.0%(CCRCに関心あり)×40%(希望者のうちの単身者の割合)≒146人。なお、男性50～69歳、女性25～49歳、50～

69歳についても、世帯構成に応じて同様に算出。

②多世代全市移住:560人

一都三県で1年以内に前橋市の全市域を対象に移住を希望し、CCRCに関心のある単身者の需要を想定。

③単身高齢者メイン移住:160人

介護施設を基本に、一都三県からの単身高齢者を受け入れるケースとして、水戸市に立地する医療介護施設の複合拠点である“水高スクエア”と同規模の施設（特養・老健・サ高住）を整備した場合の需要として160人と想定。

※なお、住所地特例については、①多世代まちなか移住及び②多世代全市移住は要介護認定者の5割、③単身高齢者メイン移住は要介護認定者の10割に適用するものと仮定した。

<参考>各シナリオの比較

		多世代まちなか 移住シナリオ	多世代全市 移住シナリオ	単身高齢者メイン 移住シナリオ
移住政策	政策実施期間	5年間	5年間	5年間
移住シナリオ	政策効果計算期間	50年間	50年間	50年間
移住者 属性	移住者数	270人 (54人/年)	560人 (112人/年)	160人 (32人/年)
	性別の分布	男：女＝7：2	男：女＝41：15	男：女＝63：37
	移住者の対象年齢幅	25歳～69歳	25歳～69歳	50歳～79歳
	移住者の最大 ボリューム層の年齢	45歳	45歳	65歳
	移住時の健康状態	50～64歳の5%が要介護認定 64～69歳の20%が要介護認定	50～64歳の5%が要介護認定 64～69歳の20%が要介護認定	健康者＝5割 要介護認定＝5割
	住所地特例適用割合 (特定施設入居者の割合)	要介護認定者の移住者のうち住所 地特例割合＝50%	要介護認定者の移住者のうち住所 地特例割合＝50%	要介護認定者の10割
	年間消費可能額	360万円	360万円	180万円

いずれのシナリオでも50年間に医療介護にかかる負担額よりも経済波及効果が上回る結果で、市内全体ですすめる「②多世代全市型」が最も効果が大きく、雇用の誘発や社会保険料収入、市民税収入等の効果もあることが判りました。

■前橋版 CCRC による経済波及効果資産

		①多世代 まちなか型	②多世代 全市型	③単身 高齢者型
経済波及効果と 市負担額の差	経済波及 効果(A)	73.2 億円	154.7 億円	22.0 億円
	市の医療介護費 負担累計額(B)	4.2 億円	8.8 億円	6.6 億円
	(A)-(B)	69.0 億円	145.9 億円	15.4 億円
その他効果	雇用誘発数	2,872 人	6,080 人	1,356 人
	社会保険料 収入	42.8 億円	89.8 億円	6.4 億円
	市民税収入	19.6 億円	41.5 億円	3.1 億円

コラム 水戸高校跡地の医療介護施設を見学しました

「水高スクエア」とは、水戸市の中心地にあった水戸高校の跡地に運営される民間の医療・介護・健康増進・地域への在宅支援の機能を備えた施設です。

北水会グループが運営する病院や介護施設、医療系の専門学校に加えて、保育園やフィットネスクラブ、レストラン等の機能が複合的に集積しています。つまり、高齢者の健康増進も子育ての機能もそして水戸市の在宅ケアセンターがある事で、この地域全体の市民の暮らしを支えている施設です。



※私は「障がい者の授産施設」を前橋版では加えるべきと考えます。このような複数機能が同一敷地にあることは、地域全体の安心につながっていくのです。

コラム サミエル ウルマン 青春の詩

この「青春の詩」の作者サミエル・ウルマンは前橋市と姉妹都市であるアメリカ、アラバマ州バーミングハム市で活躍した詩人です。第二次大戦終戦後、日比谷の占領軍総司令部にマッカーサー元帥の部屋の壁に掛けられていた詩として有名になり、松下幸之助をはじめ、多くの日本人に愛されています。ロバート・ケネディーがエドワード・ケネディーへの弔辞にこのウルマンの詩の一節を引用したことも有名です。

前橋市の田子和則氏がバーミングハム市、アラバマ州知事、バーミングハム市長、アラバマ日米協会会長の依頼を受けて、植物園の日本庭園に茶室を建設したのを契機に、以後、民間交流が盛んとなり1997年にはアラバマ日米協会から田子氏に「サムエル・ウルマン賞」が贈られました。この縁でサムエル・ウルマン記念館と前橋文学館の交流も開始。前橋市には「前橋青春の会」が設立され、市民の寄付金により「青春の詩碑」が朔太郎記念文学館の前に建設されました。

青春

サミエル・ウルマン 作山宗久 訳 角川文庫

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を云う。
薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、
たくましい意志、ゆたかな想像力、燃える情熱をさす。
青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇氣、安きにつく気持を振り捨てる冒険心を意味する。

ときには 20 歳の青年よりも 60 歳の人に青春がある。
年を重ねただけで人は老いない理想を失うとき初めて老いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、熱情は失えば心はしぼむ。
苦悩・恐怖・失望により気力は地に這い精神は芥にある。
60 歳であろうと 16 歳であろうと人の胸には、驚異に惹かれる心、
幼子のような未知への探求心、人生への興味の歓喜がある。

君にも吾にも見えざる駆通が心にある。
人から神から美・希望・喜び・勇氣・力の靈感をうける限り君は若い。

靈感が絶え、精神が皮肉の雪に覆われ悲嘆の氷に閉ざされるとき、

20 歳であろうと人は老いる。

頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、80 歳であろうと人は青春にして已む。

3 章 I C T

ICT 市民が便利になる スマートシティー

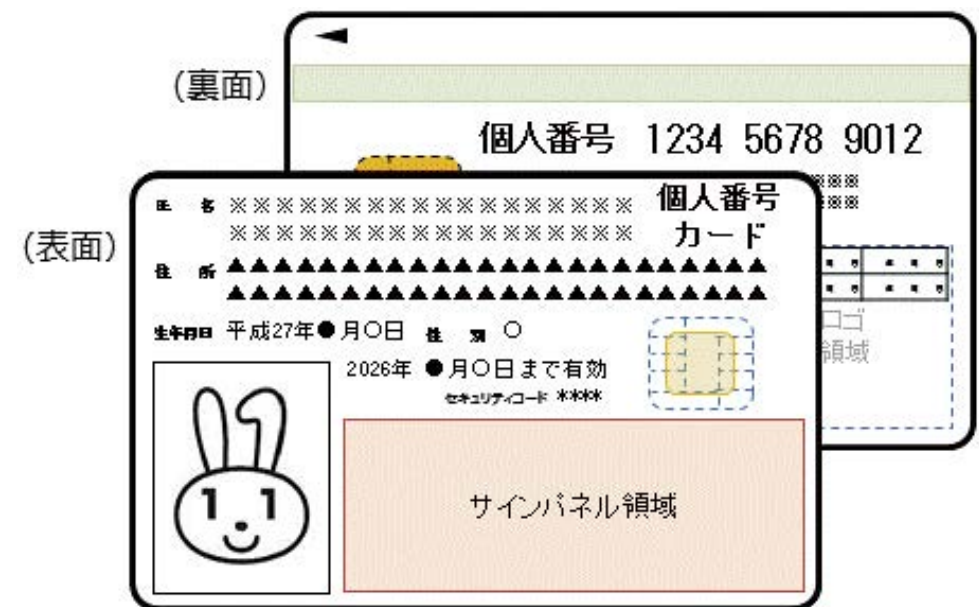
情報化を利用するコンビニでの証明書発行によって市民は便利になり、市役所の業務は減り、人員削減ができます。このような挑戦を行って、効率的な行政運営に努め無駄をなくすことは、政治家の責任です。10年後、自治体業務をより効率的にできると確信しています。

マイナンバーカードとは

マイナンバー制度で施行に伴い発行される身分証明書のひとつで、氏名、住所、生年月日、性別、個人番号(マイナンバー)、顔写真などが記載されています。また、これらの情報は付属しているICチップに記録されています。本人からの申請により、市町村長が個人番号カード(マイナンバーカード)を交付します。行政の効率化と市民の利便性の向上を同時に実現できるように、前橋市は全国で一番早く取り組んでできました。

マイナンバーはもとより、マイナンバーカードやマイナポータルが国民生活に浸透すれば、自治体サービスは劇的に変わると思います。ワンストップサービスはもちろん、集約したビッグデータを利活用することで、市民ひとり一人に適切な情報やサービスを提供することも可能です。人口減少に加え少子高齢化が進む中で、いかに効率の良い行政サービスを提供するか。それこそがこれからの行政の腕の見せどころだと思います。

マイナンバーカードは運転免許証と同じ、写真付きの証明書です。



マイナンバーカードが健康都市をつくれます

もう何度も病院で検査をする必要はなくなります。マイナンバーと健康保険証を組み合わせることで医療機関の力を合わせる事が可能になります。前橋市は全国に先駆けてマイナンバーの普及と利用促進に取り組んでいます。

大病院、地域医療機関、薬剤師、看護師、柔整師、学校保健、介護、運動指導・・・これらの人材がネットワークを組んで市民の暮らしを健康面で支えていく社会を作るには医療健康情報の共有化が必要です。これによって大病院やホームドクター、消防局との連携で命が守れます。また包括在宅支援センターによる地域の健康推進や在宅ケアも推進できます。

想像してください。カード一枚にすべての医療データが入っています。大病院、地域の診療機関、薬局といった医療系機関と福祉サービス機関との連携をマイナンバーカードの利用によって進めることで、効率的な医療・介護提供体制を構築していく。大きなレントゲンのフィルムを病院から病院へ持ち歩く手間も要りません。特にレントゲンやMRIなどの診断画像の電子化による検査結果の共有は患者にとって有益です。何度も検査を受ける無駄がなくなります。行き倒れた意識不明の病人のマイナンバーカードを見れば、かかりつけ医も服用薬も確認でき、最適な初期対応が可能です。緊急手術も検査無しに可能です。健康診断の記録も保存し、運動の効果を比較検討もできます。健康指数が良くなればポイントをもらえる仕組みもできます。医療保険証として使えばこのカード一枚に健康情報や各種検診記録を入れることもできます。国に管理されるという反対意見もあります。所得が隠せないとの意見も聞きます。でも無駄やズルをしていないまじめな市民にとっては便利な仕組みです。

さらには、無駄な多重診療や多重投薬などの抑制もできます。たくさんの医療機関に通って手に入れた薬を勝手に販売して利益を上げる行為を防ぐこともできます。市民の負担で医療費を賄っている保険制度を使う以上、健康情報は個人のものだけではありません。公の利益になるようにするべきです。まじめな市民にとって、マイナンバーカードには不利益はありません。

現在、群馬大学医学部附属病院ではCTやMRIなどの画像データをクラウドに保管し、その画像を診療所などの医師が確認することで患者への適切な医療行為を実現するという取り組みを行っています。画像を確認する際、医師と患者の両方がマイナンバーカードによる公的個人認証を行うなど、セキュリティにも十分配慮しています。今のところ群馬大学医学部附属病院と市内数か所の

診療所で行っている程度ですが、より多くの医療機関に参加していただくことで、医療環境のさらなる充実につなげるのが目的です。カード1枚あれば医療機関や役所の窓口で用が足りる、そんな利便性の高い“医療のまち前橋”を実現したいと考えています。この取り組みは診療所にとってもメリットがあります。大病院の画像データ等をホームドクターが活用できるということは、個別に検査機器等を買わなくても済むからです。CTやMRI、最近ではPET検査など、高額な医療機器による検査が増えていますので、医療データを共有できることによる財政的なメリットは決して小さくないと思います。一方で、画像データを見ることができるということは、MRIの画像を見て「だいぶ良くなってきましたね」と言えるだけの判読能力が、ホームドクターにも問われることとなります。いずれにしても、医師も市民も市役所も健康を守るためにもう一歩の前進が必要です。



※情報は漏れないのか？

実は、この取り組みでも開示情報の範囲が議論になりました。今回の取り組みでは、マイナンバーカードを使って新たな情報を開示することは一切なく、あくまでも実際に患者さんにお見せした検査結果や画像データを電子的にファイリングして提供する方式で安全を担保します。

母子手帳のマイナンバーカード化の未来とは？

母子手帳も電子化し、赤ちゃんの頃からの健康記録、成人後の各種健康診断結果、治療記録などを切れ目なく記録する。それを活用して生涯にわたって健康指導を行えるようにし、健康寿命を伸ばしたいのです。このカードがあれば母子手帳の代わりに子どもの健康検診やワクチンの記録を残すことが出来ます。母子手帳を紛失しても記録が残っています。

そのほかにも前橋市では小中学校が保有する健康情報のデータ化と活用に取り組んでいます。有効活用するにはデータ化が鍵になりますので、今年度から学校のデータを電子化する事業を始めました。今までは、それぞれの学校が紙ベースで児童や生徒の健康情報を保管していましたが、今年度から新たに導入した校務支援システムにより、法定検診や学事報告などを電子化して保存することができます。すでに母子健康手帳に記載されている情報については、電子化していますので、今年度からようやく児童や生徒の健康情報も電子化されるわけです。

また、最近話題になっている風疹に関するデータですが、これについても蓄積しています。保健所に問い合わせただければ、データがある分については、いつでも情報提供が可能です。もちろん開示・提供に当たって、身分証の提示やマイナンバーカードによる本人確認を行うのが大前提です。

こうした様々な母子健康情報を一気通貫で見られるのが、母子健康情報サービスです。母子健康情報サービスは、自治体が保有する乳幼児健診、予防接種に係る情報等と、将来的には市内の産婦人科、小児科等の医療機関が保有する情報、それに学校が保有する健康情報を一元的に管理し、マイナンバーカードによって公的個人認証を行ったうえで、スマホなどにアプリをダウンロードすることで、閲覧が可能になる仕組みです。市販のアプリケーションにも似た仕組みのものが数多くありますが、このサービスが他のアプリと大きく違うのは、乳幼児期の定期健診の結果を市から提供する点です。そうすることで親の入力の手間を省くことができますし、結果の散逸を防ぐこともできるわけです。

ほかにも子どもの成長記録や子育て日記を写真で管理する、予防接種の予定日が近づいたら知らせてくれる

など、母子健康手帳を補完する便利な機能がついています。しかも母子健康手帳の場合、母親が持っているケースがほとんどだと思いますが、母子健康情報サービスであれば、同時に父親も祖父母もスマホで見ることができます。夫婦の連帯感の高まり、家族全体で子育てをするという意義の醸成につながるも期待しています。私も昨年娘の予防接種がようやく終了しました。予防接種の場合、スパンが長いのでどうしても忘れがちになり、私自身、「そろそろ接種の時期ではないですか」と、何度もかかりつけ医に聞いたものです。しかし、今後は予防接種の情報もスマホで確認できます。というのも、予防接種に関する費用を市が助成しているので、医療機関で予防接種を受けていただくと、医師会経由で請求が上がってきます。その情報をパンチ入力することで情報を蓄積しているからです。

将来は学校の歯科検診の情報をビッグデータ化することで、地域単位で虫歯の多寡を分析し、重点的に虫歯予防の指導が必要な地域が分かります。また、特定の個人を匿名にして経年で調査すれば、「小中学校時代に虫歯がほとんどなかった人は、高齢になっても元気な人が多い。逆に虫歯が5本以上あった人は、糖尿病に罹患する率が高い」といったことが分かるかもしれません。そういう数字によるリアルな現実を示せば、市民が積極的に健康を守る街になるはずですよ。

子どもの健診情報

マイナンバー活用

PC、スマホで確認

前橋市、来月から

医療以外にもマイナンバーカードの便利な利用法とは？

全国でもいち早く、コンビニで住民票の写しと印鑑証明書が取得できるサービスを始めました。発行手数料も市役所より100円安です。市民の利便性の 向上と行政の効率化を同時に実現できます。新年度は税証明まで拡大します。

2016年1月から、マイナンバーカードを利用して、全国のコンビニエンスストアに設置されているキオスク端末（マルチコピー機）から「住民票の写し」と「印鑑登録証明書」を取得できるコンビニ交付サービスを始めました。交付手数料を市役所等の窓口より100円安い250円に設定し

ていますし、早朝や夜間、休日にも利用できるので、ぜひ多くの方に利用してもらいたいと思います。コンビニ交付サービスは市民の利便性向上に資するのはもちろんですが、長期的に見れば窓口担当職員の削減など、行政側のコスト削減にもつながると考えています。

今後のICT社会に向けての取り組み

社会の便利なツールとしてICT技術を利用する事を私はためらってはいけないと思います。便利な道具は使い方で自分を傷つけることになってますが、それを恐れてばかりでは、社会は停滞してしまいます。情報化への恐れを乗り越えるためには、具体的な利便性を実感してもらわねばなりません。

例えば・・・

- マイナンバーカードを活用し、インターネットによる保育所の入園申請
- パスモを併用するマイナンバーカードでバスやマイバス、マイタクの支払い
- 金融機関の銀行カードもこのカードで代用することができる
- ボランティアポイントや健康ポイントをマイナンバーカードに貯め、お店で使えるようにすることで、お金の地域循環が生まれる

コラム マイナンバーカードが命を守る理由？

今年度から消防局の協力のもと、前橋工科大学が主体となって救急搬送時に患者のマイナンバーカードを端末にかざして、過去の病歴や服薬履歴などを読み取る実証実験を行う予定です。参画する医療機関の患者さんの中で事前に同意をいただいた方を対象に、前もって救急時必要となる医療情報を登録し、それを暗号化してサーバーに蓄積します。そして、実際に救急搬送された際、救急隊員と利用者のマイナンバーカードを専用アプリの入ったスマホなどにかざすことで、公的個人認証サービスによる本人確認が行われ、認証された時点で隊員が情報を閲覧できる仕組みです。これが実現できれば、意識不明の患者に対する救急隊の適切な応急処置が可能になるうえ、迅速な救急搬送にもつながると考えています。また当市では今、「平均搬送時間を26.2分以内にす」という目標を立て、様々な施策に取り組んでいます。なぜ26.2分かというと、中核市で最速の久留米市が26.2分だからです。前橋はあと3分短縮することが目標です。いずれにしても、既往症や投薬の情報、本人の希望する治療が瞬時に分かるので、スムーズに適切な病院へ搬送できると考えています。

前工大が実証実験
緊急時に情報閲覧
個人番号カードで管理

4 章 公 共 交 通

公共交通の未来 高齢化社会問の問題とは (答え:ズバリ移動の足です。)

高齢化社会の宿命は、車の運転をしない交通弱者が増えることです。前橋市も団塊の世代の高齢化に伴い、買い物や医療機関への通院の移動の手段としての公共交通の必要性が急拡大します。本年1月23日から開始したタクシーの補助制度「マイタク」も高齢者や障がい者、妊婦さんへの交通支援策です。L R Tも含め、あらゆる交通支援策を今後検討することは政治の責任であり、検討しないことは怠慢です。

また一方、外出支援の交通弱者支援とは反対にご自宅への買い物配達支援や医療、介護、福祉における自宅への訪問サービスの拡充によって自宅での生活を支援します。買い物、病院通い、高齢化とは外出困難者の増加を意味します。同様に、障がい者を持つ人も外出困難者です。妊婦さんや骨折して運転できない病人も一時的な移動困難者でもあります。

公共交通不便地域の解消に向け、マイタクの拡充や地域デマンドバス、交通システムの研究に取り組んでいかねばなりません。

マイタクとは？

移動困難者対策を目的に、タクシー運賃の一部を市が支援する制度。平成28年1月23日からスタートしました。登録できるのは、75歳以上の方をはじめ、障がい者や妊産婦、運転免許証を自主返納した方などの要件を満たしている方です。

登録者が1人でタクシーに乗車した場合、運賃の半額を市が支援（1運行1,000円を上限）、また、複数で乗車した場合は、1人につき最大500円を支援しています。（年間の利用上限回数は120回）。

なお、利用出来るのは市内のタクシー会社。午前7時か

ら午後6時まで利用が可能であり、乗車地、降車地のいずれか一方が前橋市内であれば支援の対象となります。

車の免許を持たない方やケガや妊娠によって車の運転ができない市民の足になると期待しています。

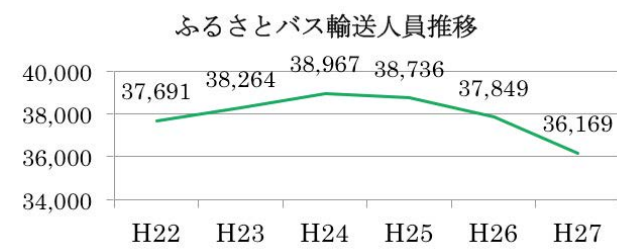
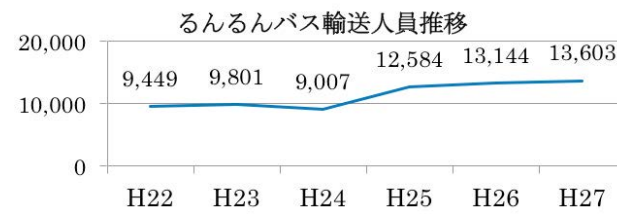
一方、出掛ける反対に、自宅にサービスが来てくれる制度が**在宅支援**です。買い物配達支援や医療・介護・福祉の訪問サービスの拡充により、自宅での生活を応援していく方向も充実させていく。「通院支援」も「在宅支援」もともに移動の支援につながります。



デマンドバスとは？

デマンドバスとは、通常の路線バスのように、決められた時間に決められた経路を走るのではなく、利用者の予約状況に応じて時間や経路を定めて運行するバスのことです。バス停方式をはじめ、自宅から目的地までドア・ツー・ドアの送迎が可能なタイプのものもあります。

前橋市では、**ふるさとバス（大胡・宮城・粕川地区）**と、**るんるんバス（富士見地区）**の2路線があり、ともにバス停方式で運行しています。利用する場合は、当日、予約センターに電話をして、乗降地や乗車希望時間を伝えます。利用時間は午前8時30分から午後7時まで。料金は1回につき、大人210円、小中学生100円。しかしそれぞれ、大胡宮城粕川の旧3町村内、富士見+南橋に一部の範囲内での移動しかできずこの運行エリアの拡大が必要です。



L R T (次世代型路面電車)とは

導入の話は、前橋でも何度かありありましたが、検討段階で立ち消えになっていました。群馬県の自動車依存社会では、受け入れられる環境ではありませんでした。しかし高齢社会を迎え、免許を返納する人もいて、車を運転しない交通弱者が増える今の時代にこそ、公共交通の必要性は高まっています。前橋でも団塊世代の高齢化に伴い、買い物や医療機関への通院の手段としての必要性が急拡大しています。それに対応する社会をつくらなければいけません。中心市街地における駐車場の乱立はまさに自動車通勤社会の象徴であり、都市の駐車場化は防ぐべき課題と考えます。

さらに上毛電鉄の車両は10年後に更新時期を迎え、多額の費用が見込まれるため、その際の上電の再生策としてL R T構想も含めて研究するべき課題です。しかし

国や群馬県の支援を受けても大きな費用が掛かることから導入の是非や敷設範囲などは需要調査をしっかりと行い、慎重に見極める必要があります。

予測検証のステップ

- 県や沿線市町村と連携して新年度に、J R前橋駅からJ R桐生駅を結んだ場合のニーズ調査を行う。
- 需要予測と同時に、需要を増やすための沿線に生活関連施設や住居を貼り付け、人口を増やしていくための都市づくりと並行して考え、進める必要がある。
- バスや前橋市近郊に交通乗りかえポイントを作り、郊外からの車の流入人口を乗りかえポイントにおいて公共交通へ乗り換えてもらう社会実験を進める。

交通ハブ(交通乗りかえポイント) パーク&ライド？

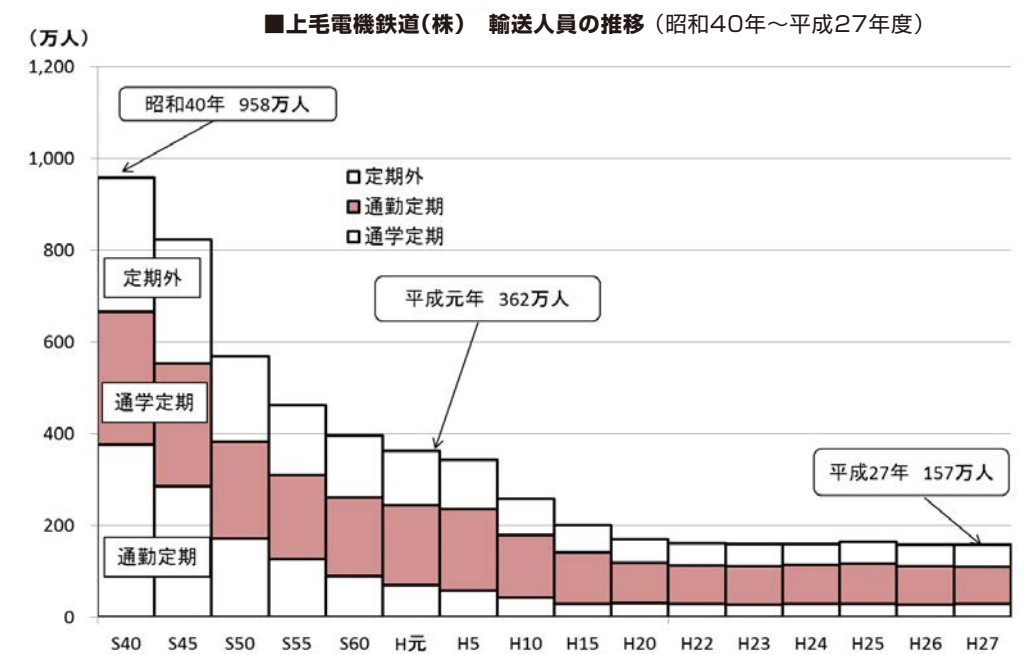
駐車場を整備する必要性は非常に高いです。例えば、前橋市に利根郡や吾妻など群馬北部から通勤する人にとっては、上武国道設置予定の道の駅が交通ハブになるでしょう。群馬県の西部地域からの通勤者にとっては西毛広域幹線道路のイオンやグリーンドーム河川敷駐車場を、南部はベイシアモール、東からは城南の運動公園などを交通ハブ化し、ここで自動車通勤から公共交通への交通乗りかえ(モードチェンジ)を行い、中心市街地の駐車場の混雑を緩和することを想定しています。

J R前橋駅北口にパーク&ライド立体駐車場の整備を進め、平成28年5月にオープンしましたが、今後は、J Rの前橋大島、駒形、新前橋、群馬総社、上毛電鉄の城東、片貝、上泉、赤坂、江木、心臓血管、大胡、北原、粕川、膳の各駅には無料の駐車場の拡充をすすめ、交通ハブ化を進めていきます。駅の周辺が田んぼでは乗降客は増えま

せん。鉄道沿線駅に周辺に人口を増やしていくことも必要です。

今後も、鉄道やバス等の公共交通機関と自家用車双方のメリットを活かすことができ、公共交通機関の利用促進にも寄与するパーク&ライド駐車場の整備を進めていく必要があります。その整備が進み、中心市街地の駐車場の混雑が緩和され、**市内の公共交通利用者が増えれば、その結果としてL R Tをはじめ輸送力の増強する街中交通の必要性が高まるでしょう。L R Tの議論はそれからでも遅くありません。**

上毛電鉄の鉄路も現車両の耐用年数の限度が来たとき、16両の車両を購入することが上毛電鉄の財政力で可能でしょうか？現在も上毛電鉄に前橋市、桐生市、みどり市と群馬県は毎年2億円の支援を行っています。公共交通を皆で利用して支えましょう。



自動運転へ群馬大学が実験開始！

ドライバーが自動車を運転しなくてもハンドルやアクセル、ブレーキが操作される「自動運転技術」。群馬大学はその実証実験を行います。群馬で研究を進め、技術力を高めるのが狙いですが、将来的には過疎地域などで高齢者を無人の車に乗せて送迎することも可能になるでしょう。

群馬大学は前橋市と連携して、前橋市が運営する市内の循環バス「マイバス」とJ R前橋駅と上毛電鉄中央前橋駅間のシャトルバスの5コースで、運転手がハンドルを握った状態で、車の屋根に取り付けたGPS(全地球測位システム)や全方位カメラなどで周囲の障害物を検出し、データを集めます。さらに異なる天候や季節での周囲の見

え方の違いや、夕日が差していても信号機を認識できるか、など実際に変化する状況についても情報を集めています。将来的には完全自動運転によってバスの運行を目指します。

国などは自動運転を4つのレベルに分類。ハンドルを握りアクセルやブレーキも時々操作するのはレベル2に定義されるが、群馬大学が目指すのは、人が乗ってなくても自動車を動かせるレベル4の実用化です。技術的には可能といいますが、道路交通法では公道での走行、実証実験は認めていません。今回の実験では、法律整備の進捗によって、レベルも上げていく予定です。

この技術の未来を私の知識で予想することは難しいです。レベル4での完全自動化が実現できれば、過疎地

域で、運転手なしで高齢者を病院まで送迎するといったことも可能になるでしょう。それは地方行政の抱える市民の外出支援の問題の多くを解決することになります。そして、それ以上にすべての公共交通を不要にしてしまうでしょう。車を所有するという概念すら変化させるかもしれません。何しろ自動運転なら、前の車を追い抜くことも、スピードを競う運転もできません。ハンドルも要りません。ソファァーが道路を滑るように一列に移動するのです。そうなれば、近距離移動に鉄道もバスもL R Tも要りません。生き残るのは遠くを早く移動する新幹線と飛行機だけです。だから自動運転の発展を見ながら、前橋市の公共交通のあり方を慎重に検討しなければなりません。

コラム JR東日本に知事、商工会議所会頭と直談判へ

前橋市の最大の課題は鉄道交通です。つまりJ R前橋駅の交通ハブとしての機能の弱さです。具体的には両毛線の本数が少ないことです

2015年、知事と曾我会頭と共にJ R東日本本社へ両毛線の複線化によるダイヤの改善を要望しました。しかし率直に言えば私たちの思いとは違う答えを受け取ることにってしまったのです。J R副社長の言葉は率直でした。「乗降客数2万以下の駅はJ Rにとっては投資できない」というものでした。つまり前橋駅は商売にならない駅だということです。

そこから前橋駅や新前橋、群馬総社、天川大島、駒形の乗降客数の増加に向かったの作戦がスタートしました。鉄

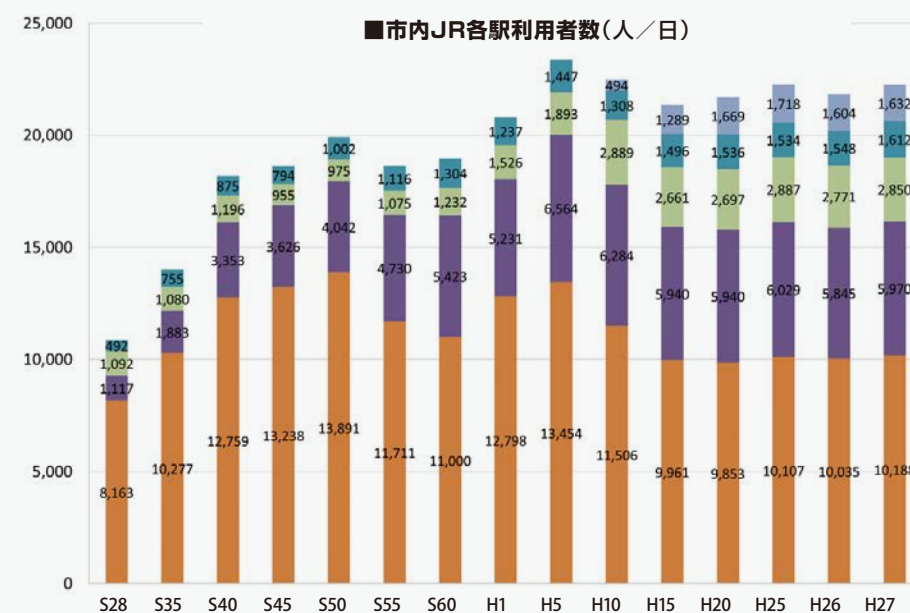
道を中心とする都市デザインです。

これが出来なければ両毛線複線化、湘南新宿ライン増便、東武線の前橋駅乗り入れなどの鉄道活性化は夢物語です。

<4年間で取り組んできたこと、今後の展開>

- 上毛電鉄中央駅～J R前橋駅の接続
- 鉄道駅周辺の人口増を目指し駅周辺の農地を開発
- 前橋駅前の再開発による定住人口増
- 学校や病院などの施設の駅付近への立地
- パーク&ライドの整備

などに取り組んでいます。群馬総社駅周辺の開発や駒形の共愛小学校、新前橋の駅前交番や駐車場・駐輪場の整備などが具体的な形になりつつある中、各駅の乗降客数が着実に増加してきました。再びJ R本社へ何う日が楽しみです。



目指せJ R前橋駅
乗降客数25000人

コラム 市営住宅のエレベーター

町を移動することが高齢者や障がい者、ケガ人や妊婦さんが苦勞するのと同じように、市営住宅の階段を昇降するのも困難です。市営住宅のエレベーター設置については、私の公約であり、初当選後から取り組んだ課題でありました。少しずつですが進んでいます。高齢化率や建物の立地条件、周辺の地区状況を考慮して設置順序を計画して対応しています。

ただし、既設市営住宅へのエレベーター設置工事では、エレベーター設置と併せて、居住者の通路や車椅子用のスロープなどの設置が必要となり、その計画地には、す

でに駐輪場や物置が設置してあることが多く、設置場所の確保が課題になっています。住民の理解を得ながら、限られた空間を有効活用し、駐輪場や物置を移設するなどの対応を図り、設置場所の確保を行っています。

また、既設市営住宅のエレベーター設置及び改修工事は、社会資本整備総合交付金事業として整備を進めておりますので、今後も財源確保に努めながら、積極的に整備を進め、既設住宅の質的向上を図っていきたいと考えています。

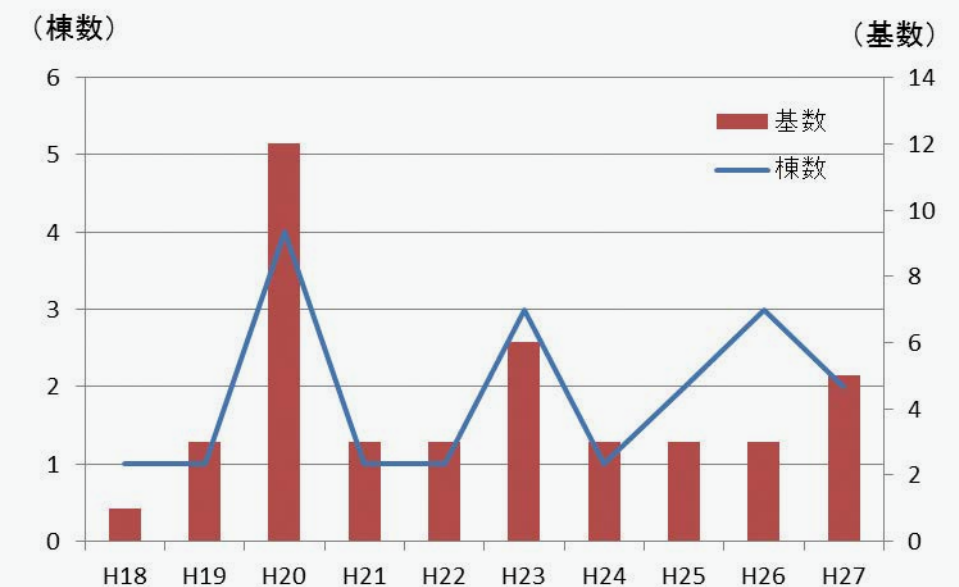
■市営住宅 5Fのエレベーター設置状況 (H28.10.01)

○平成27年度末現在のエレベーター設置状況

設置必要棟数	77 棟	必要基数	192 基
設置済棟数	19 棟	設置済基数	42 基
未設置棟数	58 棟	未設置基数	150 基

平成18年度から計画的に設置

■市営住宅 5Fのエレベーター設置状況



5 章
子 育 て前橋市の出生率、急上昇！
その理由は？

前橋市の合計特殊出生率の推移(1998-2013年)の折れ線グラフをご覧ください。大きく出生率が上昇しています。これは前橋市の子育て支援が成功している証明です。

ではどんな政策を行っているかをご紹介します。

■前橋市の合計特殊出生率の推移(1998-2013年)



財政が豊かな町もそうでない町もサービス水準の均一化は群馬県による財政支援によって実現できます。それこそが県の仕事です。私は都道府県という自治組織を市町村の広域調整機関と位置付けています。この機能によって、前橋市では平成20年4月より中学校卒業までの子供医療費の窓口での支払いなしを実現しています。本来なら市の予算だけでやるべき政策を群馬県が支援してくださった訳です。だからこそ、その浮いた財源がほかの子育て政策に使えるのです。

子供医療費の中学校卒業までの無料化

実は子どもの医療費無料化は私の知事選挙における公約でした。その政策が大沢知事さんによって実現し、群馬県内のすべての市町村の標準になっています。

全額を県が負担するのではなく、群馬県1/2、市町村1/2の負担で実施しています。総額で76億円ですから、群馬県で負担することは難しかったでしょう。仮に前橋市だけで負担すれば14億円ですから、これも難しいでしょう。私はこの県と市町村が半分ずつ負担するやり方を、素晴らしいモデルだと思います。

知事が新しい県民向けの事業を考え実行する事で、すべての市町村が恩恵を受けるのです。群馬県内のすべての自治体で同じサービスが受けられるようにするために市町村も負担するのは当然です。

ワクチンの負担軽減をする理由？

ワクチンによって多くの疾病の流行防止に大きな成果をあげ、感染症による患者の発生や死亡者の大幅な減少をもたらしています。

ワクチンによって生涯の病気リスクから守られていることは断言できます。子宮頸がんワクチンのように、副作用に被害が深刻な例もありますが、このようなワクチン禍への対応を政府に求めていきながらも、医学的には副作用リスクを差し引いても健康への貢献はあるとされています。

さて前橋市では、積極的に子ども達の未来への健康維持のためにワクチン政策を進めています。とくに高額なワクチンの場合、経済環境の違いによる病気リスクから回避できない事の無いように取り組んでいます。

■28年度 任意予防接種一部公費助成

種 類	対象年齢	助成額
おたふくかぜワクチン	1歳～4歳未満	1回のみ 3,000 円
ロタワクチン	ロタリックス	生後6週～24週(24週0日)
	ロタテック	生後6週～34週(24週0日)

■接種状況

おたふくかぜ	H25	H26	H27	H28	
対象者(1～3歳人口)	8,343	8,130	8,082	8,055	
接種者	2,054	1,574	1,869	900	(4～8月接種分)
接種率	24.61%	19.40%	23.10%	—	
ロタワクチン	H25	H26	H27	H28	
接種回数				1,622	(4～8月接種分)

第3子から給食無料化を条件付きで実施

全ての給食費無料化には14億円掛かります。給食費無料化だけが子育て支援ではありません。これだけに14億円も使っては、ほかの事業が賄えません。まずは条件付きで始めています。

「子育て支援」は「給食費の負担減」だけではありません。医療費・保育料・ワクチン・幼稚園、保育園・・・「発達障害児童、生徒支援」「不登校」「スポーツ」・・・やるべき課題はたくさんあります。

予算は有限です。だから政治リーダーは財源の中での事業の優先度を付けます。給食費全員無料化を実施するために、既存の他のサービスを廃止するか、市役所が財源を生む事業をするしか方法はありません。財源なき公約は虚構です。

もちろん、今後も子育ての負担軽減に取り組みます。そもそも給食費は今でも、半分は市の負担となっています。給食費は給食の食材費が父兄、給食を作る人件費などの経費は市役所で分担されています。さらには生活困窮世帯の子弟の給食費は無料になっています。加えて私は「義務教育在学の第3子の無料化」を行いました。今後もやり繰りしながら、対象範囲の拡充を行いたいと思います。しかし、無条件での全額無料となれば食材費14億円を市が負担することになります。どんなにやり繰りし

ても工面するのは厳しい現実があります。むしろ「もっと美味しい給食、地産地消の給食、伝統の食」を食べさせてあげるべきです。前橋市の学校給食で地元食材の占める割合は全国上位です。(野菜48% 豚肉約80% 牛肉・米100%) もっと安全で美味しい食事を提供する努力をさせていただきます

財政に余裕があれば「保育」も「給食」「医療費」も、全ての市民サービスの負担減が出来ます。しかし現実とは限りがあります。だからこそ単一政策の賛否の表明ではなく、政策全体の中でどの事業を優先するかを考えることが市長の責任です。

前橋市
第3子から給食無料
子育て負担軽減で

保育料の無料化を拡充しています。

市長へのアンケートの中で「保育料の無料化を(する・しない)」とよく質問されます。「なんでも無料化します」と答えたくります。でも政治は総合力です。一点突破は無責任です。私の正直な思いを書きます。

前橋市では子育て支援として現在第3子以降の保育料を無料化しており、今後も拡充していきたいと考えています。しかし、『第2子の保育料無料化』には更に10億円近いお金が必要です。ここまでの拡大は他の様々な事業を廃止しなければ不可能です。所得制限付きで第2子無料化などを検討します。

保育料の応援以外にも「お母さんを応援する子育て支

援策」はあります。それぞれに意味があります。切れ目のないバランスの取れた支援を行って子育て支援を拡充します。

単純に「保育料をどうする?」との議論で単一政策の拡充を問うのではなく子育て環境を広範に考えれば一点突破型の政治は危険です。私はバランスを考えながら子育ての負担を減らします。

例えば・・・

- ① 不妊・不育治療支援
- ② 幼稚園・保育園の待機児童ゼロも継続、学童保育の拡充
- ③ 発達障害児支援、不登校・ひきこもり対策
- ④ ワクチンの助成、健康診断、子どもの遊び場整備
- ⑤ 通学路の安全確保・・・

母子健康情報サービスって何？

ぜひ、保護者にみなさんに知ってもらい、利用してほしいサービスです。
来年から保育園の申請も電子化されて便利になります！

子育てにおいて、大切なツールのひとつであるのが母子健康手帳です。前橋市では、母下健康に関する情報を、インターネット上から見ることができる「母子健康情報サービス」の導入に向けて取り組んでおり、現在4年目となります。全国一の進捗度です。提供される情報は子どもの成長記録、予防接種の記録、お役に立つ子どもの月齢に合わせた情報です。パソコンやスマートフォンから、どこでも内容を確認できる。日々の成長の様子を記録したり、いざ必要な時にも利用したりできます。また、父親や祖父母も登録すれば共有できますので、イクメンのお父さんが増える事を期待しています。

市役所にとっても便利になります。子どもにかかわる情報については、現状、医療担当、保育園担当、教育委員会など市役所の内部でもバラバラです。子どもの成長に合わせて変わる市役所の窓口が一連に結ばれることに

なります。お母さんは複数の窓口へ問い合わせる必要がなくなります。個人専用ページの閲覧で、その場ですぐに確認することができるのは大きなメリットです。

将来的には、この枠組みをベースにして、小中学校の発育測定等の記録、社会人の人間ドックの結果、妊娠時の周産期医療システムの情報、高齢者の服薬履歴等、各ライフステージに応じた健康情報を集約することで、一生涯付き合える健康情報サービスを構想しています。

子どもの発熱など預けて仕事をしたい？

朝、子どもが発熱で誰にも預けられない！会社も休めない！困った！親なら誰も経験がある事でしょう。前橋市は突然の病児でも預けられる施設を済生会病院に委託運営していただいています。今後は新しい日赤病院を含

め前橋市内に配置する「生涯活躍センター」には必ず設置します。突然の子どもの病気に預けられる仕組みを拡充していきます。

「子育て世代包括支援センター」って何？

子育て世代への支援強化につなげるため、妊娠、出産、子育てにおける相談等をワンストップで実施する拠点として、保健センター2階窓口に「まえばし子育て世代包括支援センター」を設置し、切れ目のない支援に取り組んでいます。

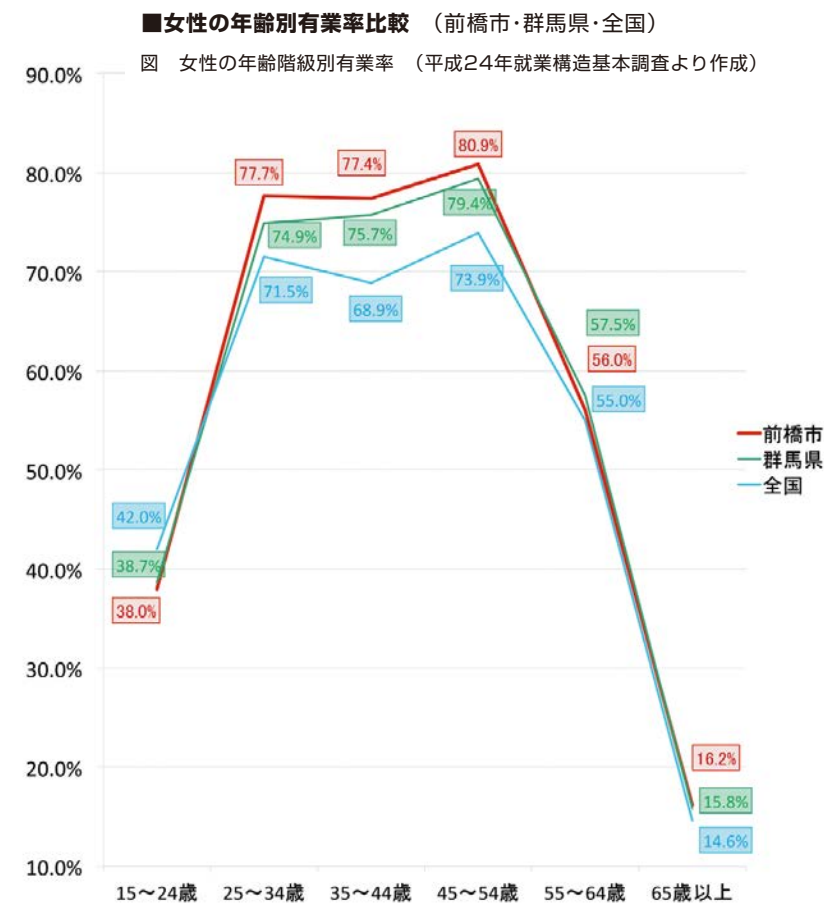
平成21年度に児童福祉部門と母子保健部門を統合した組織(現在の子育て支援課)を設置。以来、子育て施設課と連携して妊娠、出産、子育てにおけるさまざまな相談や支援を行い、国の指導に先駆けて「子育て世代包括支援センター」機能を果してきました。

県都まえばし創生プランに掲げられた位置付けも踏まえ、平成28年4月から保健センター2階の両課の窓口を総称して「まえばし子育て世代包括支援センター(まえサポ)」とし、新たに母子保健コーディネーター及び保育コンシェルジュを配置するなど支援の充実に取り組んでいます。



「M字カーブ」って何？

女性の労働力人口についてのグラフで、15歳以上から労働人口が増え、結婚・出産期にあたる年代(30歳前後)で労働人口が一旦低下し、育児が落ち着いた時期(40歳以上)に再び労働人口が増えていく…そして、65歳に向けてまた労働人口が減っていく…。というグラフがM字型をあらわしていることからM字カーブとよばれています。働くお母さんが子どもを預けて安心して働ける環境づくりが大切です。群馬県、得に前橋市ではM字カーブの谷がほとんどありません。前橋市のお母さんは子どもを預けて働ける環境にある証拠です。



子育て世代の女性就労への応援は？

前橋市を子育ての場を選んでもらうためには働いていても子育てがしやすい環境づくりが重要な要素です。前橋市では、子育てへの不安を解消し、妊娠から出産、育児に関する相談や支援のワンストップ拠点として「子育て世代包括支援センター」を設置したり、子育てママの再就職支援策の一環として、労働局と共催で、企業説明や保育施設の紹介、意見交換等を行う「子育てママと企業との交流会」を年2回行っているほか、「子育てママの就職面接会」も実施しています。

①放課後児童クラブの拡充

放課後児童クラブは、共働き家庭やひとり親家庭等の小学生が、学校の放課後や休業日に安全・安心に過せる場所を提供することにより、子育てと仕事等の両立ができるように支援を行う場です。平成28年度の設置数は61か所で、3,296人在籍しています。※小学校6年生までの受け入れを目指しています。

②「子育てママと企業の交流会」(年2回実施) (共催:前橋公共職業安定所)

子育て中の女性の再就職支援として、働く女性や企業の人事担当者を招いて交流会を開催しています。参加者に働く現状を認識してもらうとともに、働くことへの不安解消や、仕事と家庭の両立に向けた意識付けなどを図り、早期の就職活動及び就職へとつなげたいのです。企業担当者からの社内業務状況及び子育て支援の説明を実施後、グループにわかれ、各企業の担当者を囲んでの交流会を行います。

③「子育てママのための合同企業説明会」

前橋市では群馬労働局・群馬県・前橋公共職業安定所・前橋職業安定協会・前橋商工会議所が協力して取り組んでいます。

少子高齢化の急速な進展や団塊世代の引退に伴う労働力の大幅な減少が懸念される中、女性の労働市場への参加を促進することが一層重要となっていることから、女性が意欲と能力に応じた働きやすい職場環境を整備するとともに、出産・子育て等で離職した方への再就職支援を強化することが喫緊の課題です。

このため、子育てをしながら再就職を希望する女性に対して、合同企業説明会を開催し、企業の仕事内容や採用方法を知る場を設け、円滑な再就職の促進に取り組んでいます。

④「子育てママの就職面接会」 (共催:群馬労働局・群馬県・前橋公共職業安定所・前橋職業安定協会・前橋商工会議所)

子育てママと企業の交流会、合同企業説明会を経て、就職に直接結びつけるため、「仕事と子育ての両立」に理解のある企業40社(予定)による就職面接会を年度末に実施しています。

「産後ケア」って何？

産後のママの不安や負担を軽減する取り組みです。核家族化、地域のつながりの希薄化等により、地域において妊産婦やその家族を支える力が弱くなってきており、妊娠・出産・子育てに係る妊産婦等の不安や負担が増えてきている社会背景を受け、地域の特性に応じた妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を行うための事業のひとつです。退院直後の母子に対する心身のケアや育児サポート等の支援が必要です。

〈前橋市での取り組み〉

①出生連絡票による新生児聴覚検査の把握 及び産後うつアンケートの実施

今年度より出生連絡票を見直し、新生児聴覚検査結果の記載欄と産後うつアンケートを組み込みます。返信された出生連絡票により、育児不安や産後うつアンケートの結果対応が必要とされる方へ保健師が電話・訪問等で育児支援を実施。新生児聴覚検査の実施状況を把握し、未受診の方へは受診を勧奨します。

②新生児訪問の実施

産婦の希望に応じて、助産師及び保健師が訪問。

③医療機関との連携

分娩医療機関からの連絡による、訪問等の実施。ケア会議への参加等。

④こんにちは赤ちゃん訪問事業

保健推進員協議会へ委託し、生後4か月までの児を対象に全戸訪問実施。

【次年度(H29)予定[充実】

産後間もない母子支援の充実として、以下2件の新規取り組みについて準備を進めています。

(1) 産後ヘルパー派遣事業

産後も安心して子育てができる環境の充実を図ることを目的に、産後の支援が受けられない親子に対して、ヘルパーを派遣し育児・家事援助を行います。
派遣期間等:産後6か月以内、平日1日1回(20回を上限)2時間以内、利用者負担有。

(2) 新生児聴覚検査費用の一部助成事業

新生児聴覚検査を行うことにより、聴覚障害を早期に発見し音声言語発達等への影響を最小限に抑えるため、検査費用の一部を助成し、全新生児が検査を受けられるように保護者の負担軽減を図ることを目的としています。
現在、難聴の頻度は1,000人に1～2人と言われており、本検査費用3,000円～6,000円(金額差は検査機器による)が、全額保護者負担となっています。

不妊治療や不育治療の助成はどの様なものですか？

晩婚・晩産化の影響等により、妊娠したくてもできない「不妊」、または妊娠はするが流産・死産・新生児死亡などを繰り返し、子どもを持てない「不育」に悩む夫婦が増えています。

不妊・不育症治療にかかる夫婦の経済的負担は大きいことから不妊・不育症治療費の一部を助成することで、夫婦の経済的・精神的な不安を軽減し、もって安心して治療に望めるように支援しています。

〈前橋市での取り組み〉

(1) 不妊に悩む方への特定不妊支援事業(国1/2、市1/2)

特定不妊治療(体外受精または顕微授精)を行う方を対象に費用の一部を助成

(所得要件)	夫婦合算の前年所得の合計額が730万円未満の方
(助成回数)	① 39歳までの方 …………… 通算6回まで ② 40～42歳の方 … 43歳になるまでに通算3回まで
(助成額)	治療ステージA、B、D、E… 1回の治療あたり上限15万円 ただし、通算1回目の申請に限り1回の治療あたり上限30万円 治療ステージC、F …………… 1回の治療あたり上限7万5千円

追加助成(市単)	1回の治療あたり上限5万円(以下の条件①か②を満たす場合) ①通算1回目の申請で上記上限30万円の助成に該当しない場合 ②通算2・3回目の申請 男性不妊治療 …………… 上記助成に加え、上限15万円を助成 ※男性不妊の助成は、特定不妊治療のうち精子を精巣又は精巣上体から採取するための手術で治療ステージがA、B、D、E、Fの場合が対象。
----------	--

(2) 前橋市一般不妊治療費助成事業(市単)

体外受精及び顕微授精以外の一般不妊治療や検査に係る医療費の一部を助成

(助成額と回数) 当該年度において、一般不妊治療に要した医療費の自己負担額の2分の1以内で5万円を限度とし、通算して3回を限度とする。

(3) 前橋市不育治療費助成事業(市単)

不育症と診断され、治療に取り組んでいるご夫婦に対し治療費等の一部を助成する。

(助成額と回数) 1年度につき20万円を上限とし通算5年間、1年度あたり上限額まで複数回申請が可能。

5歳児就学前健診は何のために行うのか？

発達障害の早期把握の為にすべての5歳(3,000人)を対象に就学前健診をおこなっています。早期に発達特性を確認し、その後の成長を応援し、その子の個性を伸ばす教育を提供する体制も構築しています。

前橋市では子どもの発達の特性を理解することで、健やかな成長を促し、保護者の育児不安の軽減を目的に「5歳児就学前健康診査」をH27年からすべての5歳児を対象に行っています。

その理由はこの時期に、お子さんの発達の様子を振り返り、得意なこと・苦手なことを認識することは、日頃の子育てに役立ち、小学校生活をスムーズにスタートする上でも大切です。

《対象》

前橋市在住で市内の認定こども園・幼稚園・保育所(園)に通う年中児(健診実施年度に満5歳になるお子さん)

《実施方法》

保護者と園所の先生に質問票にご記入いただいた上で、保健センター等の専門職員が園所に伺い、お子さん

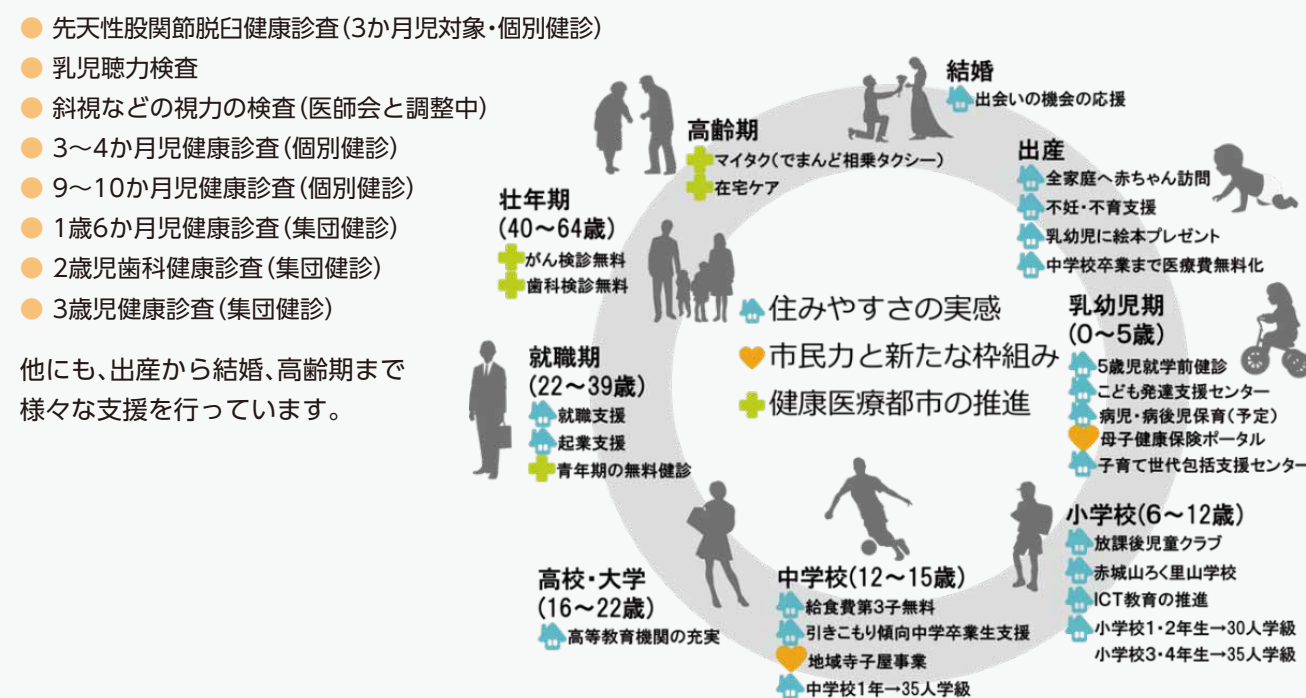
の様子を踏まえて、保護者の方や園所の先生と対応方法等について相談させていただく形式で実施します。

「なんとなく育てにくい」、「小学校に上がってから大丈夫かな」等のお子さんについてのご心配を一緒に考えさせていただきます。必要に応じて、個別相談や教室等をご案内しています。発達障害の支援を充実し、個性を伸ばせる教育支援を行う。発達障害、特別支援教育など個性に応じた教育の多様性を推進します。いろいろな意見がありますが、子どもの個性を早期に把握し、学校も保護者もそれを認識しながら成長を見守ることは大切です。

この健診をする体制も、把握した個性教育を提供する体制も前橋市の教育力だからこそ可能です。コツコツと取り組んできた前橋市教育委員会の努力があつてできる事です。

コラム 乳幼児健診が充実した前橋は子育ての街です。

前橋市は様々な子育て支援が充実した街です。全国に誇れる仕組みを紹介します。もちろん15歳までの医療費無料化は全国でも早期に取り組みしました。



他にも、出産から結婚、高年齢期まで様々な支援を行っています。

新たな結婚支援や伴侶に出会える応援は？

結婚が楽しくなるような見本として、私たちの世代の夫婦が笑顔で暮らすことが何より重要と考えます。「配偶者の悪口」や、「結婚しなければ良かった」などの愚痴を聞いて過ごした子どもたちが結婚に希望を持つはずはありません。

結婚・出産・子育てに関する市民意識調査(H27) では、20-34歳の若年男女の結婚希望は85%と高い一方で、現在結婚していない理由の第一位は「結婚したいと思う相手がいないから」(45%) となっています。加えて、結婚に向けて「特に取り組んでいない」人の割合は57%に上っており、これまで家庭や地域、職場等が果たしてきた結婚支援機能が低下し、結婚に向けた取り組みは個人で

対応せざるを得ない状況になっています。

こうした状況を踏まえ、現在、若者の視点で結婚に向けた取り組みを提言する「**前橋結婚手帳**」を作成し、来年度以降、市内在住・在勤の若者への浸透を図っていきます。

結婚に向けた障壁とその解決策をロードマップとして可視化することで、「結婚はお金がかかる」、「どうやって相手を探したらよいかわからない」など独身男女が持つ漠然とした不安を解消し、若者のライフデザインを支援します。

市も頑張りますが、まずは親世代のご夫婦が若者のモデルになってほしいと願います。

コラム お母さんを応援する企業の紹介

市役所ばかりでなく、前橋の多くの会社や事業所も子育て支援の面でサポートに頑張っています。今年、従業員のための保育園(事業所内保育施設)の設置・運営の費用を助成する「企業主導型保育事業」がスタートしました。複数の事業所が共同して保育施設を設置する場合でも助成が受けられる等、これまでよりも有利に事業所内保育施設の設置ができます。前橋市内にて子育て支援に取り組む企業・法人を一部紹介します。

◆群馬日産

女性活躍推進法の施行に伴い、一般事業主行動計画を策定し、女性従業員の増加に向けて採用パンフレットやホームページの見直しや、入社後の定着率向上のためのフォロー体制の見直し等を行っています。また、社員が利用できる企業主導型の事業所内保育施設について、平成29年4月の運営開始に向けて現在助成金の申請や改修工事を進めているところです。

※産業政策課の「前橋市企業主導型事業所内保育施設設置促進補助金」申請予定

◆大胡至聖会(特別養護老人ホームこうふく園)

介護施設という女性が多く、勤務形態も様々な職種であることから、従業員のために企業主導型の事業所内保育施設を設置するため、現在、国の助成金交付決定を受け建築工事中です。建築完了後、今年中(H28年11月中旬予定)に運営開始予定で進めております。

※産業政策課の「前橋市企業主導型事業所内保育施設設置促進補助金」申請予定

◆群馬大学

2,200人が勤める医療従事者の約6割は女性という群馬大学医学部附属病院は、9年前に病院内の保育施設として病院勤務の方が利用できる「ゆめのご保育園」を設置しました。この保育園は、病児、病後児も預けることができます。

企業内の保育は送迎の負担が小さいことや早期の職場復帰ができ、女性が働き続けられる意味は大きいです。このほか群馬大学キャンパスの「まゆだま広場」での相談や交流等により、子育て中の教職員や学生を支援しています。

◆群馬ヤクルト販売

女性販売員の正社員化を積極的に進めて群馬ヤクルト販売さんは特に女性の働きを応援する企業です。32年前から事業所内託児所を設け、キッズルームごとに保育士を置き、1才からの子どもを、朝の8時から午後4時半まで受け入れています。また夏休みには小学生も受け入れ、学童クラブのような役割も担っています。

コラム 子育て中のお母さんたちと意見交換をしました。

子育て中のお母さんたちと意見交換を行う機会を頂き、たくさんのお話を伺ってきました。〈詳細は以下〉お子さんやこれから生まれてくる我が子にありったけの愛情を注いで育てていこうという真剣な様子を見て、有り難いと感じます。同様に、子育ては社会の役割でもあるはずです。「保育所の預かり時間の拡大」や「放課後児童クラブの6年生までの受け入れ」など市役所の責任でもあります。夫婦、家族、地域、社会が助け合って乗り越えていきましょう。

意見一覧

【保 育】

- 開所時間を7時に前倒してほしい
(公立保育所は7:45～、始業時間の兼ね合いで入れられない)
- 保育時間の夜間延長(例えば21時まで)
※熊谷市では、学童保育と併設しており合流できる体制あり
- 学童保育を6年生まで拡大
- 病児保育の手続き改善(事前申請、医師の診断書)
- 病児病後児保育の増設
- 夏休みの一時預かり
- ファミリーサポートセンターの改良
※徳島市「ママの安心ヘルプ事業」は、生後1年まで、1回500円で2時間まで、家事、育児を手伝ってくれるサービスあり
- 子どもを保育園に入れてから求職することができない
(入所要件の厳しさ)

【就 職】

- 在宅勤務の推進
- 復職プログラムの提供
- 企業マインドの醸成
- 就職活動時の託児対応

【環 境】

- あらゆる世代が一日過ごせる環境
(公園、イベントなど)
- 公園遊具マップ
(鉄棒、壁当てなど設備・場所の一覧)
- 公園のトイレをきれいにしてほしい
- オムツ替えスペースの提供
- まちなかでの子育てサロン
- 児童館での飲食許可、駐車場整備

【検 診】

- 3歳児検診での視力検診機器導入
- 宇都宮市と比較して、ソフト面を充実してほしい
(1回あたりの検診の人数を減らす、公民館単位での実施)
- 母親へのケア
(検診場では保健師から画一的な質問ではなく、母親の話を聞いて欲しい)
- インフルエンザワクチン助成

【啓 発】

- 講座の機会を増やす
(父親に訴える、母親として勉強する機会の提供、子育ての平均値を上げる)
- 父子手帳
- イクボスの情報発信

【そ の 他】

- 特技や実力のあるママの活用
(コミュニティビジネスの創業支援)
- 里帰り出産支援
- 学区の弾力化
(児童数に合わせて柔軟に学区編制を)
- 第3子給食費無料化の要件緩和

6章 社会はひとつ

障がい者 引きこもり ニート 留学生

誰もが社会の一員として支え合う街を目指しています。
暮らしは一人一人違います。しかし社会はひとつです。
前橋市民という大きな仲間に支えて支えられるのです。
今、社会が個に分断されてしまっています。
繋がりあう社会にする第一歩は市政への信頼です。
優しい市役所を作ってまいります。皆さんが手を伸ばす勇気を持ってください。

障がい者を雇用する特例子会社って何？

障がい者雇用を進めるための制度です。従業員50名以上を擁する会社は、そのうち障害をもっている従業員を、従業員全体の2.0%以上雇用することが義務付けられています(重度障がい者の場合は2名として計算される)が、特例として会社の事業主が障がい者のための特別な配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、その子会社に雇用されている障がい者を親会社や企業グループ全体で雇用されているものとして算定できます。このようにして設立、経営されている子会社が、特例子会社です。

現在、前橋市は、障がい者雇用を目的に特例子会社を設置しようとする法人への支援を行っています。「生産ラインの中には難しい」と諦めている経営者の皆さん、生産ラインの中で障がい者が働くことは能率の観点から難しい場合があり、作業の安全確保という課題もあります。そこで障がい者の特性にあった作業をだけに特化した子会社を設置し、その障がい者雇用を本社の雇用義務にカウントできれば、親会社にとっても働く障がい者にとっても

有益です。そして安定した障がい者雇用が可能です。
左記の3社ではたくさんの障がい者が社員として活躍しています。
親会社とまったく違う業種でいいのです。例えばメガネのJINSさんが設置した特例子会社“ジンズノーマ”はメガネの販売ではなく、農作業等の受託です。

前橋市は障がい者の雇用を目的にする会社を子会社として作った場合、その初期費用の一部を補助しています。



- 【参考：前橋市内の特例子会社】
- ・株式会社フレッセイヒューマンズネット
(親会社：株式会社フレッセイ)
業務内容：鮮魚・食肉の仕分け・パック詰め・包装
雇用している障がい者：11人
 - ・株式会社セントラルリリーフ
(親会社：株式会社セントラルサービス)
業務内容：データ入力、印刷、受付、封入・封緘・発送代行、清掃等
雇用している障がい者：14人
 - ・株式会社ジンズノーマ
(親会社：株式会社ジェイアイエヌ)
業務内容：農作業の受託
雇用している障がい者：24人

※補助対象事業費の2／3以内で上限500万円

「引きこもり」を学校に復帰させるODSって何？

ODSは「オープン ドア サポート」の略です。引きこもった子ども達が部屋のドアと、学校のドアも開けて教室に戻って来る応援をする仕組みのことです。前橋市教育委員会の独自の取り組みです。

担任の先生が生徒や児童の自宅まで迎えに行く時間はありません。その時間を作れば、ほかの生徒は教室に放置されます。だから専門組織が必要なのです。保護者と担任教師と連携して独自に当該生徒児童に向き合えるODSのスタッフが引きこもりの子どもを学校に復帰させてきました。全国が注目するモデルです。

H27年度からODS事業は中学校の卒業生の引きこもり生徒の応援まで拡大しました。中学校を卒業して高校へ進学しない、就職もしない中学校卒業性をサポート

して自立へ導いていきます。通信教育での高校卒業認定や就労などへ進んでほしいと願います。

ある意味、お節介ですが、引きこもったままでは社会が支えることになります。引きこもりやニート、みんなの個性にあった仕事が見つかる街にしていきます。

不登校中学生の支援 拡充

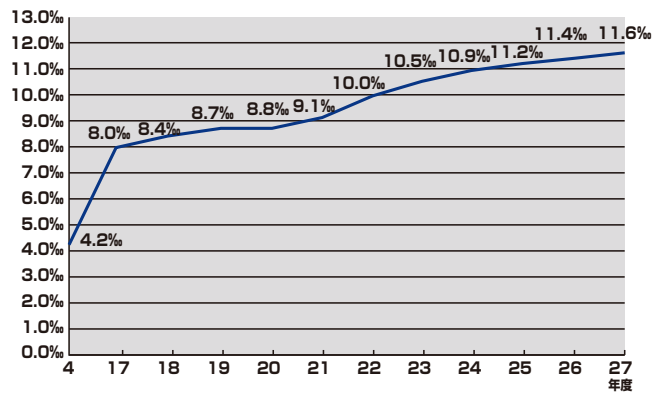
前橋市 新年度から



保護制度の実態

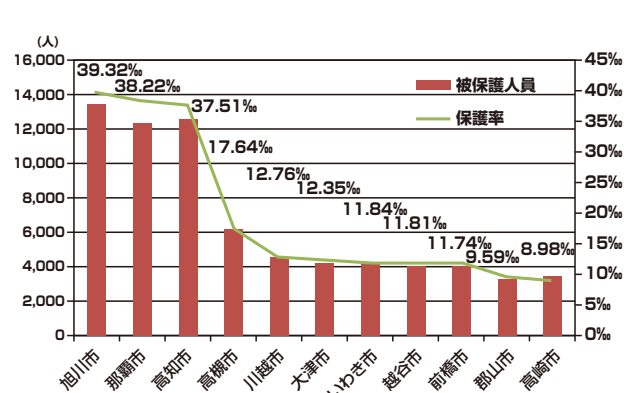
保護世帯が増えています。景気の変動は子どもたちの暮らしに現れます。だからこそ経済の格差が子どもたちの暮らしに直結してなりません。しかし残念ですが、保護世帯は前橋市においても増加傾向にあります。

■保護率の推移



※保護率 % (パーミル) 人口千人のうち、どれだけの人が保護を受けているか、千分率で表示する。

■中核市(人口規模が同等の都市を抽出) H28.4現在



Mチェンジ?

経済困窮の子供への学習支援のことです。

貧困の連鎖解消に向けた高等学校等進学支援の一環として、生活保護世帯及び経済的 困窮状態にあるなど養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭に育つ中学生に対して学習支援等を行い、社会人講師や地域の教師OBが子供の補習を行っています。【Mチェンジと呼んでいます】

M-Change
エム・チェンジ

高校進学に向けて頑張る中学生を応援します

学習意識の向上や人間的な成長を図り、将来の進路選択の幅を広げるとともに、健全な育成に資することを目的に①総合教育プラザ、②総合福祉会館、③南橋公民館、④桂萱公民館、⑤上川淵公民館、⑥元総社公民館にて平成27年6月1日からスタート。午後7時15分から午後8時45分までの90分間で、英語・数学を中心に共愛学園前橋国際大学の大学生が指導してくださっています。参加生徒の募集は、各中学校を通じて行います。

○平成26年度モデル事業アンケート結果

- ・参加生徒の意見:
M-Change に楽しく通っている…70.9%
- ・保護者の意見:
平成27年度も M-Change に参加させたい…100.0%
- ・担任の先生から:
自分から勉強するようになった…31.8%

7章 教育

—子どもと教師が 抱きしめ合う教育—

導けば花開く子どもの夢がある。だから教師に子どもと触れ合う時間が必要なのです。教師に子どもを見つめる時間を作ることがその一歩です。

佐藤先生を中心に教育委員会は教育の現場を支えていくことを常に考えています。彼らの努力が実を結ぶことを期待しています。教師と子どもの向き合う時間を作らなければならないという思いです。すべての政策が教師と子供のふれあう時間のためにあるのです。

そして子どもたちに愛されている記憶を残してあげたのです。愛された子どもは愛する事を知ります。愛された事を知らない子どもに誰かを愛する事は出来ません。家庭が…学校が…社会が子ども達を愛していこうと力を合わせて参りましょう。

教師が子どもを抱きしめる教育にあるのは「愛された子どもは、社会を愛する。愛されことのない子どもは社会を愛せない」という思いです。優しい気持ちに包むように子どもを社会へ送り出していこう。今の時代、大きな格差の中で子どもたちも不安の中で生きています。子どもを抱きしめてあげる時間の余裕を教育の現場に復活することが教育再生の要です。

何故教育委員会に任せるか？

政治家は市政のすべてに口を挟みたいものです。しかし私は教育委員会に教育行政を任せています。なぜ抑制すべきと思っているか？その理由は私自身が教育の現場を知らないからです。そして政治の意思によって教育現場を動かす混乱を恐れるからです。

さらには私が教育委員と佐藤博之教育長を信頼しているからです。家庭教育、学校教育、社会教育のそれぞれに担い手がいます。学校教育の責任者は教育委員会です。

私は現場の都合を優先することが正しいと信じています。現場に近いほうが主導権を発揮すべきです。市長よりも教育委員会、教委よりも学校の校長先生。何より優先すべきは教壇に立つ現場の教師です。教委は教師の

サポーターです。私は教委のサポーターです。

教育は大きな時間の流れの中で語られるものです。短期間の政治家の任期のなかで修成をされるものではないと考えています。

特別支援学校を県立ではなく「前橋市立」として続ける理由

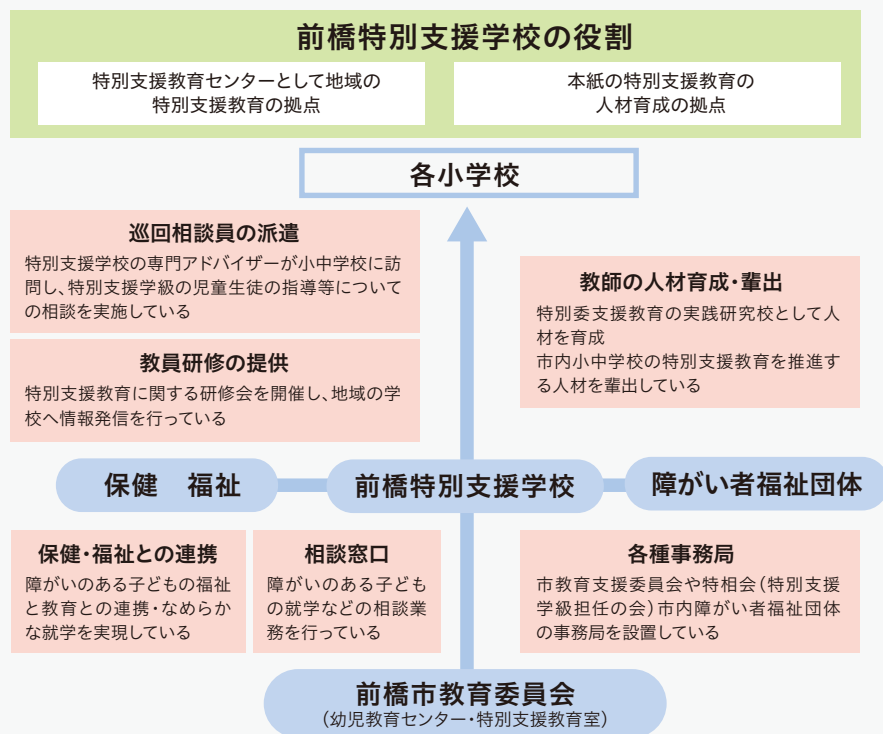
前橋市立特別支援学校(旧前橋養護学校)の卒業式でいつも私が思うことがあります。ニコニコと体いっぱい嬉しさを表現する卒業生に対して、彼らの人生が幸せに包まれていることを願っています。

彼らは美しい景色を見えています。彼らがいる場所を作る事と彼らがいる意味を市民に伝える事が私たちの責任です。「慶十森林公園」宮沢賢治の短編小説の主人公に『人生、何が幸せだか判らぬものだ』と賢治は物語の

中で言わせています。人には自身の幸せの感じ方があるのです。その多様性を市民の皆さんと尊重しあえる社会を作りたいと願っています。

コラム 教育長の佐藤博之先生からコメントを頂きました。

特別な支援が必要な子どもには、その子に応じて様々な環境を用意していく必要があります。前橋市には、障がいの重さやその子の状況によって通級指導教室、特別支援学級そして特別支援学校があり、さらに通常の学級にいる発達障害のある子どもにも対応できるようにしています。こうした中で市立特別支援学校は、前橋市の特別支援教育全体の拠点として、また特別支援教育を担う教員の育成機関としての機能を有しています。今後、特別支援教育のレベルアップのためにも、前橋特別支援学校は、前橋市の優しさを象徴する学校であってほしいと考えます。



教育現場の負担軽減に『30人学級化』が最優先では？

私もそのように考えていました。そして30人学級実現を公約してきました。しかし、「教師が子どもと触れ合える時間を増やし、子どもの個性を伸ばせる教育」の目標達成には「30人学級」よりも優先すべき課題があった事を佐藤教育長から教えてもらったのです。

当選直後に佐藤教育長さんへ30人学級化への取り組みをお願いしました。しかし教育長さんの意見は「ボンと10億円を使って30人学級化をしても教師の多忙感はなくなりません。発達障害児や不登校へのケアの専門員、いじめ対策のチーム化が最優先です」というものでした。（現在の小中学校のすべてを30人学級にするには教師の増員人件費で10億円かかります。教室の増築は別途必要です）

教育政策は教育の現場の意見を優先するべきと私は考えます。そしてその目的「教師が子どもと触れ合える時間を増やし、子どもの個性を伸ばせる教育」に向かって一歩一歩前進しています。

その後、佐藤教育長が取り組んだ経過と今後の展望は以下の通りです。

- ①まずは発達障害の子どものために学習支援員を配置
- ②不登校やひきこもりの子どもを学校に復帰させる人員も配置
- ③いじめ対策の専門チームの編成
- ④小学校5・6年生の単学級の35人クラスを実施
- ⑤貧困世帯の生徒への補修塾を実施
- ⑥すべての5歳児を対象に発達障害検診を行い、個性を伸ばせるケア体制整備
- ⑦中学校を不登校のままで卒業したひきこもりになった若者へ支援
- ⑧前橋市独自の教員(教科指導講師)の配置
- ⑨教職員の事務負担の軽減のために補助員（校務補助員 クラーク)の配置

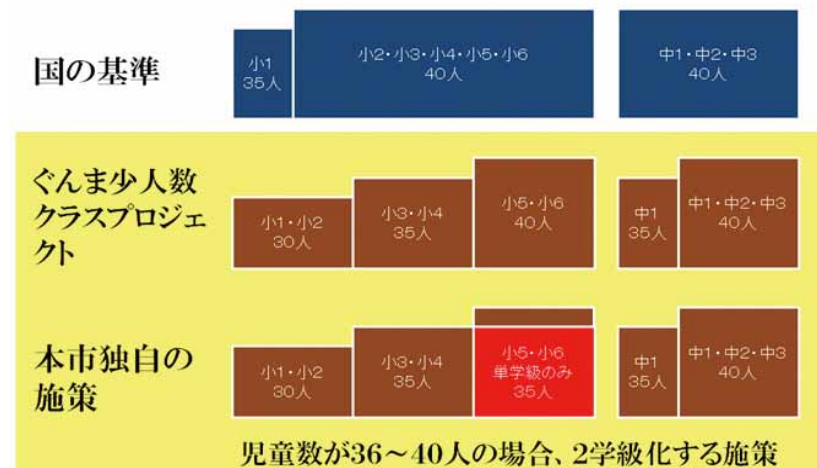
30人学級実現に向けての今後の取り組み

30人学級編制の本来のねらいは、教員が子どもと向き合う時間の確保にあります。現状では、教員は朝早くから授業の準備に追われ、子どもたちが下校するまで息をつく暇もありません。このような構造的な問題に関しては、30人学級編制の推進だけでは解決できないと考えています。その体制が整い次第、30人学級化へ進むべきです。

そこで、今後は、県や国に35人学級等の早期実現の要望を続けるとともに、教員が子どもと向き合う時間を確保するため以下の事業への取組を強化していきます。

- 弾力的な学習集団を編成するなど指導形態を工夫する。
- 単独で教科指導を行うことができる「小学校教科指導講師」を配置する。
- プリントの印刷や提出物のチェック等を担う「校務補助員」を配置したりする。

県及び本市の独自予算による学級編制



まずは35人学級化から出発

現在、県の施策では小学校3・4年生、そして中学校1年生は35人学級編制になっていますが、5・6年生は40人学級編制のままとなっています。例えば4年生で40人の児童がいる学級では、5年生になったときに、2学級から1学級に減ってしまいます。担任は、宿泊行事等を一人で計画立案、実施しなくてはなりません。学習指導や生徒指導についても一人でやらなくてはならないため、大きな負担がかかります。

特別支援教育支援員

少子化が進む中、特別支援学級に在籍するお子さんはここ数年増えています。そこで特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級で一人一人に応じた指導ができるようにしています。

また、通常の学級でも発達障害や肢体不自由等の障害のある子どもも多いため前橋市では個別支援推進補助員を配置しています。

そこで、本市では、市の単独事業として平成27年度から小5・小6の児童数が36～40名の学年(単学級校)において、35人学級編制を実施し、1学級を2学級に分けました。

その結果、どの学校においても児童一人一人に対し、今まで以上に時間をかけて丁寧な対応ができるようになるなど、成果を上げています。

マイタウン ティーチャー

小学校の授業の中で少人数指導やチームティーチング等のきめ細かな指導を進めるために市の単独事業として、マイタウンティーチャーを配置しています。

例えば、算数のように小集団で個に応じた指導が必要とされる教科では、1学級を2つの学習集団に分けて少人数の指導をしたり、理科の実験や観察等では、チームティーチングにより担任教師を支援したりするなど、多様な学習形態の工夫をしています。

校外講師（部活動外部指導者）

今、中学校の先生方の多忙さの一因として部活動の指導があげられます。現在、部活動の専門的な指導者が必要とされる場合等には、競技団体や民間の指導協力者（外部指導者）を活用することにより、競技力の向上や部活動の振興を図っています。

外部指導者は、学校の校長が面接により選考し、教育長に推薦して委嘱を受けます。委嘱を受けた外部指導者は、担当顧問の指導に協力しています。活用回数は、年間20回以上とし、1回の指導時間は2時間程度、謝金は1回当たり2,000円（上限は40,000円）となっています。今年度は、市内中学校において、運動部で49人、文化部（吹奏楽・合唱等）4人、合計53人が、外部指導協力者として登録し活動しています。

校長裁量予算

学校長の主体性を確保する校長先生の手持ち予算の仕組みです。学校長が自分の学校を主体的に運営するには予算の裁量権も必要です。なんでも、かんでも教育委員会にお伺いすることは改めようと考えています。

前橋市では、各学校の運営に関して、基本的に学校が主体であることとし、教育委員会は、学校のサポート及び協働することを原則としています。こうした中で、より学校の裁量範囲、自由度を高めるため予算の裁量枠を拡大してきました。これまで各学校の予算は、①学校数②学級数③児童生徒数をもとに傾斜配分していたため予算編成に学校の意向が反映されない場合や、細かく用途が限定されているため、学校が必要なところに予算を充てられておらず、学校の実情に即した予算運営に支障が生じていました。

そのような状況を改善するため教育委員会と学校で検討を重ねた結果、予算原案編成権を学校へ委譲することにより、各学校が個々の事業計画等に基づき予算総額の範囲内で各費目の予算額を編成・執行する仕組み（学校予算総額裁量制度）を平成28年度より全校での実施となりました。

導入効果とすると、配分される学校予算の見通しを前



年度のうちに各校に示すことで、物品の購入計画が立てやすくなるとともに速やかな発注処理が可能となり、早期に納品が出来るようになったことがあげられます。また、学校職員全体で予算の編成や執行、物品の購入等について検討することで、これまで以上に予算に対する意識の向上を図ることが出来たことです。

前橋市のいじめ対策

担任に負担を掛けないように専門チームが問題対応します！

いじめ問題発生時には、各校では、「いじめ対策会議」を機能させて組織的に対応をします。学校から青少年課へ相談や報告があった場合は、指導主事や臨床心理士資格をもつスクールソーシャルワーカーが学校を訪問し、スクールソーシャルワーカーは、問題が起こってここは必要だという時にいつでも飛んで行って対応できます。子どものカウンセリングがすぐ始められます。事件が起こった時に即相談に乗れるというのが特徴と言えます。聞き取り等をもとに情報・問題の把握と分析を行い助言するとともに、児童生徒のカウンセリングも行うことがあります。必要に応じて、児童相談所、警察、市こども支援課とも連携して対応します。いじめの加害者・被害者をはじめ学級の子どもたちの見守りが必要であると判断した場合

は、青少年課に4名配置されている緊急派遣用のスクールアシスタントを学校に臨時的に配置します。その際、当該学校長と協議し、派遣の目的を明確にすることが大切であると考えています。このように、いじめ防止基本方針に、いじめが発生した際には、市教委が学校とともにいじめの解決に取り組むことを明確に示すとともに、学校とともにいじめ問題の解決に向け取り組む市教委の姿勢を貫いています。

学校問題 専門家が助言
前橋市条例案 発生時に対策委員

学校クランク 校務補助員制度

教員は、プリントの印刷や提出物のチェック、教材費の集金など様々な事務に追われており、これが教員の多忙さの一因となっています。そこで、こうした事務を担う校務補助員を学校に配置することにより、教員の空き時間を増やし、子どもと向き合う時間を確保できるようにしていきます。

赤城山ろく里山学校

人間性豊かで心も体も健康な子どもの育成を図るため、各種体験学習への支援を行っています。その名称は赤城山ろく里山学校です。

市内の小学生を対象に赤城山ろく（大胡、宮城、粕川、富士見地区）の豊かな自然や文化を生かした体験活動を行うもので平成28年度より開始しました。

学校や家庭のみでなく、地域全体で子どもを育てる体制づくりを推進し、「ふるさとが前橋で良かった」「将来的には前橋に戻って自分の子どもも前橋で教育を受けさせたい」といった、ふるさとへの誇りを育むことを目的としています。

人と地を活用した体験活動

7月23日
(会場) 須藤農場
(対象) 大胡小 大胡東小 海窪小

【内 容】とうもろこし収穫（農業体験）、生活体験
【協力団体】大胡地区学校支援連絡会、父親クラブ、PTA

【大胡地区】生涯学習課・大胡公民館

阿久沢家住宅を利用した体験活動

8月20日～21日
(会場) 阿久沢家住宅
(対象) 宮城小

【内 容】宿泊体験、昔の生活体験、自然体験、夜の里山体験
【協力団体】みやぎ地域づくり交流会、阿久沢家住宅を守る会

【宮城地区】文化財保護課

粕川冒険遊び場での体験活動

7月28日
(会場) 粕川冒険遊び場
(対象) 月田小 粕川小 橋井小

【内 容】ネイチャーゲーム、ピザ作り、冒険遊び場アドベンチャー
【協力団体】粕川地区地域づくり協議会、地区婦人会、食改推、木の実幼稚園、子ども会

【粕川地区】青少年課・児童文化センター

ふれあいキャンプでの体験活動

8月6日～7日
(会場) 赤城少年自然の家
(対象) 原小 時沢小 石井小 白川小

【内 容】カッター、灯篭流し、花火大会、キャンプファイヤー、野外炊事
【協力団体】4校 PTA、富士見奨連、VYS、健全育成会、青少推、商工会

【富士見地区】生涯学習課・富士見公民館

寺子屋事業

公民館等で地域の教員 OB や地域の方、学生ボランティアが中学生の自主勉強のサポートを行う活動のことです。H28 年度は市内の 7 公民館（永明・5 中地区・7 中地区・芳賀公民館・総社公民館・大胡公民館・富士見公民館）で開催されています。地域の皆さんの力で中学生の応援をお願いします。

また、貧困対策を含め、中学生の学習を支援する「地域寺子屋」を、平成 28 年度よりスタートしました。公民館等で放課後の中学生の自主学習の場を提供し、生徒の学習面だけでなく自尊心や自己肯定感を高め、地域や社会の中で前向きに生きていくための基礎づくりを図ろうとするものです。

ICT教育

児童生徒ひとり一人の能力や特性に応じて情報を収集・整理し、お互いに教え・学び合うことにより興味・関心を高め、思わず身を乗り出す授業の実現に向けて ICT を活用した教育を推進しています。

※20年近く前から教育現場のネット環境を改善しようと活動してきた“インターネット繋げ隊”の活動や“メネット”など前橋市の教育の先進性を私は尊敬しています。

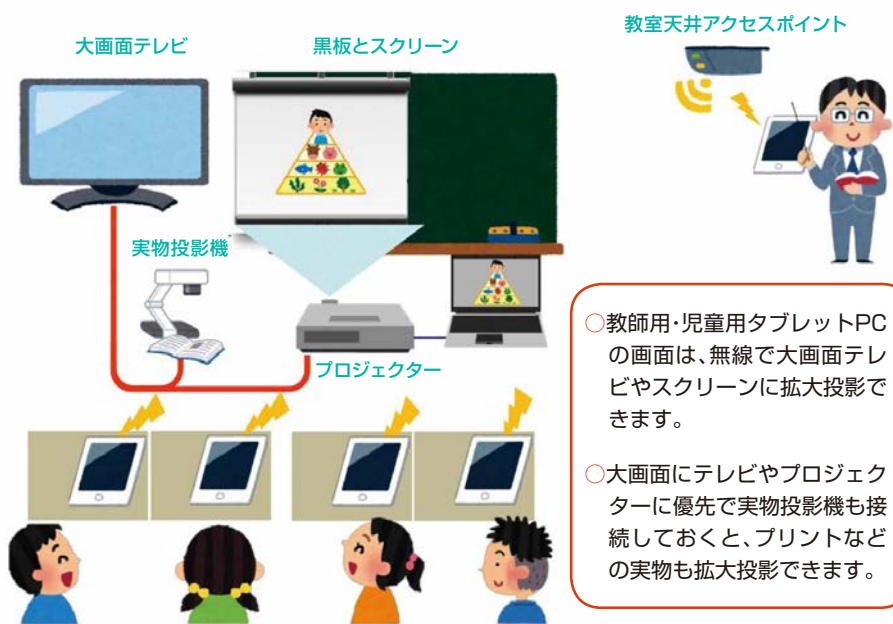
① 教室の ICT 環境の充実

実物投影機や電子黒板、教師用タブレット端末等をすべての普通教室に整備し、ICT 機器を効果的に活用した授業を展開することができるようにする。

② 校内 LAN の無線化

現在、有線で敷設されている各学校の校内 LAN を無線 LAN ににより拡張しタブレット端末の活用を図る。

【タブレットPCと関連 ICT 機器の設置例】



前橋市児童文化センター

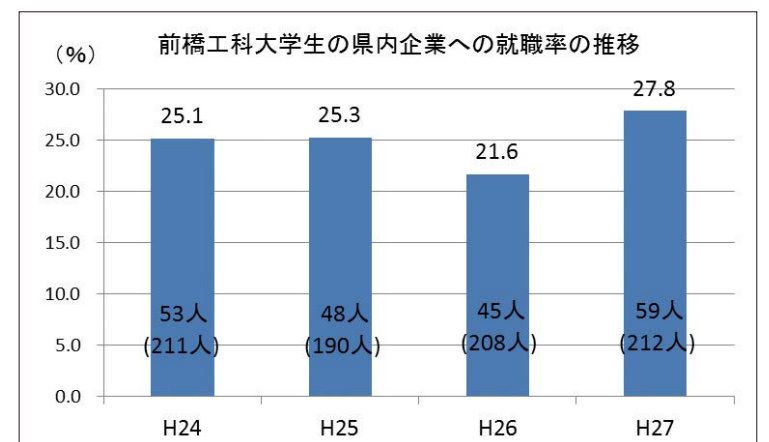
西片貝町にある子どもの施設で、前橋市の教育の宝です。子どもたちの交通安全教育の場であるゴーカートで有名な前橋交通公園とプラネタリウムがある児童文化センターは年間40万人のお客様が来場されています。スタッフやボランティアの方々の「おもてなし」の心の結果だと思えます。歴代の館長さんやスタッフの手作りの教育プログラムが素晴らしいです。私もペンキ塗りのお手伝いに行ってきました。子どもたちの冒険の場でもあります。

ここにはたくさんのボランティアの方々が力を貸して下さっています。野外活動、演劇、オーケストラはじめ多くの市民の善意にお礼申し上げます。3年前から前橋東ロータリークラブが冒険遊び場やコンサートのステージを寄贈されています。

前橋工科大学

1952年に前橋市によって前橋市立工業短期大学設置されて以来、建築をはじめ学問を学ぶ若者を育て、社会に送り出してきました。2001年に大学院博士前期課程、2003年に大学院博士後期課程が設置されました。多くの建築人材を輩出し、建築土木の礎となっています。今や前橋工科大学となって日本でも2校しかない公立の工科系大学として存在を際立たせております。現在は社会環境工学科、建築学科、生命情報学科、システム生体工学科、生物工学科、総合デザイン工学科(夜間開講)6科に、1年次～4年次で1,212名が在籍しており、そのうち920名が県外からの学生です。日本における工科系の公立大学として誇れる存在になっています。

しかし、せっかく前橋市を学びの地とされた学生さんも卒業と同時に多くは東京へ就職されてしまいます。これは残念なことであり、私は2012年度から市内企業の技術開発の協働研究予算を支援する取り組みを始めました。期待通り学生の市内企業就職率も高まっています。



前橋工大
共同研究で
雇用創出
学生の受け皿に

前橋市中央児童遊園〈るなばあく〉

児童に健全なる遊びを与え、その健康の増進を図る事を目的として、昭和29年に前橋市中央児童遊園の前身となる前橋市児童遊園が市制60周年等を記念して開園されました。平成16年には公募により「前橋るなばあく」の愛称が付けられ、現在では通称である「るなばあく」が広く使われる様になっています。

施設の運営は平成16年より民間委託に移行され、その後、平成18年からは指定管理者による施設の運営管理を行っており、現在は、株式会社オリエンタル群馬が平成32年3月末まで管理運営を行っています。

面積8,817㎡の施設内には豆汽車、飛行塔、メリーゴーランド、くるくるサーキット、ミニヘリコプター、ウェーブスターライド、くじらの波乗り、豆自動車の8種類の大型遊器具と小型自動遊器具や国の有形文化財に登録されている「もくば館」の木馬などの各種幼児用遊器具が設置されています。



るなばあく好調
前橋市、民間委託後の最多
131万人

プレイランド

子育てひろばは、前橋プラザ元気21内に、平成19年12月にオープンした親子で遊べる屋内型施設で、プレイルームと親子元気ルームがあります。

プレイルームは、小学生までの児童とその保護者が一緒に遊ぶことができるスペースです。体を動かして遊んだり、ブロックなど指先を使った遊びができます。年間16万人の利用があり、平成28年9月末時点で約150万人の利用があり、多くの市民から親しまれています。

親子元気ルームは、3歳未満の乳幼児とその保護者が利用でき、子育て親子の交流、子育て相談などを行っております。年間3万5千人の利用があり、平成28年9月末時点で約30万人の利用があり、親子の育ちを支援しています。



こども図書館

平成19年12月8日に、前橋プラザ元気21の2階にオープンしました。施設面積は、1,563.32㎡で、ワンフロアの広さでは国内の「こども図書館」としては最大級です。年間貸出利用者数は37,991人(平成27年度)で、平成28年10月末時点で約23,700人の利用があります。貸出冊・点数は219,809冊・点(平成27年度)です。蔵書数は138,678冊・点(平成28年3月31日現在)で、蔵書構成は、児童書が64,209冊(46.3%)、絵本53,121冊(38.3%)と高い比率を占めています。主な読書活動事業としては、定例的な「おはなし会」や、幼稚園・保育所(園)・認定こども園に絵本100冊を3か月間貸出す「絵本セット団体貸出事業」、市内在住0歳の赤ちゃんに絵本を一冊プレゼントする「ブックスタート事業」などを行っています。



企業と市のコラボ人材養成奨学金の創設を考えています

市民の暮らしは様々です。家庭の経済的な事情で進学できない子ども達も増えています。大学進学だけではありません。夢を実現するために修行に行きたくても、経済的に働かかねばならない場合もあるでしょう。そば職人や寿司職人、大工さんになるためにも学びの期間が必要です。大学進学も職人としての技を極める学びも世界を体験する旅も、人を育てる学習の期間です。

「日本の青年は世界に飛び出すべきだ!」とはイタリアで活躍する前橋市出身の宮川秀之さんの言葉です。宮川さんはオートバイでユーラシア大陸を横断途中、イタリアで出会った女性と結婚し、カーデザイナーのジウジアーロを見出し、日本とイタリアの架け橋の実業家になりました。

人生のスタートである青年期に社会の応援を得ている

いろな学びを得られる応援をできる前橋という社会でありたいと考えます。

この奨学金は市役所だけではなく、前橋市の企業の皆さんから将来の人材養成の為に寄付を頂きながら行っていきたくと考えています。前橋市に優秀な人材として若者が戻ってきます。そのためにも応援寄付をお願いします。

8 章 農 林 業

農業・林業の新価値

農林業は前橋の宝 畜産、園芸、果樹・・・

付加価値の高い農業を作しましょう!

二酸化炭素の排出抑制に向けた国際協定が発効しました。

森林のエネルギー利用の追い風になります。

「新たな道の駅」構想は赤城山の恵みのショールームです

上武国道が間もなく開通します。私はもっと早く「道の駅」の設置が構想されていれば、上武国道の開通と同時に「道の駅」も開業を出来たと悔やみます。でもこれからでも遅くはありません。「道の駅」は前橋市の農業や赤城の魅力を通りさせずに発信する拠点にしたいと構想します。つまり「前橋市と赤城山の魅力のショールーム」です。

目指すものは農業の所得増と雇用吸収力の拡大です。これに尽きます。所得や雇用を伴わない農業はただの景観形成であって、産業政策ではなく文化財保護です。補助だ、助成だ、と声高に叫ぶ産業はかつての繊維産業のように産業政策ではなく政治課題として位置付けられてしまいます。その考え方が改革を遅らせるのです。

如何に厳しいマーケットに向き合い消費者に対して付加価値を生み出していくかを試行錯誤する。それが産業の必須要件だと考えます。一緒に船出しましょう。私たちは産業としての農の新価値を付加せねばなりません。

この「道の駅」にはたくさんの意味があります。既存の

道の駅との連携・民間活力・災害時バックアップ・前橋ブランドの確立・赤城ツーリズムの基地。上武国道に「道の駅」による加工や販売拠点づくり、前橋・赤城の魅力を発信して移住の一步になるショールームにしたいと取り組みます。

私はやって見せます。でないと人は信じないのです。川場の道の駅が年間100万人来場し。売り上げが10億円という見本があるのですから、この前橋でもやって見せましょう。50億円500万人来場を目指す「道の駅」です。市内にある道の駅の直売所が3か所、民の直売もあります。相乗効果も生まねばなりません。

前橋市宮城地区のケーキ屋さん、「ミルクウェイ」がここに出店すればどうでしょう。この店は手作り、保存剤無添加のケーキを日に数個しか作りません。売り切れ次第終了こそ価値なのです。前橋市には高価値がありながら、販売力が弱くて、本当の価値で販売出来ない宝物がいっぱいあります。宝物をそれに見合った値段で売れるようにしたいのです。

農作物のブランド化や6次産業化？

「道の駅」は6次産業化の拠点になります。新製品を生み出すラボ(研究所)です。前橋市は農協、企業と連携し、「前橋農産物ブランド」の発信を行っています。もっと充実させたいのです。工科大学の知識や前橋に立地するたくさんの方の食品産業の力を合わせて進みます。アミノ酸の解析やオレイン酸の計測など科学知識と農業のコラボも

新しい価値を生みます。

ブランド化には研究加工と同様に首都圏への販売宣伝も必要です。練馬区、目黒区、文京区、北区、足立区などの連携自治体との販売強化や前橋産物の販売をしている流通業との関係強化などと合わせて取り組んでいけば首都圏の高級食材の提供基地」としての前橋ができます。

前橋が東京で実施しているセールスイベントも農業を産業化するきっかけになればと思っています。前橋の産業雇用のリーディング産業が農業であるとの認識をもって参加し、たくさんのマッチングチャンスと新展望を切り開いていきましょう。

学校給食の地場産農産品の利用拡大はふるさと愛

前橋は地場産農産品の使用率が全国上位です。つまり中核都市でありながら農業が盛んであるということです。さらには農家と学校給食をつなぐ架け橋があり、さらに献立を考える給食担当者が地場産へ目を向けているからでしょう。

もっとも、子供と父兄に理解してもらい、教委として意識を持って進めねばこの地場産利用は進みません。

これは農業振興ではありません。当たり前のことだから進めるのです。旬のものを旬に頂き、地域の食材で子どもたちが大きく成長する。農業都市前橋の当たり前の姿です。わざわざ飛行機で運ばれて来るものを子どもが食べる必要はありません。

赤城の恵み ブランド認証？

前橋市赤城の恵ブランド認証制度は、豊かな自然、独自の技術などを活かして生産された産品を前橋独自の基準により認証を行い、認証品を前橋ブランドとして発信・供給することを目的とし平成22年度に創設しました。

認証基準は、産品が前橋産生鮮食品類または、それを使い原則として前橋市内で加工されていること、前橋市が推奨する産品等として、伝統や栽培方法、加工製造技術、品種などで差別化が図られており、本市のイメージア

世界の人口が増える中、人口減少の日本にとって世界に向かって食の提供こそ新しい日本の価値です。食品輸出によって国内農業を守っているオランダやフランスは前橋市の目指すべき未来です。輸出し世界に売れる高付加価値農業を生み出していきましょう。

ふるさとの農産物をふるさとの子どもに食べてもらうことは素晴らしい誇りです。郷土食や祭事食など故郷ならではの味が子ども達の記憶に残るように…。人は家庭の味を忘れないものです。私も母のカレーの味は忘れません。母のカレーを家族で食べた時の楽しい思い出が脳裏に浮かぶからです。人はなかなか食事の好みを変えられないといいます。病気になってもおばあちゃんの味噌汁や漬物の塩加減を変えられないのは、食が大切な文化だからでしょう。だからこそ子どもたちには前橋の、赤城の、あなたの味を憶えていてほしいのです。楽しい記憶と一緒に。食事の楽しさと一緒に愛されていた子どもの記憶を残しましょう。

ップやPRに資する個性・特長があることなどの基準を設けています。

現在、年2回の募集と有識者等による認証委員会が開催され、市内で生産された野菜などの生鮮食品類が16品目、前橋産の農林水産物を使って製造された加工品が43品目、合計59品目が認証されています。(次頁に一覧)

■赤城の恵ブランド認証品一覧(平成28年10月4日時点で59品目が認定)

No	品目	受証者
1	本格芋焼酎 「赤城の恵」シリーズ	群馬県卸酒販
2	殻付き落花生 「赤城の恵 前橋産落花生」	前橋市農業協同組合
3	液状分離ドレッシング 「甘くておいしい! たまねぎ サラサドレッシング	かつ政
4	納豆「なっからうんめえ! 粕川なっとう」シリーズ	(株)上州農産
5	清酒「名峰赤城」シリーズ	富士見村特産品販売組合
6	キャベツ(生産者:内山英明)	内山 英明
7	タマネギ(生産者:内山英明)	
8	オクラ(生産者:内山英明)	
9	ブロッコリー(生産者:内山英明)	
10	エダマメ(生産者:山田高則)	山田 高則
11	ナシ「大島梨」 (生産者:木瀬果樹部会)	木瀬果樹部会
12	ギンナン「赤城のギンナン」 (生産者:赤城ギンナン生産組合)	赤城ギンナン生産組合
13	みそ「赤城の恵 手づくり赤烏居 みそ(きび入り)」	富士見農産物加工組合
14	豆腐 「赤城南麓 豆の里」シリーズ	(株)ミツミファーム
15	ブルーベリー(生産者:英農園)	農業生産法人 (有)英農園
16	ブルーベリー果汁入り飲料 「ブルーベリージュース 紫式部」 「ブルーベリージュース 赤城」	
17	もち 「もち屋伝次平のもち」シリーズ	
18	菓子「風の子守唄」	風の子守唄本舗 長井屋
19	にんじんジュース	長谷川農園
20	みょうが	前橋みょうが生産組合
21	トマト(以下商品名)	前橋産直組合
	甘しずく	
	甘しずく	
	はなみちゃん	
	あまえんぼー・きかんぼー	
	ミニトマト	
22	水切り	良農園
	タマネギ	
	エダマメ	
	ネギ	
25	ブロッコリー	(有)後閑養鶏園
26	朝採り卵のなめらかぶりん	

No	品目	受証者
27	「名峰赤城」 活性にごり特別純米生原酒	富士見村特産品販売組合
28	「芳醇」本格粕取り焼酎	
29	モッツアレラ(さけるタイプ)	(有)松島農園
30	たもぎ茸	(株)太陽運輸
31	まえばしうどん(乾麺)	前橋市農業協同組合
32	ぶどう	昭和造園土木
33	まえばしうどん(半生麺)	前橋市農業協同組合
34	もち「もち屋伝次平のもち」 青のりのもち	農業生産法人 (有)ヤバタファーム
35	近藤さんちの豚肉でつくった 無添加 粗挽き前橋ころとんウインナー・前橋ころとんのしっぽ	(有)近藤スワインビジネス
36	近藤さんちの豚肉でつくった 無添加 前橋ころとんウインナー・ころころ前橋ころとんフランク	
37	福豚ジャーキー	(株)エーアンドブイ企画
38	前橋名産「だるま茄子辛子」	新進物産
39	朝採り卵の しっとりシフォンケーキ	(有)後閑養鶏園
40	にんじんジュース 「くれない(KURENAI)」	良農園
41	なっからうんめえ! 粕川なっとう 極小粒	(株)上州農産
42	無添加前橋ころとんベーコン	(有)近藤スワインビジネス
43	ビーナッツバター	(株)ミツミファーム
44	朝採り卵のカスタードプリン	(有)後閑養鶏園
45	朝採り卵のちよたまぶりん	350円(税込)
46	くれないにんじんジャム	良農園
47	むらさきにんじんジャム	600円(140g、税込)
48	ミックスジャム	農業生産法人 (有)英農園
49	ブルーベリーアイス	
50	甘しずくトマトジュース	前橋産直組合
51	まじめな大粒納豆	(株)まるだい
52	日本ミツバチのハチミツ	田部井 俊明
53	ささら味噌(はと麦入りみそ)	粕川みそ加工組合
54	ささら味噌(米みそ)	前橋養蜂園
55	ハチミツ(アカシア、カキ、クリ)	
56	赤城山麓アカシア蜂蜜	赤城山麓養蜂場
57	上州米味噌	特定非営利活動法人 麦わら屋
58	カチョカバロ	(有)松島農園
59	Purple (ばあぶるにんじんじゅうす)	良農園

耕作放棄地の生産法人へのマッチング？

100ヘクタールを超える耕作放棄農地を耕作したい方へ紹介する仕組みもできました。農業委員会がこれから行う予定のマッチングを市役所として応援していきたいと考えます。

年度	解消筆数	解消面積 (ha)
H24	19	5.39
H25	24	3.12
H26	4	3.12
H27	28	4.59

有害鳥獣対策は、猟友会と協力し駆除を進めます

10年ほど前からイノシシ、シカによる農作物被害が増加してきました。特に国道353号と第二南面道路にはさまれた地域で被害が発生しています。さらに、近年は国道353号以南において、目撃情報、被害報告が多く寄せられています。

イノシシやシカが農地に入らないようにする電気柵設置の補助を引き続き行うほか、群馬県や赤城山を取り巻く自治体と協力して被害対策を実施し、特に市内5つの猟友会の協力を得て、捕獲活動を促進して、引き続き有害鳥獣対策を進めています。**しかし猟友会が高齢化が進み、人員も減少する一方です。電気柵を設置しようにも手間も時間も足りません。有害鳥獣によって赤城の恵みが食い尽くされようとしています。**

有害鳥獣対策
シカ、イノシシ捕獲倍増
県が管理計画見直し

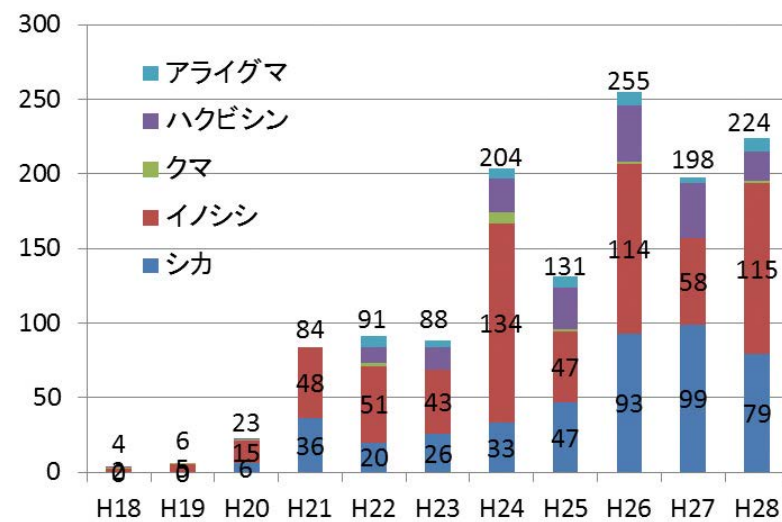
鳥獣対策やぶ伐採
前橋市、15ヘクタール一斉に

<有害鳥獣捕獲業務の内訳>

- 市内の5猟友会（前橋、西部、北部、東部、富士見）と委託契約を結び被害に応じて、罠により捕獲している。（4月1日～11月14日及び狩猟期後から3月31日）。各猟友会の従事者が意欲的に動いている。
- ハクビシン、アライグマの生息区域が市全域に拡がり被害が顕著のため、農林課（東部農林事務所）職員が従事者となり直営で小型檻により捕獲に努めている。
- 狩猟期において、市内の狩猟者が市域内においてシカ、イノシシを捕獲した場合、1頭あたり5,000円を支給している。（H25年度は1頭あたり10,000円）これは、繁殖抑制と春先の被害軽減を目的としている。（H28は11月15日から始まる）

これらもいつまで継続できるか不安です。一気に駆除による頭数削減への取り組みを進めるべき最終局面にあります。

（捕獲頭数） 狩猟期捕獲奨励金事業



マタギ部隊の新設を考えています？

農家の自衛策としての電気柵設置は、農業者の高齢化を考えれば限界です。さりとて猟友会の方にばかり駆除をお願いできる状態でもありません。前橋市の20年前の平成9年の猟友会員は373名、現在は153名です。

赤城山の有害鳥獣を駆除する猟師を雇用するウルトラCも研究すべき時期が来るでしょう。10人程度の猟師を市役所が雇い、猟友会会員の行う駆除の手伝いを行うのです。すでに前橋市では猟友会の方々を中心に前橋市鳥獣被害対策実施隊を結成しています。その部隊の支援を行う常備隊の設置を研究します。

牙をむいた猪や熊が通学の子どもの集団に襲い掛かる可能性は否定できません。安全保障としての常備部隊の創設は市役所として考えるべき時期に至ったと感じます。

ジブリ料理が人気になっています。狩猟肉の流通販売

や皮の加工品などいろいろな収入の道も確保すること必要でしょう。あるいは東京から山の暮らしに憧れる青年を猟師として育成することも検討すべき事です。片品村に東京から若いOL経験の方が猟師として移住されました。自然とのかかわりを求める青年も呼び込めるチャンスかもしれません。森林作業の現場にも多くの都市の青年が働いています。昔の言葉ですが「山の稼ぎ」が正規雇用や都市からの若者移住につながる可能性を感じています。**しかし山を知らない方を猟師や林業作業者に育てるには時間と指導が必要です。この指導・教育に前橋で今まで取り組んできた先輩方に関わってもらえれば教師としての仕事も生まれるのです。「山の稼ぎ」の伝習こそ赤城山の教育の場に変える力になります。**

コラム 赤城山で3頭の牛を飼って幸せに暮らす酪農家

赤城の南麓にてアルプスのハイジのような家に大家族で楽しく暮らす松島さん一家は赤城の農業モデルです。彼らはたった3頭の乳牛からの収入で楽しそうに酪農業で暮らしています。乳牛から得られる収入は乳価×搾乳量ですから3頭の酪農業が楽ではない事は誰もが感じる事です。でも彼らは豊かで美しい景色の中で暮らしています。彼らは搾乳をすべて自己加工のチーズにして販売しているのです。高付加価値の農業の見本です。生産量の拡大=収入の拡大=幸せの拡大との構図はもはや過去の観念です。それは「イタリアの村は何故、美しく豊かなのか」の本の通りです。スローフードとは地元の手間を掛けた食を大切にすることです。



スローライフとは手間を楽しむ時間を大切にする人生観であり、スローシティはそれぞれの市民が過ごす時間のスピードの違いを尊重しあえるコミュニティです。

私はこのチーズ工房に都会からチーズ作りを学ぶ若者が来てくれるような予感があります。まさに松島夫妻は都会から赤城に移住される方にとってのロールモデルであり教師なのです。農業ティーチャーの誕生です

「イタリアの村はなぜ美しく元気なのか。」 宗田好史著 学芸出版」を読んで

この一冊から私は「古いモノに新しい価値を付加することが前橋市の再生のカギ」だと感じます。スローフードとは地元の手間を掛けた食を大切にすることです。この本の序文には「イタリアの各地に広がる美しい風土。ふくよかなチーズ。香り高いワイン。香ばしい肉や魚料理。このイタリア農村の魅力は昔からずーとあったのではありません。」とあります。イタリアの農村も日本と同じように、過疎と高齢化で荒廃したのです。大きな農家が打ち捨てられ廃墟になり農村から若者が都市へ流出する。それを如何にイタリアでは再生されたかを学ぶ事の大切さを私は感じました。イタリアの農村再生はこの数十年間で創られたものです。この出発点になった4つの動きを本書は次のように説明しています。参考になればと思い私なりにまとめてみました。



I アグリツーリズム協会の設立と農村観光の普及

- 農村の過疎から環境、食文化、民族文化を守る為に都市との交流
- 都市住民が田舎を求めてきた。食の魅力、空間の魅力、農の魅力
- 農家民宿の成功＝UターンやIターンの若者や女性経営者が増加

II 食の安全とスローフード

- アレルギーへの反省からオーガニックが見直された
- 田舎の農業と環境が健康を生む事を普及した
- スローフードとは土地それぞれの伝統的な食材や料理を大切に
- スローフード協会の目標 「食を守る」「食を支える」「食を教える」
- 大型農業、アグリビジネス企業に反抗したオーガニック革命
- トレーサビリティが安心を生む。ICTで確認
- マーケットや市場ではなく個人消費者と直接繋がる。
- ニッチに徹する。狭く…深く…自分のパスタを自分の水車で粉挽き
- 売るよりも、産地に来てもらって、食べてもらう。泊ってもらう。
- ブランド品。大量につくらない、農業や化学肥料で収量増＝安くなるだけ

III 地方都市のスローシティ運動

- 広大な過疎の農村部を抱えた地方都市【前橋市】こそ美しさを目指せ
- 歴史的な環境、景観も食べ物も暮らしを大都市へ伝える
- 少量でも良質なモノ。暮らし。グローバル社会に流されない地域らしさ

IV 伝統的な建築物の保全や街並みを保全

- 農林賞は08年に農村の景観配慮マニュアルを発表している
- 景観保全と民泊の推進

赤城山もやればできる筈です。北に赤城。西に榛名を仰ぎみれば、その空間の広がりには私は圧倒されます。関東平野と二つの山が巨大な大気を貯めている事を感じます。前橋市も赤城の山裾には多くの農業集落がたくさん存在していました。明治の近代史の原動力になった蚕業・製糸業産業景観でもありました。この巨大な空間に新しい価値を生み出すキーワードは「古いモノに新しい価値をすること」だと感じます。・ヤギ、ブルンスイスのチーズは見本です。

- おばあさんのそばやうどん、赤城深山そば100%
- 地産の食材専門の料理店（みどりの提灯の店）
- 古い農家や納屋を改装し、民泊やレストランへ
- 小川に水車、染物が流れている風景
- 芸術家のアトリエ

このような「暮らしぶり」を再構築する力はスローシティです。

偶然に同時期に読んでいた本にこう書かれていました。「隠れたチャンピオン企業；ハーマンサイモン；中央経済社」隠れたチャンピオン企業はドイツ語圏で見られる、無名だが一部のマニアには有名な企業をいう。例えば高圧洗浄機のケルヒャー 電車モデルのメルクリ。（文中の企業で私が知っているのはこの2社だけだった。）著者はこれらの企業に共通な次の特徴を以下に述べています。

- 市場を狭く提議する。
- 顧客と極めて近い関係にある。
- 顧客と双方向性の関係をもつ。
- 顧客に近いところに権限を分権する。

良い製品がよき顧客を生み出す。いろいろ考えたが「正直が一番」と私は感じました。

※先日、前橋市主催の「全国シルクサミット」に参加くださった熊本県山鹿市では年50トンの繭生産を始めるとのことです。群馬県の養蚕は45トン、そのうち前橋市は15t。それを超える大型の養蚕育成場を建設する山鹿市に驚いています。前橋市も“シルクルネッサンス”へ挑戦します。

9 章 産 業 ・ 雇 用

産 業 ・ 雇 用

前橋はモノづくりの技術を継承し、新しい産業を興し、女性、高齢者、障がい者が参加できるまちを目指します！労働とは希望です。希望のあふれるまちとは市民誰にでもその人の個性にあった仕事があるまちです。多様な仕事があるまちこそ“良きまち”です。大工場もいいけど、小さい仕事も大切です。それぞれの仕事は他の仕事を尊重し、支え合うまちを目指しています。

創業センターを開設とは

若者が活躍する前橋にしたいと取り組んできました。起業やNPOなどの社会活動において起業を試みる若者は、大きな利益を求めるより、地域の中での達成感を求めている。そういった若者たちが前橋で活躍することに大きな意義があると思います。地域に活力を生み出すため、起業支援にも力を入れています。

昨年12月には、市中心部の千代田町の空き店舗を改装して創業センターを開設しました。すべての部屋が夢を持った青年たちで埋まっています。このカラオケの店を改装したオフィスから何時か社会を変える人が生まれるかも知れません。それは大企業の経営者という意味ではありません。小さな会社でも組織でも社会の変革をもたらすことは出来ます。貧民銀行の経営者が貧しい女性にミシンを貸し出して自立させたように…。心から彼らの成功を願っています。

この起業支援センターでは、運営を任された皆さんが民間ならではのノウハウを用いて幅広い年代、性別、業種の人たちに対して、行政ではできなかった幅広い支援を行ってくださっています。女性のための起業セミナーを含め、セミナーや交流会をセンターで定期的に開催し、起業に関心のある人たちが集まってくる環境整備も進めています。

センターは、単なるオフィスではなく、女性や若者が実験的な起業を試みるチャレンジショップの機能も備えており、夢の実現に向け、積極的な活用を呼び掛けています。

また、近くには、JINSの田中仁社長の財団が昨年開設した「前橋まちなか研究室」もあり、市は各種団体や施設と連携しながら「ベンチャーヘブン(起業天国)」を合言葉に、さまざまな起業を応援します。

群馬県の創業支援センターが動き出すようです。「開業率10%を目指す」とのこと。数値目標を掲げることは意味がありますが、数字にこだわらず、起業する人を応援してくださればありがたいです。各金融機関、市町村、群馬県、そしてイノベーションアワードやスクールなど挑戦する気持ちを皆で応援しましょう。



前橋市の中心市街地にあるカラオケビルを借受けて始めた創業支援センターです。古いビルのリフォームですが、入居された方々の夢はデッカイです。

起業へチャレンジする人への応援団

前橋市の創業支援センターから起業の夢に出発する人達を応援する仕組みが、上毛新聞と田中仁財団が中心となった優れたビジネスアイデアを表彰する「群馬イノベーションアワード」を発端に開催されるようになりました。群馬銀行さんのビジネスサポート大賞、群馬ベンチャーサミットなどです。

※田中仁財団では起業家育成を目的とした「群馬イノベーションスクール」も開講し、すでに3期を迎えています。
(※募集は終了しています)



プログラミングアワードを実施します

ぐんまプログラミングアワードとは、プログラミングの技術を持った人材を募集し、アイデアや技術を評価・表彰したり、子供たちがプログラミングしている様子を画像やニュースとして発信し、プログラミングについての住民の関心を高め、プログラミング教育の普及と人材育成を目指すものです。

なお、事業の背景としては、情報通信技術（ICT）使ったサービスの多様化、高度化に伴い、こうしたテクノロジーを支えるプログラミング人材の育成が国家的に喫緊の課題となっており、国においては学校教育の一環として授業にプログラミングを取り入れるなど、取り組みを進めています。

プログラミングの仕事は場所を問わないため、地方においても、プログラミング人材育成が地域創生の起爆剤になってほしいものです。(主催／上毛新聞社)



工業団地 完売御礼

前橋ならではの「産業づくり」に挑戦。新規に拡大する朝倉工業団地も五代工業団地も完売です。これから工事する予定の五代東地区も予約で埋まってしまいました。当分、販売すれば売れる状況は続くでしょう。それは前橋の立地性の証明です

1. 災害が少ない
2. 道路網が整備されている。新潟港と日立港の真ん中
3. 暮らす環境がいい
4. 物価が安い

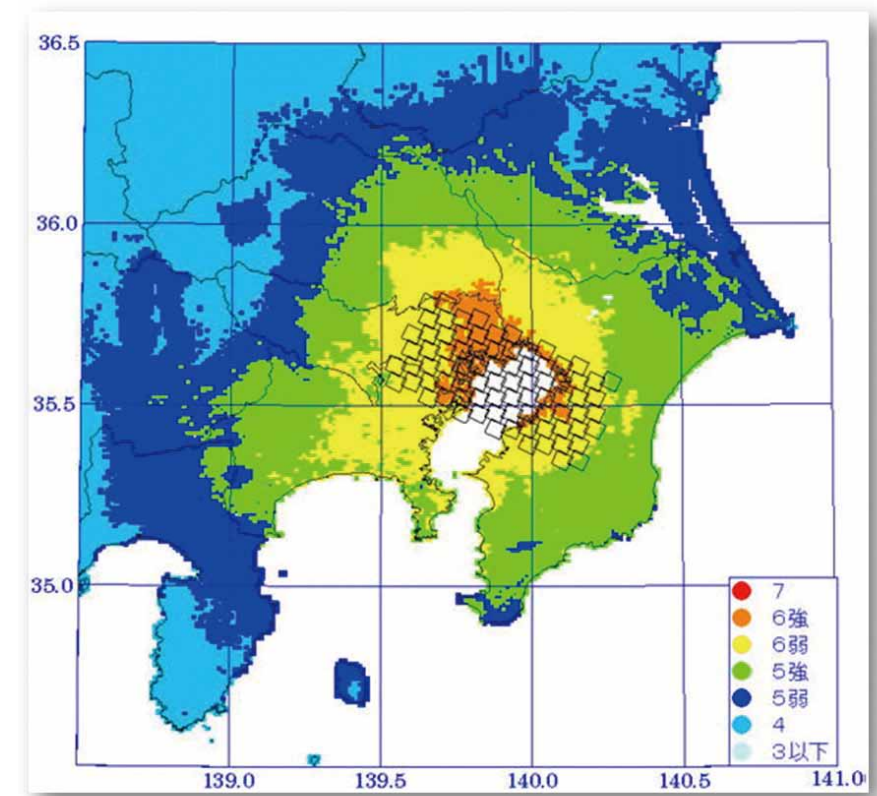
この勢いを増し、さらには農業でもブランド化や六次産業化の推進など、「農業」の新たな可能性に挑戦するとともに、次世代の担い手を確保・育成するための環境整備を進めていきます。

若者が前橋市に戻れる仕事、子育てしながらも収入を得られる仕事、障がい者が自らの特性をもって働ける仕事、高齢者にとっての仕事・・・前橋に働く仲間の輪が広がることは政治の責任です。

- 誰でも起業できる起業支援体制を目指します。
- 中小企業振興条例の理念のもと小さな生業を大切にします。

- 障がい者雇用の促進、特例子会社の創設支援。働く喜びを増やします。
- 企業の誘致や企業経営支援。お役所仕事ではない「おもてなし」。
- 「ものづくり」の精神を継承する産学官の取り組みを進めます。
- 学歴より職業人として生きる力を育みます。

医療介護やものづくりでの人材不足の解消も同時に取り組まねばなりません。もし、前橋市の産業立地を阻害する課題があるとするれば、「人不足」でしょう。※有効求人倍率が1.5を超えました。つまり100人に対して150社の求人がある事です。人不足が大きな企業のマイナスになりつつあります。



政府が発表した被害予想図 首都圏直下型地震のケースでは前橋市は被害なしです

赤城シリコンマウンテン構想とは

もちろん、カリフォルニアのシリコンバレーからとったネーミングです。グーグルやアップルのような新しい価値を生み出していこうとの願いです。コンピューターの利用だけではなく、豚肉の味噌漬けの真空保冷方式やキュウリの栽培管理システムだって新しい価値です。新しい価値を生み出す企業を育てる赤城シリコンマウンテン構想はまた一歩を踏み出したばかりです。

- I C T利用の新産業やマイナンバーカード利用の都市づくり
- 企業のデータセンター等のバックアップ機能の誘致
- システムエンジニアへの職業教育を含め「群馬プログラミング大賞」を共催
- 群馬大学工学部と連携した自動運転のレベル4実験
- 前橋工科大学の民間との共同研究費の予算化
- テレワーク等の前橋市らしい多様な働き方を支援
- ヘルスケア産業特区を活用した群馬大学病院や先進的医療機関、地元企業等の連携による、医療機器をはじめとした医療関連産業の創出

上記のような取り組みが成長することを期待しています。でも赤城シリコンバレーの推進に一番必要なのはテレワーク等の前橋市らしい多様な働き方を支援することでしょう。

毎年1,000人雇用を目指しています！

5年間、私は新規起業・産業誘致・農業の6次産業化などを通じて1,000人規模の新規雇用を生み出すために取り組んできました。

すべての工業団地の完売や街なかイベントなどの充実で、シャッター商店街に店舗や活動拠点がオープンし、国道17号のバイパスである上武国道の全線開通を間近にしたロジスティック活用による工業団地の拡充によって雇用の場を増やしてきました。平成24年度から27年度の4年間で、合計3,780人の雇用を創出し、ほぼ「年間1,000人雇用」を実現していると言える状況です。

※1,000人雇用とは市役所の政策の結果として生じた雇用に限定しています。

雇用の内容については、企業誘致などにより新たに進出した企業や店舗、創業サポート等の支援による創業企業や店舗、奨励金や補助金等、市の施策を活用した企業や法人による雇用増のほか、「前橋しごと相談コーナー」による生活保護受給者等への就職支援等が主なものとなります。

今後は、平成29年4月に開設する「**ジョブセンターまえばし**」の就職支援事業における求人開拓・企業支援等によって、より多くの雇用創出が期待できると考えております。さらに若者や失業者、生活保護受給者の社会復帰への訓練の場を提供し、就労を支援します。働ける喜びを皆さんと共有したい。

来年以降は、いよいよ前橋版CCRCによる健康維持ビジネスの伸長と「道の駅」による食品産業、DMOによる赤城山観光の雇用拡大によって次の4年間の雇用を増やしていきます。労働とは希望です。希望のあふれるまちとは市民誰にでも仕事があるまちです。多様な仕事があるまちこそ“良きまち”です。

※「ジョブセンターまえばし」とは大渡町のプール敷地に立つハローワークと前橋市の雇用紹介とのコラボ施設です。

公契約条例（平成25年10月1日施行）

市役所の発注する契約は下請けの会社、そこに働く人達を支えるようにしようという理念です。数値目標や罰則規定を設け地元中小企業の振興を図ります。

公契約とは、当事者の少なくとも一方が国や地方自治体などの公の機関である契約を指します。

前橋市は、市政を推進するために、さまざまな「もの・人・サービス」を契約等により広く外部から調達していますが、それらは、市政の質に深くかかわるものです。そこで、市政目標の実現に寄与すべき契約の基本的なあり方を明確化するために前橋市公契約基本条例を定めました。

市は、入札及び契約手続きにおいて、より競争性が発揮され、公正性や透明性を確保するため、条件付一般競争入札や電子入札の導入を進めるとともに、価格のみの競争から、価格と品質が総合的に優れた調達に向け、入札額だけではなく事業者の提案や技術力等も評価する「公共工事の品質確保の促進に関する法律」に位置づけ

られた総合評価落札方式の導入など契約制度の各種改正に取り組んできました。

また、過剰な競争を排除し、事業者の適正な利潤の確保と保証を目的として、工事及び業務委託に最低制限価格制度又は低入札調査制度を導入し、その充実を図ってきました。この条例を制定する目的は、市が行う契約に係る基本理念を定めることにより、公正性、透明性及び競争性を確保するための施策を推進し、品質及び適正な履行並びに下請負者を含む業務に従事する者の適正な労働条件を確保するとともに、社会的価値の向上並びに地域経済及び地域社会の健全な発展を図ることにより、市民の福祉の増進に寄与することを目的に前橋市公契約基本条例を制定しました。

中小企業振興条例（平成25年10月1日施行）

私は中小企業とか零細企業という言葉は嫌いです。そこには「大きなことが良い事」という気持ちを感じるからです。市長にとっては大も小も関係ありません。ふるさとで経済活動を行い、ふるさとの人々を雇用し、ふるさとかから資材を調達し、ふるさとの一員としての責任を果たしているすべての会社が法人市民です。私は中小零細企業ではなく「地域企業」と呼んでいます。

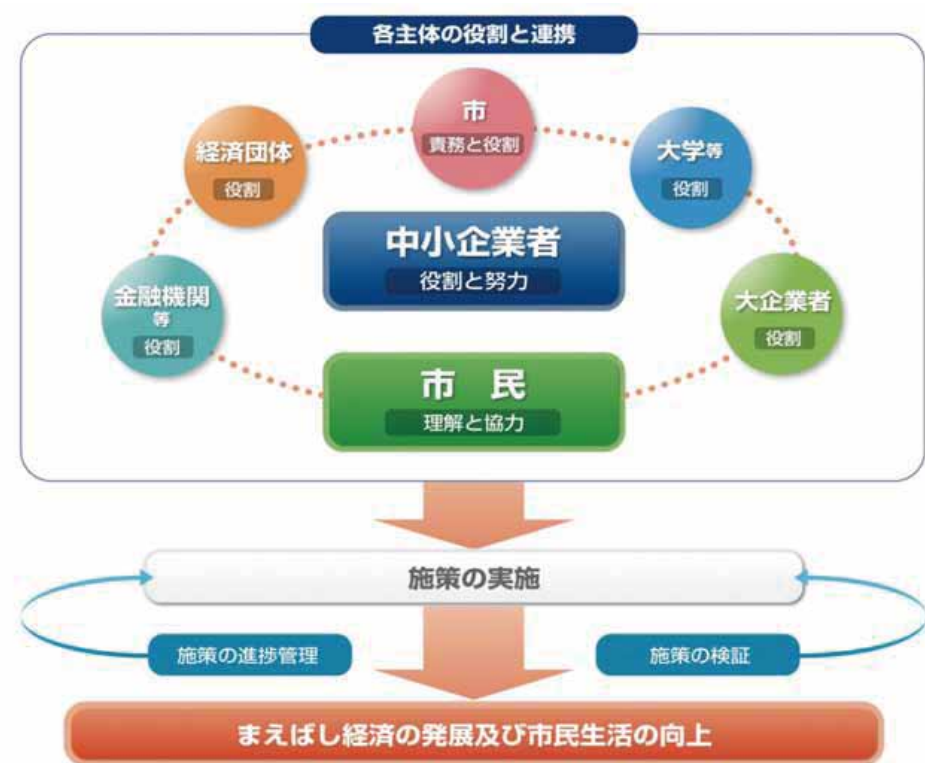
前橋市内における地域企業の99％は中小零細事業者で占めており、市内企業の発展と地域経済の活性化を目指し制定した理念条例です。

【条例の特徴】

1.「市」、「中小企業」、「経済団体」、「市民」、「大企業」、「大学等」、「金融機関等」が連携し、市内の産業振興に取り組むことを示した点。（行政や企業だけでない）

2. 中小企業から中小零細企業まで行き届いた支援と連携ができるよう施策を行うことを示した点。

3. 条例をもとに作成する施策（産業振興ビジョン）の実施状況を検証するため、産業振興ビジョン協議会を定期的に開催し、中小企業者の方々からの意見を施策や事業に反映していく点。



御用聞き型企業訪問

地域企業が何を作っているのか？何を商っているか？を知らないで産業政策を行うことなどできません。地元企業の意見を聞き、地域の活性化を図っています。

規模の大小にかかわらず、企業経営には運営上の課題があります。そうした課題を解決するための支援機関や助成制度等は多数ありますが、実際には県や市に向いて相談するといった「敷居の高さ」がネックになっています。

そこで、前橋市、前橋工科大学、前橋商工会議所、専門コーディネーター等の有識者チームが直接企業を訪問

する「敷居の低い」相談支援により、企業が抱える課題の解決策を提案します。また、この有識者チームだけで解決できない場合には、他の支援機関と連携した柔軟な企業支援に取り組んでおります。

平成27年度から開始したこの事業は、昨年度の1年間に、延べ186件の企業訪問を実施し、今年度も継続実施しております。

小口資金及び中小企業経営振興資金 保証料の負担ゼロ 借換融資条件を緩和された保証制度の実施期間の延長

厳しい経済状況の中、中小企業及び小規模企業者がより円滑に資金調達を行なうために「保証料補助事業者負担ゼロ」「融資利率の引き下げ」「借換融資条件の緩和」「融資期間延長」など実施しました。

その結果、事業者にとって利用しやすい融資制度となったこともあり、今年度に入ってから融資実績は9月末時点の半期実績で、953件、6,102,822千円と、昨年度1年

間の実績、537件、2,825,647千円を大幅に上回るペースでご利用いただいております。

この状況を見ますと、中小企業者が抱える課題である資金繰りの改善や、設備投資の後押しをするなど、市内経済の活性化に対して一定の効果が表れたものと分析しております。

10章 賑わいの復活

街の賑わいを復活させる

今、どんどん中心市街地のシャッターが開いています。人々が出会い、結びつく新たな「中心市街地」へ。錆びついて、ギシギシと鳴くだけで動かなかった前橋の街を動き出させるのはこの手しかない。JR前橋駅からベイシア文化ホール(県民会館)までの中心市街地が長期間放置されてきました。商業の集積地は移動しますが、中心市街地は人が集まり、交流する場所であり、市のシンボルです。そのため活性化は必要であり、市民や商工会議所、民間企業と連携した町おこしに取り組んできました。その足取りと将来展望を検索します。

その基本スタンスは「市役所は漕ぎ手ではなく、かじ取り」です。個人や民間、企業が生き生きと漕ぎ、かじ取りするのが行政の役割ではないかと思っています。JINSの田中仁さんや、吉岡町で伊香保おもちゃと人形博物館を運営する横田正弘さんといった前橋出身の人たちが、中心商店街の活性化に独自に乗り出してくれました。空き店舗に、勇気を持って進出する若者も増えています。そういった愛郷心に感謝し、行政は行政としてできるサポートをする。空き店舗への入居・開業支援制度があり、中心市街地でも、制度を活用してこの3年で40店舗以上の開業がありました。歴史文化・サブカルチャーの活用などを進めています。

中心市街地の再生

なぜ中心市街地は寂しいのでしょうか？「買い物」ではなく『出会い・集い・交流し・新しい価値を生むだす場』への転換が遅れているからです。

「学校・住宅・商業施設が郊外に行ってしまった」「自動車が無料で置けないから」「公共交通が不便だから」などの理由があるでしょう。しかし最大の理由は「商業という役割が郊外のモールに移動したのに、商業の役割以外の機能を生み出していない」からです。新しい役割、つまり人が行く魅力がなくなってしまったのです。

新しい中心市街地の役割とは？すなわち「行く(住む)意味」を作らなくてはなりません。それは『出会い・集い・交流し・新しい価値を生むだす場』です。その意味を果たすための機能には以下のことがあるでしょう。

- 街中ウォーキングで健康指導が受けられる
- 木立や川面でのんびり
- イベントやバーで誰かと出会う
- 近所のお店が便利で老後が安心

● 広瀬川テラス構想
 ● 前橋商工会議所からの提言書より

なぜ今までの取り組みが活性化に結びつかないのか？

- コンセプトをもって中心市街地をマネジメントする機関が必要である
- 多様な行事、商店の魅力を広報し一つの情報モールをつくる
- FM、チラシ、SNS、大型テレビの複合発信。MediaMix
- 街なか居住を進める
- 景観形成を進める
- 個々のイベントの連携がない
- 公的組織の主催がおおく前年踏襲になっている

色々な意見があるでしょう。確かにそうだと思います。でも、街の風情が醸し出すわくわく感が足りないのです。昨年思い切って広瀬川で川下りとアヒルのレースをしました。雨の中でも広瀬川の岸辺に大勢の市民がワイワイと連なって川面を眺めています。今までこんなにも大勢

の市民が広瀬川の流れを見つめた事があったでしょう
か？一昨年のカモの卵救出以来でしょう。

私は商工会議所から提案された「広瀬川テラス構想」に大きな夢を感じています。

※歴史を活用した広瀬川テラス構想

倉敷市の美観地区をご存知でしょうか？前橋市は倉敷を目指します。新しいウォーターフロント水辺空間です。八咫烏の熊野神社、広瀬川・・・古の価値と新しい価値が共存する街です。広瀬川のボート下り、えっ！？と驚く新しい価値を生むのです。そこに「自由」という発想で新価値を生んでいきます。でも自由でも人に迷惑をかける人は退去です。違法駐車やゴミの投棄、通りを塞ぐ客引きは禁止されます。



A 人と芸術・ふれあいゾーンのイメージ



B 河沿いのまち・エントランスのイメージ



C 緑と芸術・創造ゾーンのイメージ

**様々なイベントが街に集いを創り、
結び合った市民が新しい価値を生みます**

<いくつかのイベントを紹介します>

前橋けやき並木フェスタ

前橋の玄関口である前橋駅北口広場から繋がるけやき並木の美しい景観と広い歩道、通りに点在する駐車場などの民有地を活用しながら、地元関係者とこれからの前橋を担う人材である若者、関係団体など多様な人々の連携や協力のもとに開催し、駅前周辺のにぎわい創出、魅力あふれる空間づくり及び中心市街地の活性化につなげていくことを目的に実施。



けやき並木ライトアップ(平成27年度～)

前橋市のシンボルであるけやき並木については、戦後復興の中で植樹されたことから、昨年度、戦後70年の節目を迎えるにあたり、前橋市民に寄り添いながら存在してきた場所であることを再認識し、シビックプライド(地元への愛着)を醸成させると共に、本市のプロモーション事業として位置づけることを目的に実施。



駅前ままマルシェ（市：後援 平成27年度～）

児童に健全なる遊びを与え、その健康の増進を図る地域の一次産業活性化・つくり手と消費者のコミュニケーション創出を目的にJR前橋駅とM・waveが主催。



まちなか学園祭

市内の大学生や専門学校生に、前橋の企業の魅力を伝えることも大切なシティプロモーションだと考えている。同時に、学生に対しても前橋での思い出を残してほしい。いろいろなチャンネルを使って市に魅力をアピールしていく。

各大学や専門学校のもつPRポイントを学園祭形式で発信することを通じて、市内・外の企業や進学を控える中高生とのマッチングを期待するもの。学生実行委員会がH24年度より年1回、開催中。

また、中心市街地に馴染みのない若い世代に対して、学生時代にまちなかでの活動を経験してもらい、学生相互はもとより地元関係者との人的交流を通じて、将来的に来街してもらえる関係性づくりの構築を目指す。

前橋合同学園祭 中心街にぎわう

けえろう祭

平成19年12月8日に、前橋プラザ元気21共愛学園前橋国際大学の学生らで組織する地域活性化グループ「共愛学園イレブン」が主導する地元商店街連携型の学園祭イベント。

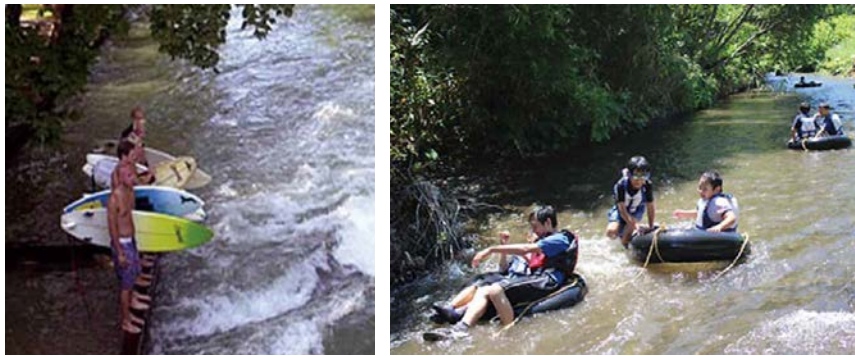
共愛学園がかつてまちなか（岩神町）にキャンパスを設けていた経緯になぞらえ、共愛学園がまちなかに「けえる」（帰る）ことと、商店街ににぎわいが戻ることを企図しており、今年度で第1回を開催。

学生自らが事業計画を立案し、商店街や企業、行政らと交渉しながらワークショップや商品開発などを進めており、グローバル人材の育成に向けた大学教育の実践と商店街活性化の両面を目標としている。

広瀬川リバーフェス

ただ見ているだけの川が遊び場所に変身した。チョットした知恵と勇気があれば町は変わる。

きっと未来は川でサーフィンする若者が集まるリバーフロントになる！倉敷の美観地区もコレにはかなわないだろう。



45日イベント

前橋の「まちなか」と呼ばれる旧市街地を舞台に、「前橋を〇〇で盛り上げたい」とする志民(市民)の自発的な活動を、さまざまな仕掛けと演出によりクローズアップした地域活性化事業。

平成27年度に続き、第2回となるH28年度は「45のわたしたちの前橋～やりたいことができる街。～」をメインテーマに、9月22日～11月5日の45日間、45企画を展開中。

前橋の食文化の豊かさのPRや芸術文化振興はもとより、子育て支援や環境問題などの社会的課題へのアプローチのほか、スポーツ体験やゲーム文化、昭和レトロなど、多様な市民による主体的な諸活動を、まちなかの活力に転換する仕掛け、それがMaebashi 45DAYSである。

空き店舗への入居・開業支援制度

中心商店街の活性化に独自に乗り出しています。空き店舗に、勇気を持って進出する若者も増えてきました。この1期目の4年間、中心市街地に住む人、訪れる人を増やす方向で取り組んできました。その結果中心市街地でも、制度を活用して58軒の空き店舗のシャッターが開きました。

今後もこの方針に沿って、市が大型ビルを建設することをやめ、訪れる楽しみを増やし、暮らす人を増やすために知恵を絞っていきます。市民自らが中心市街地で、いろいろな企画により活動しています。あくまで街中再生の主役は市民です。

交流の場としての機能とは？

自由な場です。旧麻やデパート跡の広場（中央広場）にイベントスペースを確保しております。市民の自由で自主的な活動が人を呼び込んでほしいと願います。また。テルサホールや喚呼堂ホール、シネマ前橋、など…

広瀬川のほとりに建設中の住友不動産のビル一階には200席ほどの多目的ホールが設置される予定です。少し東

の三河町の文化芸術レンガ蔵やQの街広場という旧長崎屋跡もジャズなどの軽音楽ができる環境を作りつつあります。多くの市民が自らの企画で楽しみを再生してほしいものです。街中の情報を一元化しようと24年から「イグー」iGooというサイトを立ち上げて街中でイベントやコンサートを開催したい方への情報発信をおこなっています。

1. H26年度概要①：取扱い施設（28施設）



こうして街のシャッターが開いてきました

下の中心市街地の地図のようにシャッターが閉じていた店舗に新しい挑戦が始まっています。馬場川通りでは空き店舗のシャッターが開きました。一度、中心市街地にお出かけになり、通りを歩いてください。



コラム 45日イベント新聞に若者の書いた文章です

45days はじまり、はじまり。

まだ「前橋」を知らない私たち、が「前橋」にまみれていく45日間。

8月某日。それは、あたりは薄暗くなり、建物の明かりがぼつぼつと目立ち始めた頃のこと。私たちが案内されたのは、中央通りの一角にある、通りでもひとときわ明るい建物。その中には、入口のドアから溢れんばかりの熱気と、たくさんの人。「なんだここは」正直なところの私の第一印象だ。

大学へ入学し前橋へ通うようになってから1年と半年。自分でも少しずつ、前橋という街に慣れてきたという自信はあったが…もう一度言おう。「なんだここは」それほどまでに驚きだった。(中略)

こんな前橋知らない。ふと、誰かが言っていたのを思い出した。「前橋はカオスだ」という言葉。当時は実感がわかなかったが、なるほど。確かにこれは、カオス。全容はこうだった。「何のわたしたちの前橋」をコンセプトに、何個のイベントが開催される45DAYS。この日はその企画者たちが集まる、全体ミーティングなのだ。しかも彼らは全員前橋にゆかりのある一般市民。どの方も生き生きとして、楽しそう。初対面の方が多いはずなのに、そんなことはみじ

んも感じさせないほどににぎやかだ。周囲の熱に圧倒され戸惑っていた私に、話しかけてくれた女性がいた。大学生である彼女もまた、イベント企画者だという。私と同じ学生も、企画側に立っている。感嘆し、思わず参加した経緯を尋ねた。「昨年の前橋〇〇特区の企画に、参加者として関わらせていただいて。今回はぜひ運営側で、と思い応募しました」輝いた表情で話す彼女に、見惚れてしまった自分がいた。カッコいい。その方に「楽しいのでぜひ来てください」などと言われたら、それも笑顔で言われたら、もう行くしかない。イベント名をちゃっかりとメモに書き込み、彼女の名前もしっかりと覚えたのは内緒の話。きっと、ここにいる全員が、それぞれの前橋にかかわる物語をもっている。

本来なら接点のない人たちが、「前橋」という共通点だけで繋がっていく。楽しくないはずがない。わくわくしないはずがない。見逃せるはずがない!個性的な各団体の持つ熱い想いそれらがイベントとして目に見える形で現れたとき、果たしてこの「前橋」はどんな姿を見せてくれるのだろうか。

まだ「前橋」を知らない私たちが、「前橋」にまみれていく何日間の、はじまり、はじまり。(ともこ)

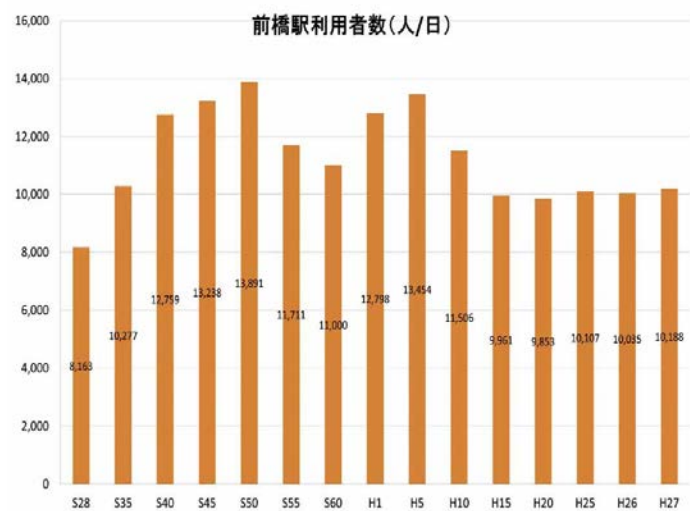
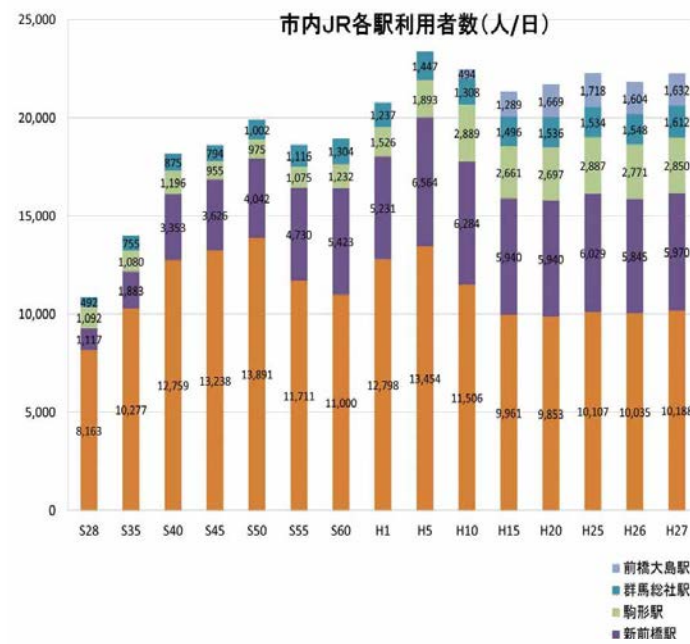


45日デイズのある日。オクトーバーフェスは大賑わい



45日デイズの期間中、毎日新聞を出してくださった実行委員会に感謝します。

JR前橋駅・鉄道の沿線開発で乗車率の伸ばす



〈このほかの乗降客増加策〉

- 駅周辺の市立駐車場や駐輪場の利活用の向上
- 駅前にデジタルサイネージでスポーツや前橋の見どころ紹介を検討。
- マエチャリ(実は導入済みですが宣伝が下手で知られていない)の活用。
- 駅前のケヤキ、全部、イルミネーションが設置できないか？
- 上電をJR前橋駅まで延長できるか。5差路の坂は登れるか？
- 江原家が所有するレンガ倉庫群の歴史価値を発信できないものか？
- 住吉町の安田レンガ倉庫も美術作品の展示会場に使用できないか？
- 群馬総社駅の渋滞緩和や道路改良や西口開設。



「エキータ」の今後？

空きビルが2012年11月15日オープン。「新しい駅ビルはエキータです。」と新聞発表に市長として安堵を感じました。JR前橋から新しい前橋が再生できることを期待しました。しかしその後の紆余曲折によって残念ですが前橋駅前を再生する力にはいまだなっていません。

そして難しい経営判断の上でも、前橋の玄関口の再生出発に力を貸したいと取り組んで下さった運営会社のY社は撤退され、現在はビルの所有者も大阪にある不動産会社へ移っています。

市民からは「民間に任されるのではなく、市が購入して安く貸し出せばいい」「イトーヨーカ堂を市役所に」との意見もあります。しかし市がビルを購入し運営することは難しいし、商業的に成功するとも思えません。いろいろな形で空きビルの再生が行われていますが、前橋市における再生は民間の力を借りて行うべきと考えています。

再開発などの支援によって、民間ビルの再開発が進もうとしています。民間が前橋市の潜在力を引き出す気持ちになってくれるような政策支援こそ重要です。

街の姿を変える

JR前橋駅から県民会館までの中心市街地が長い間に放置されてきました。まるで固まった石像のように動かない街を再起動させるために取り組んできた結果が表れてきました。中心市街地総合再生計画を国土交通省に申請し、当該地域における再開発事業を行う民間への支援を行ってきたからです。

前橋駅からケヤキ通りを北へ向かった本町5差路に放置されていた旧協栄生命ビルが解体されています。広瀬川の尚美幼稚園の隣にある2棟の古いアパートも解体が進んでいます。どちらも民間の再開発です。前橋市に投資する価値がある証明です。

前橋駅前の駐車場、サイクルステーション、日本通運さんの跡地の再開発、駅前のケヤキ並木に更に400人収容のホテル、ジーンズの田中氏による白井屋旅館さん跡のホテル建設、広瀬川北の住友不動産のマンション、街中に計画中のシュエハウスへの転用…

街が生まれ変わろうとしています。人が住み暮らし集う中心市街地に再生する一歩です。

※現在前橋市は国土交通省に対して前橋市市街地総合再生計画、前橋市立地適正化計画、公共交通網形成計画の3つの計画を提出しております。今後の前橋市は大きく国と県の支援を受けながら街なみの整備と交通網の整形に進んでまいります。



旧「前橋ビル」解体
民間の主導で再開発

前橋市市街地総合再生計画とは

中心市街地では、老朽化した建物や平面利用されている駐車場なども多く点在していることから、土地の有効活用による民間主導型の再開発事業を促進するため、「前橋市市街地総合再生計画」を平成27年5月に策定いたしました。計画期間につきましては、平成36年度までの10年間とし、全体の計画区域はJR前橋駅周辺から中心商業地、県庁市役所周辺までを含めた約140ヘクタール、そのうち重点施策区域として約71ヘクタールを指定いたしました。

計画では、中心市街地におけるそれぞれの地域特性に合わせた「整備方針」を定めるとともに、再開発事業の補助要件を緩和したことで、関係権利者の方々や民間事業者の方々が事業に取り組みやすい環境を整えました。

この結果、1階には店舗や事務所、2階以上には住居を整備するなどの民間再開発事業が複数の地区で進められており、官民一体となって中心市街地の再生に取り組んでいます。

前橋市立地適正化計画とは

人口減少・高齢化社会において、持続可能な都市であり続けるためには、医療や福祉施設、商業施設や住宅などがまとまって立地する「コンパクトなまちづくり」の実現が求められています。

立地適正化計画では、基礎調査における人口密度の分布状況や交通条件、様々な施設の配置状況等を分析したうえで、医療・福祉・教育・商業などの施設を今後誘導していく「都市機能誘導区域」や住宅などを誘導していく「居住誘導区域」を定め、それぞれの区域を公共交通によりネットワーク化することで、日常生活に必要なサー

ビスが住まいの身近に存在する、「多極ネットワーク型のまちづくり」を目指していきたくと考えております。

今後の社会経済情勢を考えると、市税の減収や公的資産の管理コスト、扶助費の増大などから、市民サービスの低下が懸念されるところであり、立地適正化計画に基づく民間施設等の誘導や公的不動産の活用、公共交通の再編など、様々な施策との連携を図りながら、将来を見据えた持続可能なまちづくりの実現につなげていきたいと考えております。

地域公共交通網形成計画とは

人口減少や高齢化の進展、過度な車依存により、公共交通の利用者が減少しサービスの低下が懸念されることから、地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会（行政、公共交通事業者、道路管理者、警察、住民代表等で構成）を設置し、地域公共交通網形成計画を策定します。

この中で、まちづくりと連携しながら、既存の鉄道、路線バス、タクシー等の見直しはもとより、新たな交通システム（LRT等）の導入検討を行い、誰もが移動しやすく、人と環境にやさしい持続可能な公共交通ネットワークの再構築を目指していきます。

民間資本の力でJR前橋駅周辺が動き出した

市役所が税金でビルを造る時代は終わったのです。大和リース株式会社が市の平面駐車場を借り上げ、立体駐車場と立体駐輪場、サイクルショップを開業してくれました。つまり市は借地料が確保され、さらに商業施設は大和リース社が自己責任のもと運営してくれる方式です。

森田俊作・大和リース株式会社社長は挨拶で、『何をやったら儲かるかではなく、人々が何を必要としている

かに基づく、公の精神』で事業をやっていきたく』と今回の前橋駅前プロジェクトに寄せる熱い情熱を語ってくださいました。

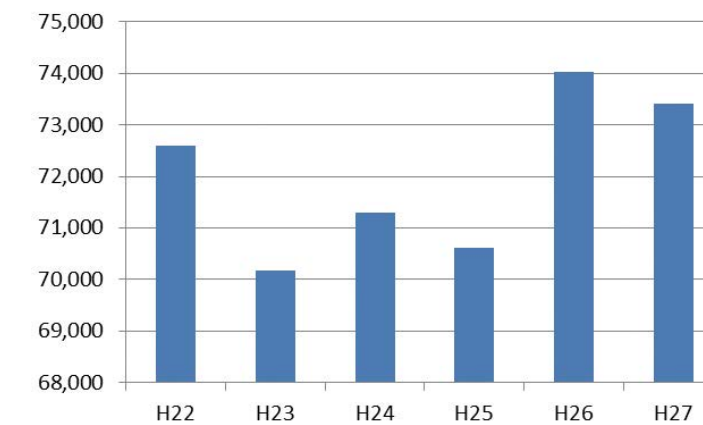
民間の主導で再開発
補助への要件談話

JR前橋駅舎が改善

駅が変わることは前橋市のイメージが変わる事です。駅中のJR前橋駅に開設された売店をキレイにして、年間売上げ1億円を目指しています。駅は外から来るお客様にとっての玄関です。キレイにして機能的に変えていきます。そして多くの市民にとって

もキレイな駅の方が親しみやすいはずです。ここを単なる通過点から市民の憩う場所に変えたいのです。高校生の学習スペースなども必要でしょう。駅にも憩い、集う場を設置していきます。

■売上げ 前橋物産館「広瀬川」売上げ推移



コラム GIANTショップ

群馬県の県庁所在地である前橋に、世界的自転車メーカーの直営店「ジャイアントストア前橋」が2016年9月12日、オープンしました。

駅前北口の一等地に建った「ジャイアントストア前橋」は、広さ約30坪。明るい店内には、ロードバイク、クロスバイクを中心に、約30台の自転車が並んでいます。ジャイアントストア前橋店の店長を務めるのは中島康仁さん。メカニックとして世界中を転戦し、その技術と経験が高く評価され、ジャイアントストア前橋店の店長に抜擢されました。前橋市内の「バイクショップ・ナカジマ」のオーナーでもあり、「前橋の自転車文化の発展に貢献していきたい」と話してくれました。

「サイクルツリー」と呼ばれる機械式立体駐輪場も大和リースによって完成ガラス張りの円筒形の立体駐輪場でジャイアントストアのレンタルバイクも収容されています。国内初の試みです。

いよいよ、駅前から変わりつつあります。昔から、駅を中心として都市は栄えて参りました。前橋も駅を大切にしていきたいと思っています。駅を中心として景色が変わっていく第一歩が、立体駐輪場『サイクルツリー』であり、世界最大の

自転車メーカーのジャイアントストアであります。自転車を通して、市民が交流できるような街を作って行きたい。

赤城へ、赤城へと自転車の道が連なっていく。二年後には赤城山への自転車専用バイクレーンを作りたい。そして駅前裏通りは石畳に整備します。前橋は、自転車、自動車、歩行者それぞれが尊重し合えるような都市を作っていきたいと考えています。その第一歩になると信じています。駅からはじまる前橋の『自転車によるまちづくり』どうぞ皆様のお心とお力を今後共お寄せいただきたいと考えております。



学生シェアハウスや芸術家のアトリエが出来た理由？

共通の趣味を持つ仲間が交流する部室など、最近では中心市街地を様々な活動の拠点として求める動きが活発化しつつあります。

「中心市街地」を舞台に、多様な人々が出会い、結びつくことで、新たな前橋の魅力が生まれます。芸術文化活動の発信拠点であるアーツ前橋や広瀬川のほとりに建つ前橋文学館も、その一翼を担います。何よりも此処の価値を感じ暮らし住む人が増えなければなりません。若者が街なかに集住してくれる支援を作り、合わせて起業できる環境を整備します。

何度も繰り返し恐縮ですが中心市街地の定義は交流です。ギリシャやペルシャ、シルクロードのキャラバン隊が交易する広場。戦勝を祝い、市民が蜂起した中世のヨーロッパの広場。どの都市にも中心市街地は 歴史的な景観を維持し交通の結節点としての中心の機能（セントラル）がありました。集い・出会い・交流し・新価値を生む場。遠来の客人を歓迎する広場、バザーや朝市で交易が行われる広場。村の長老と若者が語り、祭りが催され、哲学者が思索する広場なき都市には民主主義は生まれない。今、前橋市に市民の集う場があるでしょうか？郊外の商業モールやコストコには毎日何千の市民が集うでしょうが、そこに市民同士の交流はあるのでしょうか？買い物棚を見つめレジに並ぶ市民は買い物のために出掛けて居るだけです交流を期待してはいません。真剣に品物を見つめるだけです。

今、前橋市に必要な都市機能は「交流できる広場」です。広場に立ち寄る人々を歓迎する心です。この広場には障がい者、子ども達、高齢者、海外からの観光客など多様性を受け入れる精神と利用しやすいデザインやおもてなしの心が必要です。多様性を受け入れる街、店舗、広場を作っていきます。サブカルチャーだって大道芸人だって迎え入れる広場空間こそ中心市街地の要素です。

中心市街地を交流拠点に、市民による自由なイベントが開催される町です。中心市街地の空き店舗の流動化を進め、新規出店・開業の増加を図ります。

そして住みたくなる街です。シェアハウスもアトリエやアーチストレジデンスも、古い商店を改造して住まいにする暮らしの街です。



シェアハウスの中で語り合う学生

デザインで街を再生する

前橋市で日本建築家協会関東甲信越支部による前橋市本町をモデルにした建築デザイン提案の意見交換が行われました。素晴らしい!と感じました。デザインが街を変える・デザインの力はすごいな!と感じます。主催者の中には前橋市身設計家が三名もいらっしゃいました。
・林昭男さんは前橋の図書館の設計者
・宮崎晃吉さんは東京の下町の古い建物を改装しコミュニティ再生

・長井淳一さんは前橋の八幡宮で命名された
前橋市本町のデザイン案は、コミュニティの再生がキーワードとなったデザインです。機会があれば、市民や自治会の皆さんに彼らの話を聞いてもらいたい。私だけではなく市民に共有されたデザインを考えていきたいと思います。

【コンペ入選デザイン】



空き家の利用・危険な空き家の撤去が必要です

空き家を活用し、近居・三世同居を推進することや、不衛生・治安課題のある空き家の解体は前橋市にとっては大きな課題です。前橋の空き家率は15.9%といわれています。危険空き家の認定と解体や利用補助を取り組んできました。

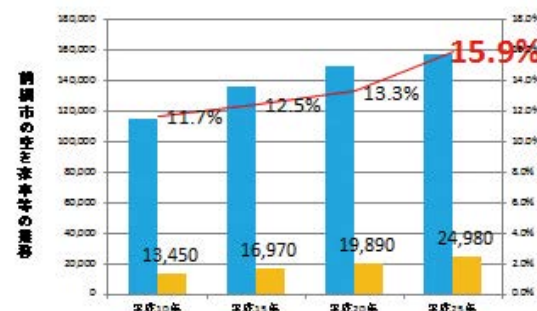
・特定空き家の認定

特定空き家とは、①保安上危険、②衛生上有害、③景観上問題、④生活環境上不適切な空き家をいい、市が調査し『特定空き家』として認めた場合、所有者に対して撤去や修繕を勧告・命令できるようになり、固定資産税の優遇措置（1/6減免）が解除されたり、強制撤去などの法的措置が講じられます。

なお、本市においては、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき指導、勧告、命令等の手続きを経て、前橋市空き家対策協議会の助言を受け、現在2件の特定空家の認定を行っており、うち1件は平成28年7月に行政代執行を行いました。

本市の空き家の実態（住宅土地統計調査）

全国の空き家は、約820万戸 空き家率 13.5%
※平成20年空き家率 13.1% **0.4ポイント増加**
群馬県の空き家は、約15万戸 空き家率 16.6%
※平成20年空き家率 14.3% **2.3ポイント増加**
前橋市の空き家は、約2万5千戸 空き家率 15.9%
※平成20年空き家率 13.3% **2.6ポイント増加**



・空き家利用の手引き

事業名	補助内容	限度額	加算額	最大補助金額
空家活用支援事業	リフォーム（戸建住居）	100万円（1/3限度）	転入加算 20万円（4人まで） 子育て世帯支援加算 10万円（4人まで） 若年夫婦支援加算 10万円（4人まで）	230万円
	リフォーム（特定活用）	200万円		200万円
二世世代近居同居住宅支援事業	新築	120万円（1/3限度）	転入加算 20万円（4人まで） 子育て世帯支援加算 10万円（4人まで） 若年夫婦支援加算 10万円 ※老朽空家対策事業併用可能 50万円	300万円
	改修	120万円（1/3限度）	転入加算 20万円（4人まで） 子育て世帯支援加算 10万円（4人まで） 若年夫婦支援加算 10万円（4人まで）	250万円
老朽空家等対策事業	解体	10万円（1/3限度）		50万円
	駐車場利用解体	20万円（1/3限度）		
	※住居利用解体	50万円（1/3限度）		

老朽空き家等対策事業



◇加算額
解体後の跡地を駐車場として整備した場合10万円加算
解体後の跡地に住宅、店舗などの建築物を設置した場合40万円加算

空き家の活用支援事業



空き家等を活用した二世世代近居・同居住宅支援事業



群馬県内の空き家グラフ



コラム 四国の丸亀商店街を再生した森ビルへ突撃

市長就任以来、よく聞こえた声がある。「どうせ街は変わらない」「昔のような活気は二度とない」というあきらめた感情である。官民連携事業、ソーシャルアクション支援、再生エネルギー事業創出等々で新しい価値を街につけることにより前橋再生を進めていたが、この街に必要なのは、もっと大きな「街の景色を変えることではないか」と思っていたところ、日経新聞に「森ビルにより高松市丸亀商店街再生」の記事を見つけた。

「森ビルの街づくりノウハウを四国地方で展開。森ビル都市企画株式会社が400年以上続く歴史を誇る高松中央商店街の一つである高松丸亀町商店街の再開発事業を実施。土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ることを目的に、商業施設、ホテル、広場、駐車場、駐輪場といった多様な機能を集積し、住宅を併設することで市街地中心部での居住人口増加を促す。」

2013年の記事が出たその日のうちに連絡して、森ビル都市企画会社の山本社長、丸亀再開発の担当者であった貝島氏を訪問して協議した。幸いにも興味を持っていただき、アドバイスを頂くことが出来た、今日でも連携が続いている。

特に、広瀬川沿いの交水社における住友不動産による再開発事業は、森ビルの調査において、前橋市のポテンシャルを高く評価していただいたことがきっかけである。前橋市で初めて、大手の住友不動産の開発が始まったことは、現在の中心市街地各所における再開発に大きな影響があったことは言うまでもない。もちろん、何十年と動きの無かった本町2丁目五差路の幽霊ビルや駅北口の再開発にも良い影響があったと考えている。今、街の景色は大きく変わりつつある。

11 章 歴史・文化

歴史・文化の前橋らしさ

ここにしかない力が前橋にはあります。歴史や文化を活用した魅力です。赤城山も東京からさん近距離にある山岳レジャーです。4月に開催する県内初のフルマラソン。赤城山への自転車大会、サッカーのジュニアクラブ選手権をはじめ全国的な大会をどんどん誘致開催し、前橋を全国に発信していきます。19年のラグビーワールドカップ、20年のオリンピックに向けて前橋を発信します。阿久沢家や大室赤城民家園、歴史景観、歴史の散歩。ほんものの食、花や山岳……前橋の観光都市としての挑戦です。「歩いて、楽しい街づくり」として、市内の「知られざる魅力」名所や旧跡を磨き、伝統を発掘、発信していきます。前橋の魅力である「市民のおもてなしの心」で歓迎していきましょう。

NHK大河「花燃ゆ」は視聴率が低かったですが、前橋市の歴史のすごさを学ぶことが出来ました。

松陰の精神と「八重の桜」の新島襄のピューリタニズムが交わり、新しい精神が上州の今日を形作ったと私は考えています。そこには前橋人の先駆者としての誇りが表れているのです。海を渡り、多くのアメリカ人に日本人の心を伝え尊敬を得た後に日本に教育を持ち帰り広めた新島襄と、アメリカへの渡航叶わずも日本の変革に力になった吉田松陰の魂の表れです。

先日、前橋公園芝生広場で「楫取素彦と松陰の短刀」の銅像が市民の寄付によって建立されました。私は除幕式にて先人が成した前橋の誇りをここに表すことができたことに嬉しくなりませんでした。群馬県教育と産業の発展に尽くした初代県令楫取素彦の功績を顕せられたことは私にとっても喜びです。銅像は楫取県令と友の吉田松陰にまつわる銅像です。群馬県産の絹を直接アメリカへ輸出するため渡米する新井領一郎へ、楫取が松陰形見の短刀を託すシーンを再現しています。前橋市の新しい名所のひとつになれば良いと思います。

当時の日本は、生糸が代表的な輸出品でしたが、旧水

沼村(現桐生市黒保根町水沼)に水沼製作所を設立した星野長太郎は、生糸の直輸出を行おうと楫取県令に嘆願し、弟の領一郎をアメリカに派遣する計画を立てました。渡米の際、楫取の妻寿(ひさ)は、渡米を夢見ながら果たせなかった兄・松陰の形見の短刀を領一郎に託しました。渡米後、領一郎は、ニューヨークを拠点に生糸の販売に成功、日米貿易の先駆者的役割を果たしました。除幕式の会場で、その短刀が領一郎のご子孫から、楫取県令のご子孫に手渡され、前橋市に寄託されることが発表されました。松陰の魂が込められた短刀が、約140年近くの時を経て群馬の地に戻って来ることになったのです。領一郎のご子孫の方は、「松陰の魂の入った短刀を多くの若い人に見てもらって何か学んでほしい。」と話していました。

吉田松陰の妹たちの事、新井亮一郎の事、養蚕、製糸の産業、往時の前橋人の志・・・たくさんの事を学んだNHK大河ドラマ「花燃ゆ」が私たちの故郷を舞台にしたことを誇りに思います。

歴史と文化遺産を生かした地域づくりがなぜ必要なのか？

それが“前橋らしさ”だからです。レンガ倉庫があるのは松平家によって日本で最初の製糸工場が建てられ生糸業による日本の近代化の礎になった土地だからです。それが前橋のDNAであり前橋が誇る歴史だからです。古墳時代から中世、近世、明治維新、そして前橋空襲、復興、現在まで続く前橋のDNAを磨くこと、そこから光りだす歴史と文化を新しい前橋の宝物にしていくことが私たちの仕事です。

越後妻有の大地の芸術祭、中之条ビエンナーレ、瀬戸内芸術祭などの地域発のアートフェスが地域おこしの成功例になっています。オリンピック向けの文化プロジェクトを東京都小池知事が表明されました。文化を磨くことは前橋でも大切な取り組みです。何故ならオリンピックは

スポーツの祭典ではなく、多文化の祭典です。日本文化、郷土の文化でもてなしを進めます。東京一人勝ちはあり得ない。日本文化は地方にこそ存在します。グローバルな東京にはないローカル日本が地方にはある。だからこそ「前橋らしさ」を見つけ、磨くのです。

「前橋らしさの発信」までの歩み

「真の郷土振興のため」歴史を磨いてきました。「どこの郷村にも、有名無名の先覚者がいる。いつの時代も、必ず誰かが、人々の幸せを祈り、その実現に努力してきた。人々は、その徳を顕彰し、あるいは口伝し、あるいは一書をなし石に刻す。しかし、それらは一世代三十年もすると、大抵は忘れ去られ、碑は撫然と屹立している感じがする。真の郷土振興は、先人の遺風、業績を新たに掘り起こすことから始まる。過去を継承せずして健全な未来の創造はあり得ない」（元埼玉県嵐山町長・関根茂章氏）。歴史はその地域の独自なもので同じ歴史などありま

せん。まさに風土が育んだ人の積み重ねが歴史です。戦後の高度成長期は東京を手本とした開発が地域振興でしたが、これからは地域の歴史や文化を生かしたオンリーワン型の地域おこし。地域に眠るお宝を発掘し、地域づくりのもとにするために、文化国際課内に歴史文化遺産室を設置し、学識経験者や市民からなる歴史文化遺産活用委員会を組織。個性あふれる魅力ある歴史観光都市前橋を市民が参加して持続して創り上げる仕掛け（文化創造基盤）の構築、グランドデザインを描く活動が5年前にスタートしました。

その【方向性＝グランドデザイン】は次の2点です

- 1 歴史文化遺産の掘り起こし→モデル事業→歴史空間と歴史回廊→歴史観光都市まえばし
- 2 市民が主体的に参加（自己実現と地域づくりが一体化した学び＝官・館・民・学の連携による前橋学の創造）→第1次、2次、3次産業と連携（地域固有のブランドとして勝負できる地域産業資源―農林水産物・加工品、ファッション、観光など）→文化創造基盤と稼ぐ力の基盤の一体化

5年間に取り組んだ文化プログラムを紹介します

あまりにもたくさんの事に取り組んできました。その多くが群馬県庁にて歴史の発掘に取り組み、新聞やテレビで活躍する手島仁さんの力によるところが大きい。さらには、前橋の各地において郷土の歴史を守り磨いてきた多くの市民こそ最大の功労者でしょう。もちろん手島さんの研究する前橋学を行政や事業に昇華させてきた市役所の仲間たちの努力に対しても感謝を申し上げます。

<主要なプロジェクトのみ紹介します>

◆ 前橋学市民学芸員の養成

前橋の歴史遺産活用の柱は人材育成である。この講座に応募され、忙しい日々の中で学び続けた皆さんの存在こそ、前橋の宝物でしょう。

歴史と文化を生かした地域づくりの担い手として、前橋学市民学芸員を養成している。対象は前橋市に在住・在勤（ボランティアを含む）の方で、大学の単位取得と同じように15回の前橋に関する歴史と文化を内容とする講座を受講した方に修了証を発行し、その資格を認定している。

平成26年度から始まり、すでに次のように、第1期（平成26年度）86人（男50、女36）、第2期（平成27年度）37人（男23、女14）、第3期（同年度）17人（男11、女6）、第4期（平成28年度）32人（男21、女11）と、計172人の市民学芸員が誕生した。定員30名（原則）で毎年、講座を開講し、より多くの市民に地域づくりの中核となってもらうことを期待している。

◆ 「二之宮式三番叟・薪能まつり」（城南地区）

二之宮町の二宮赤城神社につたわる式三番叟は、群馬県で現在上演できる唯一の式三番。そこで、式三番が原型である能楽と組み合わせ、二宮赤城神社舞殿で薪能形式により、式三番叟と能楽を上演。併せて地域内の史跡について歴史観光ガイドを行った。

◆ 「新陰流・流祖祭」（桂萱地区）

上泉城主であった上泉信綱は新陰流の開祖で「剣聖」といわれる唯一の人物。新陰流は現在、柳生新陰流として伝わる。そこで、柳生新陰流宗家はじめ流派の門弟を迎え、流祖祭を上泉信綱の菩提寺・西林寺と上泉町自治開館で開催した。

◆ 「大胡城・牧野氏まつり」（大胡地区）

越後長岡牧野氏は徳川譜代の名門。今の愛知県豊川市（牛久保）、群馬県前橋市（大胡）、新潟県上越市（長峰）、新潟県長岡市と国替えを行った。大胡城跡は牧野氏の城跡で本格的に残る唯一の遺構。そこで、越後長岡牧野氏の当主を迎え、菩提寺養林寺と大胡城跡で大胡城・牧野氏まつりを開催。

◆ 「シルクサミットin前橋」（街なか）

日本で最初に創業した洋式器械製糸場は明治3年創業の藩

営前橋製糸所。同所には全国から伝習生が集まり、官営富岡製糸場とともに技術伝播の拠点となった。そこで、伝播地を調査し、関係者を招き研究成果を公表し、その顕彰を行うためシルクサミットを開催。

◆ 「徳川家康公薨去東照宮祭礼」（街なか）

徳川家康の二男・結城秀康の流れをくむ松平大和守家は前橋藩主で領主を終え、17代現当主が前橋市に在住。前橋に鎮座する東照宮は秀康の五男・松平直則が松平大和守家を興すと共に祭ったのが始まりで、同家の移封とともに鎮座した。そこで、平成27年の徳川家康薨去400年忌を営むことを契機に祭礼を開催。

◆ 前橋空襲一斉慰霊

昭和20年8月5日の前橋空襲で市域の4割、市街地の8割が焼失。500人以上が亡くなった。市内の神社・寺院・教会もその多くが焼失し、氏子・檀家・信者にも死者が出た。そこで、街なか神社・寺院・教会プロジェクトの委員の宗教施設で、市民に呼びかけ信仰・立場などを超え一斉慰霊を行うと共に、前橋空襲を市民学芸員により語り次ぐ行事を行い、平和祈念の日とする。

◆ 「前橋四公祭」

前橋市域には江戸時代、総社藩に秋元氏、大胡藩に牧野氏、前橋（厩橋）藩に酒井氏、松平氏が入封し領主となった。秋元・牧野・酒井・松平は徳川將軍家の親藩譜代の名門。市内には四家の墓所やゆかりに寺社、史跡がある。四公を顕彰し墓所の国指定史跡化と共にその観光化を図る。

- ①四公サミットと四公教養講座
四公の子孫や研究者を招き、サミットと教養講座を開催し、市内外への認知と発信。
- ②四公ツアーと四公御朱印めぐり
四公の御廟所6寺社をめぐるバスツアーと御朱印めぐり
- ③四公の顕彰会と祭事
●松平大和守家
結城松平博諭堂報恩舎
徳川家康公薨去祭礼（4月）
●酒井雅楽頭家
酒井雅楽頭家顕彰会
酒井家墓所名月管弦祭（9月）

- 牧野駿河守家
牧野康成公顕彰会
大胡城・牧野氏まつり（7月）
- 秋元越中守家
総社秋元氏顕彰会
総社秋元歴史まつり（11月）

◆ シルク・ルネサンス

蚕種・養蚕・製糸・織物を蚕糸業＝絹業（シルク）という。前橋市域は、市街地の広瀬川と佐久間川に挟まれた地域に製糸工場が林立し、日本を代表する製糸都市であった。また前橋は器械製糸と改良組合製糸という近代製糸業発祥の地であった。

蚕種は田口地区が塩原蚕種に代表される蚕種地域。養蚕は郊外が養蚕地域で、とくに総社山王地区・清里地区・赤城南麓地域には大規模な養蚕農家群が存在する。

- 「生糸のまち前橋発信事業」とシルクサミット in 前橋の開催
- シルクのまちづくり市区町村協議会（会長京丹後市、全国26自治体、農林水産省・経済産業省後援）への加盟と連携
- 日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語」への追加登録をめざす。

①街なか製糸ゾーン
蚕糸記念館（広瀬川付近に移築）、旧安田銀行レンガ蔵など

②田口地区塩原蚕種ゾーン
塩原蚕種など

③総社山王養蚕農家ゾーン
都丸家など

④清里養蚕農家ゾーン
小池家など

①～④は観光地化

⑤赤城南麓ゾーン
桑茶などの産業化

◆「新陰流の聖地・剣聖の里」

新陰流・流祖上泉信綱公ゆかりの地である上泉町を剣聖の里・新陰流の聖地化する。三夜沢赤城神社の剣道大会などと連携。桂萱地区の片貝には遠州流挿花宗匠・斎藤一車の生誕の地である。斎藤一車の挿花を復活し、同地区を剣と花の里とする。

◆「城下町・大胡」

大胡の街なかに位置する大胡城址を中心に大胡城・牧野氏まつり活用し、城下町大胡への再生を目指す。

◆「上毛電鉄沿線城址めぐり」

上毛電鉄沿線には、上泉城（桂萱地区）・大胡城（大胡地区）・女淵城（粕川地区）・膳城（同）の城址が残る。前橋駅前からレンタルサイクルを使い、上毛電鉄を利用しながら、城跡や関係史跡を回る歴史観光サイクリングコース化。

◆「世界かんがい遺産のまち・前橋」

前橋市は利根川西地域に天狗岩用水（総社地区・元総社地区）、

滝川（東地区）が流れ、市内中心部には広瀬川、風呂川が流れる。これらを世界かんがい遺産に登録し、「水のまち・前橋」のシンボルとする。

◆「まえばし総社歴史箱」

総社地区は、古代から近代の歴史遺産が集積した歴史・地理空間である。群馬総社駅、総社歴史史料館、旧本間家など公共的施設を備えている。そこで、総社秋元歴史まつりや四公祭など生かし、歴史観光空間とする。

◆「苗ヶ島古民家トトロの森構想」

苗ヶ島町の築200年を誇る東宮家、古利金剛寺、苗ヶ島神社、竹林、山林、田畑は日本の農村原風景。一帯を「トトロの森」化して、農業体験、農村食など農業観光・農村文化ゾーンとする。（隣接する室沢の棚田、金子家に範囲を拡大も。金子邸は大正末期に農民の神様と敬愛された金子與重郎が農村生活向上のために設計したもの）

◆「二之宮式三番叟・薪能と二名社御朱印めぐり」

二宮赤城神社舞殿で二之宮式三番叟と薪能を上演し、前橋市内宿泊者は無料優待席を用意。域内の産泰神社でブレ公演を行い、群馬県を代表する名社である二宮赤城神社と産泰神社の二社御朱印めぐりを行う。

◆ 灰になった街



前橋市はミュージカルや演劇活動が盛んで、経験者や愛好家が多い。そのような中、市民から市民参加型のミュージカル公演をとおして前橋を元気で明るい都市にしたいと要望が上がった。

その中心となった現在実行委員長の新陽一が、かつて高校部活動で公演したオリジナル脚本の作品があり、それが終戦70年に相応しい前橋空襲を題材とした「灰になった街」※であった。新陽一実行委員長ほか一般市民による実行委員会を組織し、H26年より準備を始め、昨年H27年に市民文化会館大ホールで2日間公演を行った。

現在はH29年の公演に向け、「我愛你（ウォーアイニー）」のオーディションを行い、練習を開始した。※前橋女子高校、理研前橋工場、桑町商店街を舞台に開戦から終戦直前の前橋空襲、そして復興をとげた現代を描く。未来を夢見た若者を主人公に戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えた作品。

前橋空襲 追悼碑

住吉町の広瀬川のほとりにあります。戦争中の防空壕の上に立っています。昭和20年8月5日夕刻アメリカ軍B29爆撃機によって500名以上の市民が犠牲になりました。市域の80%が焼かれました。毎年ここで慰霊祭が地域の自治会の方々の好意で続けられています。暑い夏の太陽に照らされて、

愛宕資料館

旧前橋市母子センターは、昭和42年に母子家庭の母及び児童に対する緊急一時保護や相談機関等の事業実施のため建設され、その役割を果たしてまいりましたが、近年の児童福祉行政の変革や各種相談機関等の充実に伴い、平成22年7月にその役割を終えました。

そして、施設有効活用にあたっては、住吉町二丁目自治会を中心に構成する郷土資料展示室（仮称）開設実行委員会により、旧母子福祉センターを活用して、本市の歴史にまつわる資料やまちの歴史の記録等について積極的に情報提供を行

初市400年祭

初市は、六斎市として毎月4と9の日に開かれた日用雑貨や生糸の市が起源で、開始時期は諸説あるが、明確な年次として挙げられているのは元和3年（1617）、初代前橋藩主・酒井重忠の時代であったとされています。また、江戸時代の市は、藩公から米六俵・太刀一口・神馬一頭の寄進があり、近在近郷の商工農民が集まりにぎわったといえます。

平成29年（2017）の初市まつりは、初市開始400年目の節目に当たるとともに、元和3年は酒井重忠が永眠した年（7月21日）でもあり、没後400年と重なります。

大胡暴れ獅子

例年7月の最終土曜日・日曜日の2日間に亘り大胡祇園まつりが開催されています。祭りメインとなっている暴れ獅子は、約170年前の江戸末期、宿場町であった大胡の地で疫病が流行しそれを駆除しようと、天王様と暴れ獅子が、町中を練り歩くようになったのが始まりとされており、7月の最終日曜日の午後3時から午後10時の間、担ぎ手は、それぞれ独自の肉襦袢に地下足袋姿で「おいさ、おいさ」のかけ声とともに町中を威勢よく暴れ回り、各家の厄除けをして練り歩く旧勢多郡大胡町大字大胡（現在の前橋市大胡町）の伝統行事でした。

宮城献上粟祭

宮城地区では、戦後間もない昭和25年から、毎年、皇居に粟の献穀を行っており、この粟は毎年10月に皇居で執り行われる新嘗祭に供える黒酒の原料として使用されます。献穀は今年で66回目を迎える宮城地区の伝統行事であり、地区内7町が順番に斎耕者を選出し献上しています。当初は米と粟の2穀を宮城地区から献上していましたが、昭和45年から米は他の市町村に譲り、それからは粟のみ扱っています。

子どもたちの追悼の言葉で始まる慰霊の場であります。前橋空襲をご存知だろうか？第二次世界大戦の末期、日本各地の都市がBー29大型爆撃機によって大空襲を受けて、前橋も8月5日、500名を超える市民が殺されました。多くの戦争被害者を記憶に残す慰霊祭が行われています。

なう場として、公共的な役割を果たす施設として、土地・建物について貸与の依頼があったものです。

なお、この住吉町二丁目周辺は、愛宕神社に隣接し、かつては「柳座」という芝居小屋があり、製糸工場が立ち並んでいた本市の原風景をもった土地柄であり、歴史的資料も広く収集できるものと期待されます。

公共的な位置づけとして、施設利用されることにより、地域住民への歴史・伝統文化の伝承を図ることができるものと思われま

そこで、来年の初市400年祭は、重忠公の400年遠忌を酒井家の菩提寺である龍海院で酒井雅楽頭家顕彰会が営むとともに、元和3年当時の初市を再現する意味を込めて、前橋八幡宮で「太刀一口の奉納」をモチーフとする刀剣鍛錬などを行うことを計画しています。

このあばれ獅子は、大胡青年会が毎年祇園まつりに合わせ、前年に担いだ獅子を八坂神社前で約1ヶ月の期間をかけ補修し、一週間前には青年会全員で目入れを行う開眼式を行い完成となります。完成までの様子や完成後の獅子は通りから観る事も出来ます。



粟は5月に播種し、9月末頃の^{ぬきほさい}抜穂祭で収穫し、乾燥・脱穀・選抜等を行い、10月に修祓式で^{しゅばつしき}厄を祓った後に皇居に献穀します。

平成27年度からは抜穂祭に、地域の斎耕者・実行委員会とともに当該町の子どもたちに、早男・早乙女の衣装で参加してもらっています。

粕川月田のささら

室町時代の永享五年（1433年）、近戸神社に奉納されたと記録に残る典雅で勇壮な獅子舞は月田近戸神社秋季祭で舞われ、通称「月田のささら」と呼ばれている伝統行事です。天下泰平、五穀豊穰を祈願して奉納される獅子舞は「天下（てんか）一日挾流」と言い、前半30分、後半30分の合わせて60分であり、獅子っ子3名、笛掛り6名以上、歌掛り4名で構成され、獅子っ子が入る度に順番に笛、歌と昇進しますが、一度獅子っ子になると歌掛りを終えて卒業するまで数十年、

臨江閣

明治17年(1884)5月1日、上野―高崎間に鉄道が開通し、明治天皇を迎え開通式が行われることになりました。天皇が鉄道開通式に臨んだのは横浜―新橋間、神戸―京都間、上野―高崎間の3回だけでした。高崎町民は行幸を歓迎し行在所として「春露館（しゅんるくわん）」を新築。木造2階建ての本館と随員用の別棟が建設されました。事前点検にやって来た宮内大輔・杉孫七郎が、榛名山から赤城山にかけて春がすみ（春の露）がたなびく風景に見せられて「春露館」と命名しました。

高崎に迎賓館＝春露館が新築されることに危機感を抱いたのが楢取素彦と下村善太郎でした。二人は明治9年（1876）高崎に開庁した県庁を20日余りで前橋に移し仮庁とした中心でした。同13年、楢取県令が前橋に県庁を置くことを願い出て、政府は翌14年、県庁位置を前橋に確定しました。高崎の反対運動は激しく、県は軍隊の導入さえ検討したほどです。

明治14年、日本鉄道は大宮―高崎間の鉄道建設を発表しました。すかさず下村と楢取は前橋まで延伸するよう鉄道局長・井上勝に直訴しました。高崎より3ヶ月遅れて前橋まで鉄道が開通することになったのです。

こうした状況下で明治天皇を迎えた開通式が予定されました。高崎に春露館（迎賓館）ができれば、県庁位置問題が再燃するかもしれない。前橋に春露館以上の立派な迎賓館を建設しなければならないと、楢取と下村が決心したのに違いありません。下村は敷地を提供し、大口の寄付をして資金を集め、

平和資料館

平和資料を展示し、戦争の悲惨さを後世に伝えたい。前橋空襲をテーマにした「灰になった街」も常時上映できるような平和資料館が前橋市にあればいいと思っています。幸いにも前橋にはレンガ倉庫がたくさん残っています。倉庫の改装などで開館できる日が来るでしょう。戦争資料の散逸が進まないうちに取り組みを始めます。

この写真は戦争直後の前橋です。大手町のカソリック教会は南側の尖塔の屋根が失われています。前橋空襲の悲惨さも残さねばと思います。焦りますが一步一步取り組みます。

獅子舞に係わることになります。

毎年8月最終の土曜日が宵祭り、翌日曜日が本祭りであり、本祭りの「お川降り」は近戸神社外宮まで移動して行われ、粕川の名の由来にもなった糟酒流しの神事が行われます。その後、本宮へ戻ってから行われる獅子舞では雄獅子が牝獅子をとりあう「牝獅子隠し」が躍動感あふれる舞として披露されます。

楢取ら県庁幹部職員が茶室を寄付し、一の間に能舞台を兼ねた臨江閣が完成しました。楢取は利根川に臨むことから「臨江閣」と命名しました。

高崎町民の待望した開通式は、激化した自由民権運動のため延期され、不測の事態に備え、天皇は構外に出ることはなく3時間で帰京しました。春露館は迎賓館として使われませんでした。それに対して臨江閣は明治26年に明治天皇を迎えたように迎賓館として使われるようになったのです。

臨江閣にはこのように秘められた歴史があり、先人の魂が宿されています。



コラム 今だから話せる 花燃ゆ秘話

【ドラマができるまで】

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の制作統括の土屋勝裕ディレクターは、大河ドラマの制作に関わってきた。幕末維新という時代が好きなので、「篤姫」「龍馬伝」を手がけた。

「篤姫」が薩摩＝鹿児島、「龍馬伝」は土佐＝高知県が舞台であった。幕末維新といえば、薩摩・長州・土佐・肥前の西南の雄藩が主導権を握り、徳川幕府を倒し明治新政府をつくった。幕末・維新好きの土屋氏が3度目に大河ドラマを手がけることになった。すでに薩摩、土佐を舞台に「篤姫」「龍馬伝」をつくったので、次は長州か肥前ということになるが、やはり、順番でいえば、自他共に「明治維新発祥の地」を標榜する長州＝山口県にならざるを得ない。

そこで、山口県をリサーチした。その結果、萩と云う城下町、吉田松陰と松下村塾ははずせないキーワードであることを確認した。しかし、松陰の生涯は約30年と短い。松陰が主宰した松下村塾も2年足らずの短さである。全50話の大河ドラマの主役にするには難しい。そこで、松陰の家族や関わりのある人物に目を転じた。すると、楢取素彦という人物に出会った。楢取は無名に近い存在であるが、松陰が最も信頼した人物であり、松陰の妹寿と結婚し、寿が亡くなったあとその妹の文と再婚した人物であった。

驚くことに文は、松下村塾で高杉晋作と双壁といわれた久坂玄瑞の妻となった人物で、二人の婚姻は松陰が進めたものであった。松陰やその門下生たちが幕末維新期に国事奔走する中で落命していたのに対して、楢取は欲のない誠実な生き方が幸いし生き残り、文と共に幕末の志士らが夢みた近代という時代や国家を見届けることが出来た。

そこで、二人の目を通して、幕末の思想家・吉田松陰によって蒔かれた種が、芽を出し、花を咲かせ、実を結んだストーリーを描くことを決めた。こうして、杉文＝井上真央、小田村伊之助（楢取素彦）＝大沢たかおが演ずるドラマが決定した。

【群馬県を描く難しさ】

楢取素彦が80年余りの人生で、最も輝いていたのは10年余り勤めた群馬県令時代であった。こうなるとドラマの後半は群馬県が舞台になる。楢取や文の生涯を居住地でみると、現在の山口県萩市、山口県長門市、群馬県前

橋市、東京、山口県防府市となる。

歴史は叙述、描写である。歴史学、歴史小説、歴史ドラマなどどれも史実そのものではなく描写、叙述である。歴史叙述は勝者（峰）か敗者（谷）が描かれる。両者には歴史のダイナミズムが凝縮され、面白みや醍醐味がある。正史は勝者の歴史となる。我々が教科書でならう歴史は勝者の歴史である。幕末維新时期は勝者である薩長土肥中心に描かれる。

しかし、勝者の歴史ばかりが真実ではない。「判官びいき」という言葉があるように、正史が勝者の歴史ならば、小説、芝居、演劇、能、歌舞伎など文学の世界は悲運の英雄など敗者の歴史を扱ってきた。それゆえ庶民によって愛され語り継がれてきた。

歴史叙述、歴史観は英雄史観、皇国史観、唯物史観とかわっても、勝者か敗者が描かれたことにかわりはなかった。しかし、勝者と敗者はいずれも少数派であり、数の上では峰（勝者）と谷（敗者）の間の中間層が多数派であり、平均的な国民の歴史となる。したがって、この中間層（多数派）＝平均的な国民の歴史をどう描くかが、歴史学ばかりでなく、ドラマ、小説などの長年の課題であった。けれども、多数派の歴史でありながら、その叙述はダイナミズムや面白味や醍醐味に欠けるものになってしまうというジレンマがあった。

上野国＝上州＝群馬県はいつの時代も中間層に位置し、天下を取るような英雄も出なければ、会津のように敗者になることもなかった。だから、教科書のような正史にも登場することは少なく、大河ドラマなどの歴史ものに描かれることもなかった。

大河ドラマ「花燃ゆ」では、第41話から50話が群馬編であるが、こういう上州＝群馬県を舞台にしなければならなかった。それゆえ、大河ドラマ史上、群馬県が10回も舞台になることは初めてのことであり画期的なことであった。こうしたことに挑戦したプロディーサーの土屋さんの勇気は称賛に値するものである。残念なことは、テレビはすべて視聴率である。視聴率が低かったため、土屋さんの革新的な試みに光が当ることはなかった。しかし、将来、必ず歴史的な評価がなされるであろう。

【上州女性に光を】

土屋さんは、10回の群馬編で、日本の近代化に貢献した名もなき養蚕・製糸に従事した上州女性を描きたかつ

前橋学の創造

- 歴史と文化に立脚して、地域の諸問題を解決する学問、学び。
- 官（カン）・館（カン）・民（ミン）・学（ガク）の連携により実現。

ブックレットの作成

①目的

「前橋の誇れる先人、すばらしい自然、埋もれた歴史のすべてを後世に語り継ぐ」
「市民には前橋に誇りと愛着―郷土愛の原動力」
「全国には前橋の魅力発信―訪れてみたい前橋」

②担い手

「研究者や専門家だけでなく、市民自らが調査・発掘した成果を発表」
市民が調査→市民学芸員講座で発表→ブックレットで刊行

③新編前橋市史編纂の基礎調査を兼ねる

ブックレット編纂は、前橋市の発展を図ろうとする文化運動。地域づくりとブックレットの編纂が両輪となって、魅力ある前橋を創造。100号刊行を目指し、その成果のうえに、市民による平成の合併後の大前橋の新編市史の編纂

④既刊ブックレット

- 1号『日本製糸業の先覚速水堅曹を語る』（2015年）
- 2号『羽鳥重郎と羽鳥又男読本』（2015年）
- 3号『剣聖 上泉伊勢守』（2015年）
- 4号『萩原朔太郎と室生犀星出会い百年』（2016年）
- 5号『福祉の灯火を掲げた宮内文作と上毛孤児院』（2016年）
- 6号『二宮赤城神社に伝わる式三番叟』（2016年）
- 7号『楯取素彦と功德碑』（2016年）
- 8号『速水堅曹と前橋製糸所』（2016年）
- 9号『玉糸製糸の祖 小淵しち』（2016年）

※市民がつくりブックレットのモデル

「地域カルタブックレット」

岩神地区 ―― 町田悟、飯塚宗夫、大谷明應
下川地区 ―― 根岸輝治、新納美智代、角田光利
芳賀地区 ―― 中山洋子、橋本寛文、加藤正利
元総社地区 ― 高津二三夫、金井光明、印東健夫
富士見地区 ― 石田和男、小林勇、狩野貞夫
南部地区 ―― 矢嶋幸男、林幸一、堤一文

朔太郎記念前橋文学館 朔太郎は宝

前橋文学館は、平成5年に、郷土出身及びゆかりの文学者の業績を顕彰し、貴重な資料を公開すること、幅広い芸術文化活動のひとつの拠点として活用することを目的として開館しました。

展示施設には、質・量ともに全国一と目される萩原朔太郎の資料（ノート・書簡・原稿・著書・写真・遺品等）を常時公開する朔太郎展示室や、平井晩村、山村暮鳥、高橋元吉らを紹介する近代文学展示室、朔太郎に関わりのある文学者との関連を取り上げた特別企画展などを行う企画展示室があります。

また、市民の様々な文化活動の場として、一般利用もできるホール・研修室・オープンギャラリーや、郷土文学研究のため、数千点の資料を擁する資料閲覧室を備えています。周辺の広瀬川河畔緑道には多くの詩碑があり、格好の文学散歩コースとなっています。

平成28年4月には、萩原朔太郎の孫であり映像作家・エ

ッセイストの萩原朔美氏が館長に就任し、詩作のみならず、いろいろな角度（映像・写真・漫画・美術など）から朔太郎に光を当てた企画展やアーツ前橋との連携事業を通じて、朔太郎を全国に発信していくほか、中心市街地の活性化にも繋がるような事業を展開されるでしょう。



広瀬川沿い整備加速
文学館と連動 民間出店も



コラム 前橋市美術館のあり方は紆余曲折

初当選後の市長に課せられた大きな方向転換はこの3つでした。①**美術館のあり方** ②**ゴミ清掃工場の延命化** ③**前橋工業高校跡地に汚染についての群馬県との裁判**。清掃工場と県との裁判は私の方向性は決まっていました。この中で私の思いを市民へ説明することが一番困難だった課題が「美術館のあり方」だったと思います。それは、「ハコものづくり行政から、ことづくり行政への転換」という私の行政方針の転換は今まで「芸術文化振興とは美術館建設だ」と定義してきた方々には受け入れがたいものだったでしょう。

私も「ことづくりの場」という定義を如何に建設が終わろうとしている施設に表現するか?で大いに悩みました。私自身の思いも私に寄せられる多くの意見の中で揺れました。各新聞の見出しに載った私の発言の揺らぎを思い出してみます。

2/24 「今後、運営方法を仕切り直しする検討会を設置する。幅広い活用が可能なアートセンターのような施設にしたい：(上毛)」

3/1 「美術館事業見直し 学芸員の採用中止：上毛」
「着工済みの市立美術館も市民ギャラリーに変更する：産経」

3/5 「運営のあり方や内装を変える：朝日」

「美術館事業を見直して学芸員募集も中止した前橋に今後、どんな施設が出来るのか。全国の関係者が注目している。前橋に必要なものは何かを考える場にしたい。(上毛新聞3/7)」と語った私の考えの根底には「ソフトパワーとしての文化芸術を前橋の力にしていこう!」とする私の挑戦があったのです。

そして私は3つの理念を掲げました「アートによって人をつなげる機能」「アートによって都市を楽しくする機能」「アートを作る人を応援する機能」です。そしてこの機会に「芸術文化政策」を市民のイニシアティブに委ねる仕組みを検討したのです。それが「**アート・カウンスル=前橋市に文化芸術の方向性を導く議論の場**」これが私の「**美術館建設というタイトルのもとで作られる施設**」の白紙化からはじまった悩みの末の果実です。この市民会議がこの文化芸術施設の運営から始まり前橋の学校における美術教育や産業デザイン、地域の景観形成など広く新しい価値を吹き込んでほしいと願っています。市民による

文化芸術会議による市の文化芸術政策の諮問という新しい行政運営の概念を実現したいと願っています。

『アーツ・カウンスル構想のこれから―前橋での可能性を考える』と題した勉強会が行われました。イギリスで60年の歴史があるアート・カウンスルの内容を説明されながらお話をされていました。アーツ・カウンスルが政府から受け取った文化振興助成金の配分事業を独立的に行っている事を理解しました。この事を『アームス レングス』と呼ぶらしいです。ナチスが芸術政策を世論形成に利用したことへの反省であり、arm's lengthとは芸術分野の自立性確保のために有るとの事です。

前橋市が購入した商業ビルをリフォームして市民の芸術支援施設にしようとする計画を私が選挙における争点にしたことについて触れます。私はこの施設について異議を表明したのではなく、この施設が政治的な恣意に基づいて決定された事への異議を表明したのです。「作ることが目的化」されていることに疑念を感じたのです。だからこそ私は完成するこの施設を如何に運営するかに腐心してきました。そこでこの施設の中身を市民に委ねると決めました。市長でも館長でもない、“市民”が主体的に運営する施設を利用した芸術文化の形を模索し、“アートカウンスル”という理念に出会ったのです。

政治的な思惑から離れ、市民に納得される芸術施設とはなにか？

この問いの解がアートカウンスルです。それは設置者である市役所ではなく、市民に向いてドアが開いたものです。多分これからたくさんの市民がカウンスルに対して声を届けるでしょう。そしてそれを評価、企画、実施していくのです。古典あり、現代あり、漫画やサブカルチャーあり、舞踊や音楽とのコラボレーションあり…

前橋に多様な文化芸術を愛する市民がいることに比例して、様々な花がこの施設を中心に咲く。楽しみです。

12 章
ス ポ ー ツ

スポーツで 前橋は活性する

スポーツの力で前橋に新しい価値を生み出したい。スポーツすることは地域に暮らす意味でもあるだろう。さらに広島カーブのカーブ愛、カーブ女子を見れば、そこにはスポーツがシビックプライド(郷土への誇り)の重要な要素があると思う。私は歴史と同様、前橋でしかできないスポーツ環境を築き上げたと願っています。それこそが前橋らしさの具現化になるはずです。

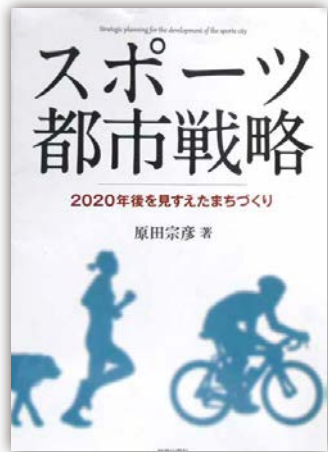
早稲田大学教授原田宗彦教授は著書「スポーツ都市戦略」の中でこう述べられています。「スポーツ都市とはスポーツを都市経営の重要課題とし、市民が安全かつ快適に住環境の中で日常的にスポーツを親しみ、アクティブかつ健康的な生活を営む事のできる街づくりを目指す自治体の事である。(中略)

本書でいうスポーツ都市とはスポーツに親しむ環境が整備された地域である。そこには多様な都市像がありそれぞれの都市が持てる経営資源を最大活用してオリジナルなスポーツ都市を作り上げる事が重要である、例えば人口2万人に満たない広島県世羅町は高校駅伝の強豪校である世羅高校で有名だが、近年は「駅伝のまち「せら」」を旗印に「観光ラン」による地域活性化を行っている。(中略)

「する」「見る」「支える」スポーツが都市の集客装置として機能し始めるということは、それを目当てに域外から人が集まるということを意味し、スポーツで人が動く仕組みが生まれる。そのような仕組みは「スポーツツーリズム」と

呼ばれ、スポーツ都市に実現に不可欠である。(中略)2014年の段階で世界の観光産業は7兆ドルの規模をもち、世界のGDPの9%を占める巨大産業であるが、その中でも最も伸びが著しいのはスポーツツーリズムである。(中略)

序章においてツーリズムという観点から考える上で重要となるグローバルな観光産業の動きを俯瞰し日本が持つ旅行目的としての潜在的な魅力とガラパゴスと呼ばれる日本文化を「世界商品化」することの重要性に触れた。そのためにはモノづくり国家からコトづくり国家への大きな発想の転換が必要とされる。



スポーツインフラ整備の方向

前橋総合運動公園拡張概要

前橋総合運動公園は、屋外スポーツの普及とレクリエーション需要に供するとともに市民が日常スポーツを通じて体力の維持増進を図るための健康運動公園として計画されたまま30年以上も計画書の中に埋まっていました。

昭和55年に都市計画決定(面積:25.8ha)、昭和55年に事業認可を受け、テニスコート、市民球場、コミュニティプール、陸上競技・サッカー場等の他、芝生広場や釣り池、

軽スポーツ広場が整備されました。市民の競技スポーツや生涯スポーツ、健康増進や憩いの場として活用されてきました。

第六次前橋市総合計画の「魅力あるスポーツ環境の充実」に対応するため、また、地域防災拠点の公園として既存公園の東側に拡張して整備を始めることになりました。

<事業経過>

平成 25 年度	都市計画変更(H26.3.12)
平成 26 年度	用地買収・実施設計
平成 27 年度	用地買収・基盤整備工事
平成 28 年度	用地買収(完了)・ 基盤整備工事・水路付替工事
平成 32 年度	完成予定

敷地面積	既存 25.8ha、 拡張 14.6ha
施設内容	・第二野球場、多目的グラウンド、 多目的広場(一部ス케ボー広場) ・防災倉庫 ・駐車場(約 950 台)



(仮称)下増田サッカーセンター

日本サッカー協会が管理する日本最大のサッカートレーニングセンターである福島県「Jビレッジ」が福島原子力発電所の事故により使用できなくなっています。サッカー協会からの要請もありゴミ焼却センター用地を活用し、整備を行います。

サッカー日本代表のキャンプや数々の少年サッカーの全国大会などに提供することで市外からの交流人口の受け皿になると期待しています。

(仮称) 下増田サッカー場

- ◆敷地面積 ・約 41,000㎡
- ◆施設内容 ・天然芝生サッカーコート 2 面
・人工芝生少年仕様サッカーコート 2 面(照明付)
・駐車場(約 318 台)

下増田運動場

- ◆敷地面積 ・ 43,292㎡
- ◆施設内容 ・ 天然芝生サッカーコート 2 面
- ・ 野球場 1 面
- ・ クラブハウス (S 造・平屋・697㎡)
- ・ 駐車場 (約 50 台)

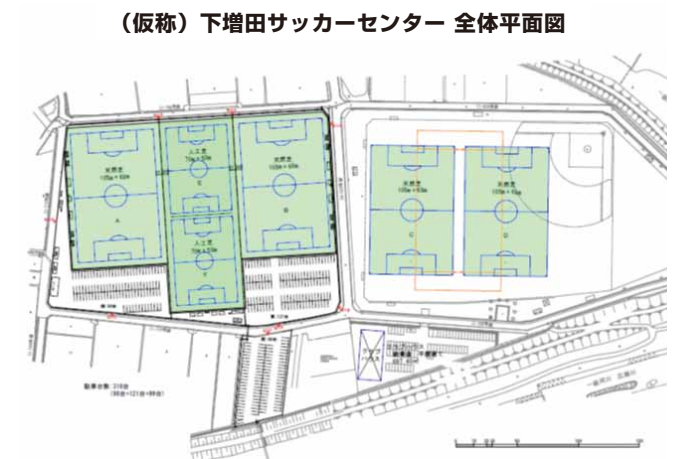
【関東最大規模のサッカー施設】

(仮称)下増田サッカー場と下増田運動場を合わせると、関東でも最大規模のサッカー施設になる。

- 天然芝生のサッカーコート 4 面
- 人工芝生の少年仕様サッカーコート 2 面(照明付)
- クラブハウス

完成後の利活用

- 群馬フットボールセンターの位置づけ
日本サッカー協会の整備費助成を受けることで「群馬フットボールセンター」として位置づけられ、県内各種大会のメイン会場になる。
- ガスバクサツ群馬の練習拠点
- 北関東インターハイ(2020)のサッカー会場



プロスポーツが街を元気にする

プロサッカーチームであるザスパクサツ群馬、プロバスケットの群馬クレインサンダーズ、自転車プロチームの群馬グリフィンなど前橋に拠点をもつプロチームはスポーツツーリズムの核になり、市民にとっても「見るスポーツ」「支えるスポーツ」として前橋に大きな意味を持っています。ふるさと納税でプロチームを応援し、地元プロスポーツ

チームが連携したスポーツ振興を推進するとともに、フロント機能統合構想を目指します。スポーツ応援寄付の窓口設置などさらに各チームを羽ばたかせていくことで、よりスポーツ都市としての機能強化を進めなければなりません。

スポーツコミッションの設立

全国規模の大会を誘致するとともに、スポーツ拠点の整備を進めます

スポーツコミッションでは、前橋市及び周辺地域にあるスポーツ資源や特徴ある観光資源を活用し、主に宿泊を伴うスポーツ大会やスポーツイベントの誘致や開催支援等を一体的に行います。また、市と連携したオリンピック等事前キャンプ地誘致に取り組み、前橋のスポーツ振興、知

名度の向上及び観光客の拡大を推進し、前橋の経済活性化を推進しています。

前橋市では全国大会、関東大会などの大きなスポーツ大会が多数開催されており、これによって大きな経済効果を生んでいます。

泥んこラグビー開催の理由？

2019年はラグビーW杯が日本で開催されます。隣の埼玉県ではWカップの本戦が開催されることになり、前橋でキャンプを張る可能性が高まっています。ナショナルチームのキャンプを誘致できれば、さらに翌年の東京オリンピックのチーム誘致にも結び付くことが期待できます。こうしてだんだんとスポーツ都市としてのブランディングを進めていくのです。強豪国の代表チームがキャンプに訪れれば、国民の多くが注目し、さらには交流人口を増やすことになるのです。

そのためにもラグビーの普及活動は大切な取り組みであり「前橋どろんこラグビー祭り」は、ラグビーワールドカップ2019日本開催の機運の醸成などを目的に平成27年度から開催しております。ラグビー愛好者らでつくる実行委員会が主体となつて行う民間主導のイベントです。2回目となる今年は、前橋総合運動公園横の田んぼから荻窪町公園整備予定地の旧田んぼに場所を変えて8月20日に開催いたしました。

ラグビー未経験者でも参加できる「田んぼフラッグス」などのアトラクションゲームや前橋ラグビースクールの生徒、群馬惑惑倶楽部などによるタッチラグビーのデモンス

トレーションマッチを行いました。また、前橋私立保育園長連絡協議会が「どろんこ運動会」を企画し、園児たちが玉入れや綱引きを行うなど、子どもから大人まで約300人の参加者が泥だらけになりながら田んぼの中を走り回りました。

来年度も荻窪町公園整備予定地の旧田んぼでの開催を予定しています。



自転車のまち前橋

先日、世界最大の自転車メーカーの前橋ショッポ開店に際して、メーカーの日本法人の社長さんと取材に同行した自転車専門誌の記者さんたちを赤城山へご案内をすることにしました。「その町のリーダー自身がスポーツに関心を持っていることは、スポーツ都市の要素であり、本気度が人と投資を引き寄せる」との持論を私は持っています。やってみせねば人は信じないのです。これによって関係者が投資をされ、記事になっていくはずです。※前チャリ・サイクルステーション・自転車専用レーンの充

実などやるべきことは山積みです。これを前橋市だけで進めていくことはできません。“自転車の街まえばし”は全国、世界の応援で成していくのです。



<今後のステップを次のように考えています>

- 健康と環境に優しい自転車を有効利用した広域観光振興策として、赤城山サイクルツーリズムを推進し、交流人口の拡大による地域活性化を行う。
- 赤城山一周グルメサイクリングや、上毛電鉄サイクルトレインを活用したサイクリング等、レースではない地域の名産や観光スポットを巡るサイクリングイベントを開催する。
- JR 前橋駅より赤城山山頂までの県道 4 号線にブルーラインを設置し、サイクリングのメッカとしての意識付けを明確にすると共に、交通安全やマナーアップの啓蒙活動を積極的に行う。
- サイクルオアシスを設置しサイクリストの利便性を図るとともに、既存の地域店舗の活性化を図る。

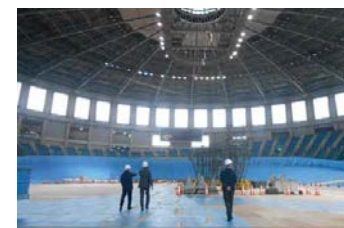
ヤマダグリーンドームまえばしを武器に

競輪・スポーツ・コンベンションに有効活用を進めていきます。

グリーンドーム前橋は老朽化した前橋競輪場の施設として1990年5月31日に完成しました。こけら落としイベントとして世界選手権自転車競技大会を開催し、その後は寛仁親王牌の競輪G1レースを開催しています。ドームには自転車用の高速バンクが設置され、メインアリーナ——最大収容人員2万人(スタンド7594人)。競輪トラックの内側は有効面積5000㎡のアリーナとなっており各種スポーツイベントの他展示会やコンサートにも利用できます。1999年には、世界室内陸上選手権の会場となりました。サブアリーナ——地下1階にあり、競輪などのイベント開催時には出演者の控え室として、またそれ以外でもコンサートやパーティー・式典などにも利用できるようになっています。床面積900㎡。その他 会議室15室などもあります。

※名称は施設の命名権を県内に本社を持つヤマダ電機が年額 1200 万円で獲得し命名が決定しました。

ミスターチルドレンや安室奈美恵、GLAYなどのコンサートへ貸出や、アリーナを利用したスポーツイベントにも利用拡大し競輪だけではなく、前橋の賑わい創出の機能を拡充していく。



現在、競輪収益を貯めた基金によってから大屋根改修、外壁改修、2階デッキ床改修、太陽光発電設置、アリーナ照明LED化、音響設備更新、空調設備等改修を行って安価にイベントに使用可能にリフォーム中です。2000人規模のパーティー会場としても利用できます。

元旦の実業団駅伝もよろしくお願いします

日本における実業団駅伝日本一を決定する競技大会であるニューイヤー駅伝は、第32回(1988年)から第60回大会まで群馬県での開催として実施されています。7区間、全長100kmの駅伝大会。箱根駅伝とともに正月の二大駅伝競走の1つが前橋市をスタートとゴール地点に設定して行われていることは、前橋市にとって大きな意味があります。私もブランドアップのため前橋のお祭りの法被と正月に行われるサッカー高校選手権の出場校「前橋育英」のマフラーを巻き、さらにはコロトンを連れ立ってインタビューに答えています。

さて、この実業団駅伝が開催できているのも多くの陸上連盟の関係者のご尽力があつての事です。多くの地域が開催誘致への綱引きを水面下では行っている中、毎

年群馬県での開催が続けられていることに感謝しています。多くのボランティアの方々の力こそ『スポーツ健康都市 前橋』の底力ではないでしょうか。



公田町登利平の駅伝中継所にて

群馬県代表 前橋育英高校—宮崎県代表 延岡学園

群馬県大会と宮崎県大会において両校が対戦し、エールを交換したすべての高校の思いを背負って選手たちは頂点を目指して向き合いました。

私もスタンドで太陽を受けて応援しました。私はあの決勝戦をこういう風に残しています。

『ここに至るまで、たくさんの涙と汗が流れた事です。う。皆さん!楽しんで欲しい。チームの仲間、監督、プラスも応援席の仲間もテレビの向こうから声援を送る皆さんもぜひ楽しんで欲しい。学校や故郷の名誉よりも自分たちの仲間たちという事を感じて欲しい。ここまでの道のりを素晴らしい記憶にして欲しい。応援しているすべての市民が、グラウンドを走り回り、真っ黒になっている若者を通じて自らの人生の道のりを振り返る筈です。甲子園のプラスや打球の音は、記憶の巻き戻しスイッチです。私にも、若き時代の葛藤と焦燥、それを乗り越える仲間たちの励ましがありました。さあ前橋育英の勝利を信じて旗

を振ろう。

群馬県代表 前橋育英高校の優勝を心からお祝い申し上げます。一戦一戦、強豪校との厳しい試合の中、私は挫けない心を分けて貰いました。さあ、故郷が待っています。延岡学院をはじめ全ての出場高の故郷が待っています。



前橋—渋川フルマラソン

「見るスポーツ」と同様に参加できるスポーツも重要なスポーツ健康都市としての機能であることは当然です。

前橋シティーマラソンが進化しました。渋川市さんと吉岡町さんの力を借りてフルマラソンにすることが出来ました。渋川市さん、吉岡町さんと組んでのフルマラソンです。3つの町と群馬県、そして陸上関係のみなさん、ボラン

ティアの皆さんのお蔭で42キロのコースが出来ました。参加くださるランナーに喜ばれる開催に向け、どうか皆さんの力をかしてください。

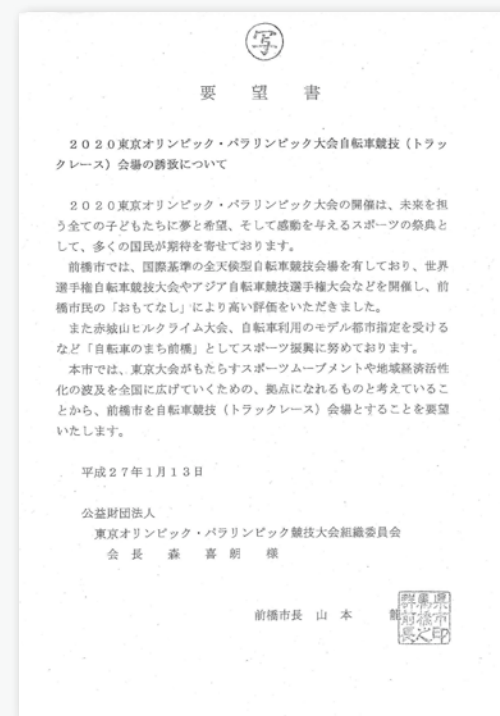
コラム オリンピック、自転車トラック競技の誘致裏話

27年1月、森喜朗オリンピック組織委員会会長へ、たくさんの方々の力をお借りして直接、以下の要望書をお渡しするとともに、意見交換させていただくことが出来ました。紹介無しの申し入れでは、受付に要望書を届けるだけだったと思いますが、政界、言論界、経済人の導きを頂き、森元総理と面談できたことは、『招致失敗』の結果によらず、私は素晴らしいご厚意を預かったと感謝しております。努力の積み重ねの結果として、招致の失敗を受け入れます。

あの面談から1年半が経ち、小池知事の元でのオリンピック会場の見直しが行われていますが、自転車トラック競技会場は伊豆修善寺の日本競輪学校にある競輪ドームでの開催が揺るがないようです。しかし、せっかくの日本開催のオリンピック・パラリンピックです、世界からのアスリートを市民に見せたいとの思いは消えません。ハンガリー柔

道、トランポリン、サッカー、ラグビー、馬術などキャンプ招致の活動を続けていきます。きっとたくさんの国々の選手を応援しようといういろいろな国からのお客様が前橋を訪れるでしょう。国際交流協会さんと相談しながら多言語のパンフレットなどをつくる準備を始めています。

市民の皆さんにも“おもてなし”のご協力をお願い申し上げます。



20年度東京五輪
自転車競技
前橋誘致へ
市長が要望書提出

新国立見直し受け
市、なお期待つなぐ
前橋誘致
森氏が難色

東京五輪
自転車競技「トラック」
前橋市が誘致失敗

ラグビーW杯 日本大会
キャンプ地前橋市名乗り

13 章
観光に価値を観光に
前橋らしさの価値を
生みだす

環境・食・健康、前橋のすべてが見学コースになる魅力をもっています。ない物ね
だりからある物を活かして観光都市前橋を創造しましょう！

DMO？

DMOとは、Destination Management ／ Marketing Organizationの略称で、現在、観光庁が観
光政策の柱の一つとして推進しています。

国では、人口減少・少子高齢化に直面する最重要課題
となる「地方創生」において、インバウンド需要の取り込み
などによって交流人口を拡大させ、地域を活性化させる
原動力としています。DMOは、こうした取り組みを進め
るために、地域の魅力を引き出し、観光地経営の視点に
立った観光地域づくりの舵取り役としての役割を果たす
ことが目的となっております。

本市においては、赤城山周辺の豊かな自然環境に加
え、点在している観光農園や農産物直売所など体験型・
農業系観光資源を活かし、地域と連携したグリーンツー
リズムやエコツーリズムなどを「赤城山ツーリズム」として
パッケージ化してツアー商品などを造成し、赤城山や周辺
地域の魅力を売り出し、地域の活性化を図っていきます。

赤城山ツーリズム（前橋DMO・民泊等）

赤城山全域で行う農業体験、環境学習、自然体験など、赤城山ツーリズムとブランド化を進めていこう。

都会の人たちが農場や農村で農業体験や食、自然体
験を通じて休暇・余暇を過ごすこと。日本では一般にグ
リーンツーリズムと呼ばれます。「グリーン」は緑の意味の
他、エコロジーの意味もあるのでエコツーリズムと趣旨
が重なります。「農村民泊」などとほぼ同義。アグリツーリ
ズムによって都市と農村が交流し、地域振興が図られる
為、政府は地域振興策として地域創生の柱と位置付けて
います。

実際の内容として

1. 農林水産物を介した通じた活動（加工品づくり、
産直・直売所など）
2. イベント（ふるさとまつり・農林まつり、環境
保全活動など）
3. 農林業・農村体験（市民農園、田植え・稲刈り、
植林体験、下草刈りなど）
4. 学校教育における農村や農林業とのふれあいな
どの田舎暮らしの実体験

これらを通じて、田舎に移住するきっかけになる場
合が多いです。

最近は、食品の安全性と生産者の顔の見える食品へ
の関心が高くなっています。同時にスローフード、スロ
ーライフなど、大量消費型生活への疑問を覚える人も
増えています。また、生物の営みとのふれあいが希薄と
なり、自然と人間のかかわりが縁遠くなってしまった
ことへの課題が大きくなっています。新しい旅の形と
して提供していきます。

何よりも前橋らしさを売り込む最大のチャンスで
す。前橋市は赤城山麓に広大な中山間地が広がってい
ます。さらには個性的な自然・環境重視農業を営む農家
や個性的な6次産業化食品が生産されています。これら
の自然と農林業に携わる方々の力を集め、ここにアグ
リツーリズムによる赤城振興を目指す事を目的にする
のです。

古民家宿泊体験は赤城の暮らしの紹介には最適な手段

宮城地区苗ヶ島のある東宮家住宅や阿久沢家住宅は民泊センターの
候補です。

日本の文化や精神を感じる古民家宿泊は台湾やイタリアオリベイト
市などとの連携を推進してインバウンドの受け皿として大切です。



14 章
エ ネ ル ギ ー
・ 環 境エ ネ ル ギ ー と
環 境 の 赤 城 山

原発に頼らない街を造りましょう！環境とエネルギーのまちへ。

前橋市の地域特性である恵まれた日照条件を活かした太陽光発電設備の設置促進や豊富な水資源を活かした小水力発電の普及など「エネルギー創造都市」の実現を目指します。バイオマス発電も県の政策「バイオスタウン群馬」と協力して進めます。最終的には前橋市の消費電力の30%を再生可能エネルギー化します。

赤城山を宝に変える方法？

今は死んだ森になっています。誰も見向きもしない価値のない森ですが、これを「エネルギー化」によって生まれ変えるのです。例えば市民が薪を作り、環境教育の場にもなる「市民の森」へ変え、林業団体と協調し、県内産木材の間伐材や剪定枝の利用を進め、ペレットボイラー

チップボイラー導入を支援すれば、多くの市民や企業がエネルギーを森林資源で賄えます。アラブの国から石油を年間10兆円も輸入するなど、エネルギー資源を世界中から買うのは止めて、赤城の資源を使うのです。

コラム 農業、工業、エネルギーのシナジー

旧富士見村役場の頃から富士見の村有林を維持管理されてきた組織があります。「富士見林班」です。彼らが山に分け入って行う山林の管理のおかげで今回の粕川小学校の木造りの用材が確保できました。使わない分の材木も相場より高く売ることが出来ました。森を守るフクロウのようです。

前橋市内を流れる農業用水に設置する水力発電計画がなかなか進まない。農林省の対応が不明確だからだ。赤城大沼用水は赤城山から落ち下る奔流。発電に利用できれば何千の家を賄うエネルギーを生んでくれるはず。来年度から発電所設置にいいよ取りかかることになりました。じっくりやろう。

一方、大きく進んで成果がある。それは農業員会の英断によって進みました。城南の障がい者施設が栽培する玉ネギ畑への太陽光発電の設置申請を前橋市農業委員

会が許可してくださったのです。農業が障がい者就労に繋がりました。さらに嬉しいのは、「畑の収穫が減っては玉ネギ栽培を隠れ蓑にした発電事業」になると心配してくださった近所の農家の方が栽培を指導してくださっている事です。

※収穫が減らないのなら、農地に太陽光発電を設置することは認められます。これをソーラーシェアリング【農業と発電で分け合うという意味】といいます。柱を建てて設置された太陽光発電パネルの下の畑で耕作すると、光が少なくなり収穫量が減る可能性がある…などの課題からなかなか許可がされませんでした。今回の農業委員会の許可によって、障がい者の農業法人への安定雇用が進みます。感謝！

清掃工場の延命化。やればできる！

新しい清掃工場計画を見直し、延命化を選択した理由は、「ゴミの量は減らせる」との思いからです。ゴミは出ただけ燃やせばいい！なんて考えは止めましょう。清掃センターを造る前に「ごみ減量の努力」を先ずは市民にお願いすることを優先したかったのです。六供工場の延命化を行い、その稼働中の15年間でゴミを減らせば、新しい清掃工場はもっと小さくて済むはずです。今、毎日400tのゴミが燃やされています。20年後に向かってゴミ減量の努力が必要なのです。現実はこの5年間でゴミは減りました。

私は下増田町に計画していた新清掃工場建設を白紙に戻し、市の可燃ごみの大半の処理を担う六供清掃工場の延命化に方針転換しました。延命化工事は27年度から始まり31年で終了します。そこから15年間、いえゴミを減らしながら使えば20年間も稼働できるのです。そうすると約25年も新しい清掃工場を先送りできるのです。4年前の市長選で公約に掲げ、当選後実行に移した「ごみ清掃工場の延命化」は必ず市民負担を減らせるのです。

下増田町に計画していた清掃工場の新設事業費は2012年時点で、175億円を見込んでいました。同時期に六供清掃工場の延命化に必要な事業費は100億円。その後、東日本大震災の復興や東京五輪関連の工事が増え、人件費や材料費が高騰。15年度時点で131億円必要となることが分かりました。計画年度や稼働期間の違いから単純な比較はできませんが、175億円から131億円を引いた44億円の縮減につながりました。延命化工事は今年7月から4年間の予定で、その後15～20年程度利用できる

のです。

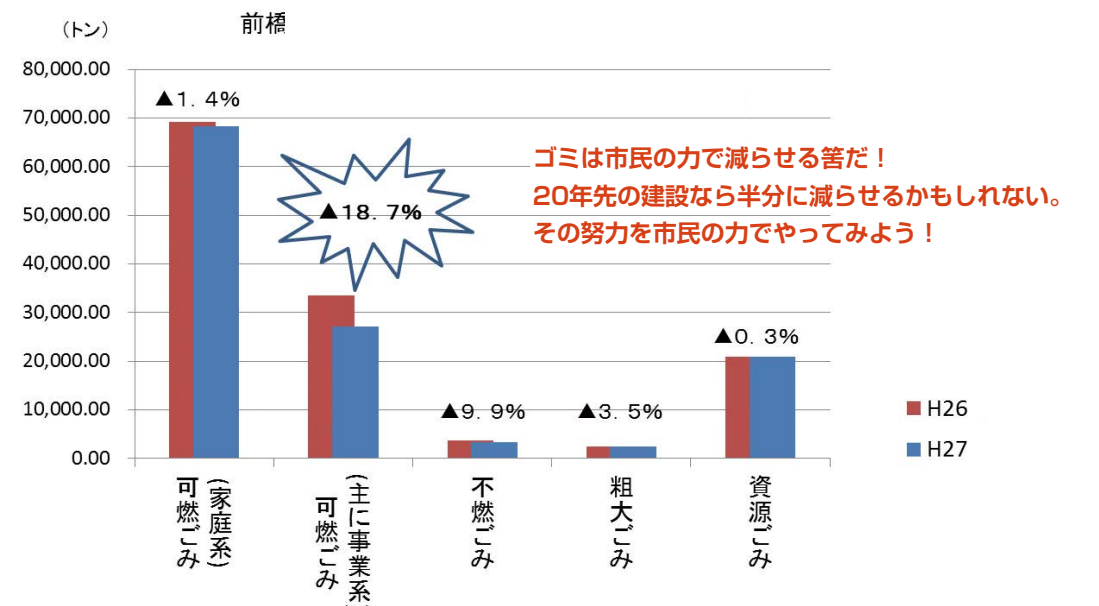
延命化で生み出される二十数年間を「ごみ減量を進める期間」と位置付け、次期新清掃工場の規模を大幅に縮小し、建設コストを抑え市民負担を軽減するため、可燃ごみの総量の減少に取り組みます。

市民1人1日当たりのごみ総排出量・15年度見込み982グラムに対し、20年度までに945グラム、25年度までに825グラムとする目標を掲げました。

10年間で16%減らすことになり、新年度は有価物集団回収の奨励金の品目に「使用済み小型家電」を加え、資源化を図ります。衣類の分別啓発用の袋を作り、転入者が窓口へごみカレンダーを求めてきた際に渡して分別を促すのです。

あるものをやりくりしたほうがいいと考える市民が多いと思います。「次の清掃工場建設計画を立てるまでに市民とゴミを減らしていこう」と協力を求めてまいります。

■前橋市のごみ処理状況（前年度比較）



事業系搬入ごみ量が減少しています。ゴミは減らせる！

H27から搬入されたゴミ袋を全部広げて展開検査を実施しています。つまりゴミが持ち込み可能なかの調査です。これによって許可業者搬入の可燃ごみ量は、H26年～27年で約20%減少し、H28の4～7月も前年比7%以上減少しています。

減量努力をしている市民や収集運搬をさせて居る方々の努力のおかげです。

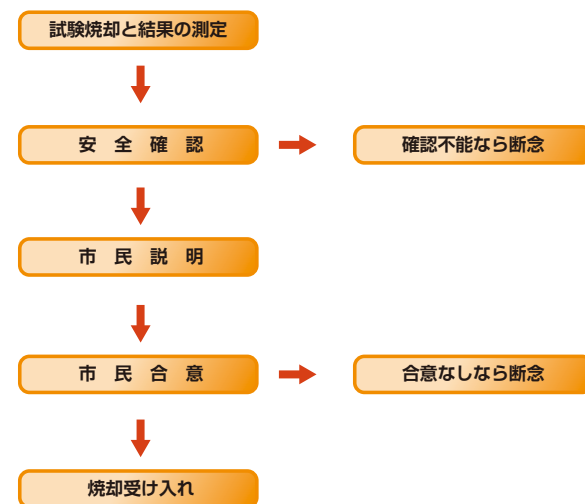


最大の難問「震災ガレキの受け入れへの不安」への対応？

私にも窮することがあります。5年前の震災とその津波が残した瓦礫の山の処理を全国で受け入れたことを覚えている人は少なくなっただしょう。しかし私にとっては「大きな難問」でした。でも急がずに説明と意見交換を繰り返し、不安を感じる方々に寄り添いながら、未来へ進んだ期間だったと思い出します。

『東日本大震災で発生したガレキの広域処理を巡り、受け入れを決めている桐生市の亀山豊文市長は17日の定例記者会見で、仮に前橋市が受け入れを断念した場合でも、同市の処理分を桐生市が焼却していく方針を明らかにした。亀山市長は、「前橋市長は、ガレキを受け入れる努力を一生懸命している」とし、同市が本格的に受け入れる可能性は高いという認識を示しながらも、「できなかったら、能力がある限りは、お手伝いしたい」などと述べた。一方、前橋市は10月下旬に試験焼却などを実施して、今後の受け入れ方針を決める。』（2012年8月18日 読売新聞）

当時、私は震災ガレキの受け入れを巡って悩み抜いていました。桐生市長の亀山豊文さんのコメント記事を読みながら、長くお付き合いを頂いている亀山市長の友情に感謝した。すでに決定された桐生とは違い、前橋の判断までにはまだまだ確認すべきことがあった。しかし私たちは前橋市民という主体がいかなる判断をくだされるかを見届けなくてはなりません。確かにここで、「受け入れを断り、桐生さんをお願いします」と決定することは楽な選択でした。しかしどちらにせよ、市民の判断を問うという大人の振る舞いが前橋に課せられていると私は考えました。早急な結論を避け、次のようなフローで一つ一つ検証しながら、仮に問題が明らかになれば、その段階で広域処理をお断りすることにしたのです。



試験焼却の結果をもとに、私は科学的に広域処理が前橋における環境負荷を増すことはないと判断しました。その結果を受けて3回の説明を行いました。しかし賛成の市民がおられる一方、不安を持つ市民の納得を得ることはできませんでした。バクフィルターの除去能力への不安は「冷却し除去できる」などの説明によって納得を得られました。しかし「科学的に安全だから皆、賛成してくれるだろう」とは私たちの奢った思い違いだったと痛烈に感じるのです。

従って最終的な受け入れ判断の前提として、3回の説

明会にて、市民から伝えられた不安を和らげる取り組みの必要性を感じました。

それにしてもなぜ市民の不安は消えないのか？その理由こそ、私たちが行う政治の前提にあるものであろう。そう思うのです。「3. 11」で問われたことは、科学的根拠を都合よく解釈して利用したり、あるいは情報を秘匿して真実を明らかにされなかったりという政治的な操作が露見して、結果的には政治そのものの信頼が揺らいでしまったらこうと思います。

更なる対策を講じて震災ガレキの受け入れを決断！

震災ガレキ受け入れの市民説明会に参加された一人の妊婦さんが発言しました。会場の後ろの席から私へ思いを語りました。『これから生まれる子供への放射性物質を原因とする健康被害への不安』の意見は私にとっても重たい意見でした。

何故、試験焼却の計測結果をもって安全性が理解されないのか？ひとつには数値的な証明は広く市民の心情を必ずしも動かさない…という側面があります。「安全です」と私たちの確信を上から押しつけるのではなく、不安に寄り添う心での行政のサービスを構築すること…これは前橋市政において私が優先する心構えだったはずです。真摯に子供への不安を感じたお母さんの不安へ寄り

添えない場合によっては処分受け入れ辞退の思いが浮かびました。どんなに説明しても、払拭できない不安の中での出産、育児はどんなにお母さんたちの心を苦しめるのか。私たちが一人たりとも切り捨てないという意思を示すため更なる対策を講じて再度の説明をすることを決定いたしました。

【対策1：広報の見直し】

前橋市のゴミ焼却場の近隣住民への情報提供は親切だったか？排煙の測定掲示板の数字の意味を知らない住民もいました。下水処理施設の新設ラインを高濃度放射能の保管倉庫と勘違いし、不安を訴えた市民もおられました。これらは最終処分場においても同様です。

モニタリング測定の周知なども拡充する必要があります。また自治会やウェブにおける広報なども重要です。

【対策3：希望者には測定器の貸与を】

特に妊娠中の女性や子育て中のお母さんも地域からの情報が届かない場合があります。それが故に不足に駆られることもあるでしょう。自宅におられても放射線量が把握できるように取り組むべきです。

【対策2：放射能汚染相談体制の検討】

市民の中で、特に強い健康不安と懸念を抱いているのは子供を持つ市民です。不安な心情を親身に聞いてくれるカウンセリングがあって、市民から得られる問題提起に対し、各課横断的に対処させるような対応があれば不安が解消されるのではないのでしょうか？単に説得するのではなく、極力気持ちに寄り添うようにじっくり話を聞くこと。できれば女性職員から任用することも一考です。

【対策4：最終処分場の対策】

ゼオライトの応用などを職員の研究心を持って新たな手法を模索すれば、きっと環境対策は向上すると思います。

震災ガレキの受け入れで学んだこと

以上、3回の説明会を経て私が感じた不安を減じる手法を述べました。行政を預かる者の責務として何が出来るか、何をせねばならないか、このガレキ処理の問題はある意味で事故後に市長に就任した私に新たな課題を提示する契機になりました。そして「徹底的に市民に寄り添う」「問答無用の市民切り捨ては行わない」という心情と政治理念をあらゆる行政課題を通じて貫いていくことを学びました。

政府が発した「ただちに健康に影響はない」という評価が実際には表層を捉えたものであり、その裏側には悲惨な故郷から移住を迫られるという状況が現実として起こっています。政治や行政が国民から多くの信頼を失

った世界(時代)に私たちは置かれている・・ということをもまずは座標の原点において、私たちは前橋における不安を払拭するべきです。

これからの政策実行に求められているのは、次の「3つの、-dence」です。

① **evidence**
(エビデンス)

誰もが信用する、最も確率的な情報としての実証的根拠

② **prudence**
(ブルーデンス)

慎重さ、思慮深さ

③ **confidence**
(コンフィデンス)

確信的な信用

この3つは並立的なものではなく、①と②があるという前提で③が生まれると解釈します。今回のガレキに関するプロセスとしては、①は関係職員の努力によって得られたと評価します。それでも市民理解が得られないのは何故なのか？それは②が不足しているが故に③に到達しなかったのではないかと感じています。以上のことを今後も市政運営の基本に市役所職員一同取り組んで参ります。

原発以外の前橋らしいエネルギーを造ろうとの決意

私たちは、復興の障害となり、未だに我が家に戻れぬ人々を思って原子力発電のリスクを真剣に考えるべきです。誰かの犠牲の上に、安楽を貪っていたのかもしれない。私は前橋らしいエネルギーをつくります。

つまり、原発のリスクを押し付けて、私たちは夏はクーラー、冬は暖房を当たり前のように使っていました。自前のエネルギーを生み出そうとせず、原子力発電依存のエネルギーに胡坐をかいていました。この体質を改めるという基本姿勢に取り組んでいきましょう。

出来ることはたくさんあります。ゴミの減量化、LEDの普及、スマートハウスへの取り組み、バイオマス利用や小水力発電などの取り組みによって省エネ型都市構造を作る努力を進めてきました。もっと身近なことでは、夏は皆で水鉄砲や通りで一斉に水をまく、冬は薪ストーブや暖炉で家族一緒に夜を過ごすなど楽しい取り組みも

大切です。

その結果、前橋市の市民生活や産業活動に費やされるエネルギーを効率的に再生エネルギー化するべきです。効率的とは「再生エネルギーの拡大は良いが、電気量の負担増は困る」という問題を再生エネルギーでもコスト低いという転換を進めるという意味です。※**原発が低コストだという定説も疑われています。**

しかし産業界では現実のコストとして「再生エネルギー＝料金増加」になっているのも事実です。重油を輸入するのではなく、赤城山に眠っているエネルギーへ変えていこうという試みです。

何よりも、市民が少しずつ環境負荷を減するようにひと手間を掛けてくださる暮らしに対する意識を広げていきたいと思います。エコバッグやドギーバッグ、打ち水や量り売り、ゴミの分別、リユース・・・それらはめんどくさい手間のかかることですが、そのひと手間を楽しみながら掛けられる暮らしが前橋に似合っていると思うのです。

太陽光発電の利益を原資にする環境基金の使い道

「前橋市絆でつなぐ環境基金」は、地球温暖化対策及び震災等による被害を受けた地域の環境再生等を推進する目的で平成24年3月に制定されました。その後、平成25年9月より本市において大規模太陽光発電事業がスタートし、現在、その売電益も基金に積み立てています。(今後、年間4～5千万円程度の積み立てを予定)

現在の環境基金では、財源として充てられる事業が「地球温暖化対策」と「震災支援」に限定されているため、積み立てた太陽光発電の売電益を広く市民に還元できていません。環境を維持する取り組みは様々です。ならば基金の活用も様々な方向があるでしょう。

例えば、前橋市にあるたくさんの公園は地域の自治会を中心にした「公園愛護会」によって清掃されています。この愛護会も高齢化によって活動が困難になっています。草刈り機などの購入補助や愛護会の活動支援なども基

金の趣旨にあった方向です。

同様に街路樹や河川敷の管理や植林事業・・・様々な環境を守る活動を、太陽光発電の利益が支える方向に変えたいのです。売電益をより有効的に市民還元するために、新年度に向け、**地球温暖化対策に限らず対象事業を「環境対策全般」に拡大することにより、環境美化や薪ストーブ補助など、幅広い事業の財源に充てられるように見直しを行っていきます。**

コラム 薪ストーブの購入補助を始めたい理由？

前橋市では2017年度から前橋市の北部森林区域において薪ストーブの普及に取り組みます。その財源は、前橋市が設置した3つの太陽光発電所の売り上げを貯めた「前橋市絆でつなぐ環境基金」を還元します。

①暮らしの中で手間を掛ける社会を復活させたいのです。スイッチを押せば暖かくなる暮らしに私たちは慣れてしまった。電気がリスクや危険と裏腹に作られているかを、原発事故による被害の実態が教えてくれました。私たちはそこから学び、もう一度面倒な暮らしが如何に安全かを伝えたいと願っています。「便利＝危険」の社会から「不便＝安全」な社会を思い出したいのです。

②前橋市では原発由来にエネルギー利用を縮小して電力の地産地消を目指す象徴として木質バイオマスはじめ再生エネルギーを進めるように取り組んでいます。出来るだけ輸入エネルギーを利用しない社会のモデルになるでしょう。日本は世界の国と貿易を行っています。アメリカと中国だけで10兆円もの貿易黒字を得ている一方、中東の国々から10兆円もの石油を輸入しています。石油以外のエネルギーを地域で生みだせば、油田を日本で掘った事と同じです。赤城山に油田を掘りたいのです。

だから手間だけど楽しい暮らしをもう一度思い出してほしいのです。そして戻って来る田舎の暮らしを復活させなくてはなりません。今なら可能です。スローライフこそ地方の風土を残す大きな力になるでしょう。そこに憧れる人々をもう一度地方が呼び込まねばなりません。

パリ協定とは

地球温暖化対策の新しい国際ルールがはじまりました。

アメリカ、中国、インド、EUをはじめ、深刻化する地球温暖化に対して、世界のすべての国が、行動するルールです。今年9月初め、世界のCO₂排出の4割以上を占めるアメリカと中国が、そろって協定を締結しました。当初は反対していたアメリカは「シェールガス」という、CO₂の排出が少ないエネルギーが見つかり、中国は、PM2.5などの環境汚染で、低炭素の燃料が必要となったからともいわれています。自国の都合で参加した米中を批判するよりは、日本もこの機会に再生可能エネルギーの技術開

発を進める事が当然の取り組みでしょう。エネルギービジネスで経済を回す、特に地方経済を回すという経済戦略をしたたかに取らねばなりません。

省エネや脱CO₂エネルギーへの転換によって「2030年度までに、2013年度比で温室効果ガスの排出を26%削減」し、2050年には、80%削減する目標を掲げています。今後は、再生可能エネルギーの比率をさらに高める努力が必要といえます。

パリ協定が世界の約束に！森林の価値が復活する。

地球温暖化防止を目的に世界の国々が工場や家庭から排出される二酸化炭素の削減を行い、森林の育成を進める国際条約が締結されました。それが「パリ協定」です。世界の国は二酸化炭素などを半減するために工場からの排出される二酸化炭素を減らし、山に若木を植林することを約束しました。石油やガスを燃やす代わりに薪を燃やす事がお金になる時代になりました。薪ストーブや木材チップのボイラーの普及が始まります。中東の石油もロシアのガスより赤城山の森林が貴重な資源になります。山の価値が上がるという事です。チャンスをものにしましょう。

25年に赤城山の富士見村有林から切り出した材木で粕川小学校の木造校舎が出来ました。森林を建設材として利用することが第一です。さらに材木として利用しづらい曲がった木がエネルギーになれば無駄がありません。山の木に経済性が復活されるのです。

山の緑を守れ！と森林伐採に反対する人がいます。それは間違いです。もちろん広葉樹の自然林は守ります。白樺の林やブナの林は宝物です。でも人が経済の為に植林した樹木は成長すれば利用しなければなりません。間伐し下草を刈って、きれいな森をつくりながら木を育て、伐期になれば人の経済の営みの中で利用されるのです。そして再植林すればいいのです。

しかし現在、人が植えた人工林が、管理されることなく放置され、立ち枯れ同然になっています。赤城の人工林のほとんどが放置林であり、老木で痩せ細り、間伐もされず、窮屈に立ち並んでいる山の森。陽が当たらず、下草も生えず、むき出しの地面が崩れていく状態です。遠くから見れば緑一色の赤城山の森はもはや年老いた森になっています。老木は二酸化炭素を吸わないのです。若木に植え替え、二酸化炭素を吸って酸素を生み出す若い

山に変えなければなりません。

経済林として植えられた赤城の人工林を再生し、活力と経済価値のある山に変えねばなりません。それがエネルギーとしての価値なのです。

富士見の森林作業班は5人のメンバーで富士見の村有林、現在は前橋市の市有林の管理をされています。枝打ち、間伐、下草管理などのおかげで素晴らしい前橋市の財産森が守られています。粕川小学校の木造校舎も富士見村有林の材木で出来ました。前橋でも山の木を伐り出し薪やエネルギーにすることで赤城の森林がきれいになります。



富士見林作業班のマーク。森を守るフクロウのデザインです。彼らの力こそ赤城山の森の価値を守ってくれました。

上野村

地元木材で発電
村営工場、公共施設に

15 章 安全な街

安全な街、 前橋を創ります

前橋を汚す悪意を私たち市民は許しません。この都市は市民にとって宝である愛おしい街です。ここからゴミの不法投棄や犯罪をなくさねばなりません。そのために幾つかの取り組みを実行しました。今後も新たな取り組みを行っていききたいと思います。それらの取り組みを阻害する勢力からの反発もあるでしょう。しかし市民が立ち上がれば「質感のある穏やかな暮らしの街」を取り戻すことができます。

客引き禁止条例 路上駐車の大撲滅

警察・防犯協会と手を組んで犯罪、事故をなくします。立ち上がれ市民！

中心市街地では、午後8時を過ぎると、風俗店や飲食店の“客引き”が通行者に声を掛けるため、市民の方々が不安を感じてしまうなど、街の活性化の妨げになっています。そこで、「“客引き”防止条例」の制定を計画しています。この条例の主な内容は、“客引き”の行為を禁止し、これに違反した場合の罰則を設け、また、夜間に“客引き”がいる区域をパトロールしながら指導を行う巡視員を設置するなど、実効性のあるものとし、“客引き”のいない、賑わいのある“マチナカ”にしたいと考えています。タクシーや代行車の客待ちの路上停車や飲食店の従業員の路地への違法駐車も目に余ります。まるで夜の繁

華街は何でもありの野放し状態です。これが前橋市の中心市街地を蝕んでいます。朝は歩道も車道も吸い殻が地面に散らばっています。ここは皆の街です。自分の庭にゴミを投げ捨てることはいけません。自分の街と思っていない方々にはお引き取り頂くことは当たり前の事です。来年には更に強制力のある条例を制定し、警察署との連携によって家族で出かけられる街へと一気に変えていきたいと思います。

ゴミの不法投棄・たばこのポイ捨て との闘い

中心市街地に出されるゴミ袋の山。飲食店が家庭ゴミの集積所にゴミを出す事は出来ません。事業所からの排出ゴミは廃棄物収集を専門業者に依頼する事になっています。そこで市役所はゴミステーションの撤去を行い、不法ゴミ出しを監視する警備員さんを配置しました。事業系ゴミの収集業者さんへ各店舗への収集契約を普及させることもお願いしました。すると3か月ほどで飲食店からのゴミの山は消えました。

次に、前橋市路上喫煙及びポイ捨ての防止に関する条例を制定し、現在、中心市街地の千代田通り（一部）と

銀座通りを路上喫煙・ポイ捨て行為の防止重点区域に指定し、市民のマナー遵守と環境美化の啓発を図っています。まだまだ吸い殻が無くなるほどには至っていませんが、根気よく続けていきましょう。

危険な交差点や暗い道－防犯灯の設置方針と取り組み経過

危険な交差点、通学路の緊急点検と危険箇所の整備

市内の防犯灯については、各自治会が設置・管理を行っていましたが、平成25年度に約23,000灯を前橋市に移管し、各自治会の負担を無くしました。併せて経費節減を図るためESCO（エスコ）事業を活用し、蛍光灯からLED灯に変更しています。

その後も、自治会の意見を聞きながら毎年継続して防犯灯を通学路等に新設し、今年度も約340灯を設置します。これにより、今年度末の総数は、24,700灯以上になります。

昨年度からは、自治会が新たに設置した防犯灯を市に寄附する制度も作るなど、明かりを通じて市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを進めています。

前橋市 自治会の経費負担廃止
防犯灯2万3000基LED

街路への防犯カメラの設置 経過と今後

市内街路への防犯カメラ設置については、当初は市の補助金を活用して防犯協会が中心市街地や前橋駅・新前橋駅・駒形駅周辺などに合計21基を取付けしました。（現在は市が管理しています）

平成23年度からは毎年市の予算で、警察からの要望に基づいて不審者が多発する通学路等に防犯灯と防犯カメラが一体となった「e（イー）自警灯」を設置し、昨年度までに合計70基を取付けました。

また、今年度も機種を選定中ですが、10基の新設を予定しています。

今後も防犯カメラを活用した“見守り”により、犯罪の未然防止や、事件発生時の解決のため、増設を検討しています。

前橋市 通学路沿い補助も
公園100カ所防犯カメラ

道路照明もエスコで明るく

道路照明灯1,953灯のうちデザイン照明を除く1,532灯のLED道路照明灯への交換が、平成27年6月に完了しました。

なお、整備にかかる契約形態は、10年間の機器保守管理を含めた賃貸借契約となっています。

また、LED道路照明灯への交換により、電気料金の

みでは交換後1年間で約2,900万円を削減（4,300万円→1,400万円）し、賃貸借料を含めた節減では、約1,700万円の効果がありました。

電気料金については、原油価格に左右されるため、単純算定はできないが、10年間で1.5億円の節減を見込むものです。

ICTを活用した独居老人の安否確認 概要

認知症による徘徊行動が認められる高齢者（以下「徘徊高齢者」という）を在宅で介護している家族に対し、人工衛星を利用した徘徊高齢者の位置情報検索用の端末を貸与するとともに、徘徊高齢者が所在不明の場合に

は、徘徊高齢者の所在地情報を提供します。このことにより、家族の精神的負担又は経済的負担の軽減を図り、もって、徘徊高齢者の早期発見のための一歩になるでしょう。

防災ラジオによる災害情報の発信

大災害が発生すれば、まずは市民が自分で命を守ってほしい。そのための災害情報を伝えるためにも防災ラジオの配置を進めています。すべての世帯に防災マップもお届けしています。前橋は首都圏の避難民の受け入れもしなければなりません。民間と連携し、公民館に災害用ガス発電備蓄を設置します。

災害情報は、その状況に応じた的確で迅速であることが求められます。本市では、災害情報の伝達手段として、防災行政無線や緊急速報メール等の活用とあわせ、「防災ラジオ」を導入し、現在、約1万台が利用されています。

また、災害情報の発信に当たっては、刻々と変化する状況を把握し、迅速・的確な判断を行うための「判断・伝達マニュアル」と「避難勧告等の発令基準」を設け、標準化と共有化を図り運用を行っているところです。

なお、「防災ラジオ」は市内居住者又は市内の事業所には1台2千円で、避難時要支援者登録をした方には無料で頒布しています。



前橋市検討 緊急放送 屋内で受信
防災ラジオ購入に補助

コラム 大雪に思い知らされた 一週間

H26年2月の雪は私にとって忘れてはならないものです。市民の信頼を失い、多くの被害や経済的損失を生じた災害は、初期段階の私のミスによって深刻になったと考えています。

夜半には雨になるとの気象発表をもとに「除雪は明日早朝から実施」と判断したことを反省しています。2月16日(日) 早朝まで降り続いた雪は、前橋気象台の記録を塗り替える70cmの積雪になりました。朝から動かす手筈の道路管理を委託している建設業者の方々は除雪用の建設機械に運転手がたどり着けない事態に陥っていました。そして、市内道路の混乱は多くの市民へ多大な迷惑を掛けてしまうことになったのです。

本来の緊急時の連絡・調整機能が十分に作用せず、今回の大雪で出勤不能だった職員が500人以上発生するとともに、所属を超えた応援体制を本格的に起動させるのに積雪から6日を要しました。このため、職員の自宅周辺施設等での臨時業務体制をより早い段階で起動させる仕組みを構築し、人員を有効活用する必要があります。

除雪の優先度を幹線道路、医療機関周辺、バス路線、ごみ収集運搬主要路線を優先し、市内業者80社により順次、除雪を行いました。また、柏崎市(2月17日(月)、18日(火))及び新潟市(2月19日(水)から21日(金))から除雪作業の応援があったほか、多数の市民が自発的に町内道路の雪かきに協力して下さり、農業用車両に雪かきを付けて走り回ってくださった農家の方々など有り難い力を借りる事になりました。2月21日(金)には、除雪済道路延長が、697.9kmとなり、幹線道路の除雪を概ね完了。除雪を進めるうえでの課題としては、国・県等の関係機関と連携し、医療機関周辺など優先的に除雪すべき道路について、情報を共有するとともに、関係機関で一体的な除雪作業を行う必要があります。また、幹線道路の除雪は、民間業者による除雪が大半を占め、それを補う形で市直営の道路補修センターが行ったように、緊急時の対応に



群馬県の除雪車（赤城県道にて）

民との連携、民の力が大変重要であることを示しています。しかしながら、平成26年3月に群馬県建設業協会がまとめた報告書では、建設業界の課題として除雪車の老朽化、作業員の高齢化が深刻で、現状の除雪体制はあと5年しかもたないと回答した前橋市内業者の割合が69%となっており、緊急時を見据えた官民の役割分担を検討する必要があります。

情報発信についても課題が明らかになった。雪に関する市民への情報提供は、降雪の初期段階から「まちの安全ひろメール」を活用した気象等の情報、まえばしCITYエフエムの臨時放送、17日に立ち上げた「防災ツイッター」、「市ホームページ」における除雪情報・業務停止情報・雪害復旧支援策などの詳細な情報の掲載、3月1日・15日、4月1日・15日号、5月15日号の広報まえばしに加え、災害広報（回覧）を臨時発行するなど、情報発信ツールの特性を踏まえて、積極的かつ多角的に行う必要があります。市のホームページは、1月の閲覧数が243,086件でしたが、2月は約1.5倍の354,795件の閲覧があり、大雪関連の閲覧件数が上位30項目中19項目を占めました。「まちの安全ひろメール」については、大雪を契機に登録者が約1,200件増加しました。閲覧実績などから、ICTを活用した情報発信の効果が認められるものの、本庁代表電話が一時的にパンクしたうえ、現状では自治会への連絡・情報提供を、市職員が直接届ける方法で行っており、ファックスの設置やICT対応の検討を求める意見が複数の部署から出されました。

また、り災証明等の申請書配付、各種支援策を周知する案内配付など、高齢者を中心に支所・市民サービスセンターの活用が目立ち、最終的に身近なサービスを市民に直接提供する地区拠点の重要性を再確認しました。



柏崎市からのラッセル車



新潟市から応援



農家の皆さんの応援



ボランティアバス（茨城県東茨城郡城里町：石塚観光自動車、長岡ナンバー）

備忘録

除雪、そして排雪の取り組みながら、さまざまな課題が表れました。備忘録としてここに記します。

1. 情報発信・災害ツイッターの開設・定時、除雪情報の発信・議会への報告体制
2. 放置車両の路肩移動を前橋自動車整備振興会と協力実施
3. ボランティアセンターの開設、協力者、団体を募集
4. 教育委員会の休校決定と再開への地域要請
5. 消防局では巡回と合わせ深雪道路の圧雪を実施 倒壊等の危険やすでに倒壊した建物内に取り残された人の有無など。消防団も協力実施
6. 避難者の受け入れ 山間部の孤立世帯、または倒壊危険建物などのリスクのある方、避難要支援の方など避難受入れを市役所会議室に開設
7. 自治会、民生児童委員、防犯委員会、交通指導委員会、消防団各位へ問題点の把握と協力依頼。
8. 災害協定相手先各位への応援照会 本市と防災協定締結先への支援要請の確認

そして私は後手にならないために雪対策のこれからの対応を決断しました。「1時間5cmの積雪を確認後、直ちに大雪警戒本部を招集し、除雪開始」今回のミスはこの決断が出来なかったことに尽きます。そして様々の確認を行いました。

- 国、県、市道の初期の除雪を分担し効率的に行う
- 国、県、市道の除雪方法、除雪優先路線の事前確認
- 市内の除排雪の置き場を事前指定
- 市内建設業者にある除雪能力を事前確認と能力保持
- 除雪能力を有する方々への出勤について事前確認
- 災害応援協定の充実
- 市役所と関係機関との連絡体制。（防災協定締結先やJA、商工会議所等）
- 広報の拡充、(防災ラジオ、FMラジオ、自治会防災広報紙のテンプレート化、印刷機の公民館設置、SNSの利用、広報車の巡回)
- 旅行者への保護

自治会との連携の必要事項

- 地域の主体的なリーダー機能を有する体制づくり
- 災害時の避難所開設から安否確認などの機能をシミュレーションし問題把握
- 防災マップによる避難所開設の迅速化
- 自治会ごとの安否確認システム
- 要支援者リストの作成
- 自治会に自主防災組織の必置化
- 自治会、公民会等へ資機材の配置
- 自治会への情報提供や課題聴取の通信の確保



大勢の被災者が復興に向けて取り組まれたことに労いを申し上げます



市民の結びあいに感謝します

16 章
市民主体

市民主体の街づくり

ひとり一人の市民にひとつ一つの考え方があります。しかし社会はひとつです。つまり、ジグソーパズルの一枚一枚は形が違うけれど、揃ったパズルは美しい絵になります。すべての市民に役割があって、誰かと結びあって社会を成します。自治体も同じです。1,500の市町村、その中にある自治会、地域の絆、ご近所・・・皆がそれぞれの役割をもっています。同じものはありません。皆が違います。違うからこそ繋がりがあえるのです。尊重し合えるのです。ひとり一人が、町や村が自分の役割を果たしながら連携する社会こそ、美しく、豊かな日本を描くでしょう。

前橋は前橋の役割を果たす

暮らしの現場に近い自治体(市町村)こそ自治の主役である。

国や県は市町村自治体へ裁量権と財源を移譲すべきです。私は中央政府に「小遣いを増やしてほしい」とは言いません。「予算の使い方や税の取り方の自由度を認めてほしい」のです。つまり歳入と歳出の自由を望むのです。小遣いをもらって親の言いなりでは子ども扱いです。使い方が決まっている交付金だから日本中の何処の市町村の同じ町並みになっていくのです。政府の指示通りの街づくりだから、どこの街も駅前も学校の形もそっくり金太郎飴になってしまうのです。薬屋根の学校が

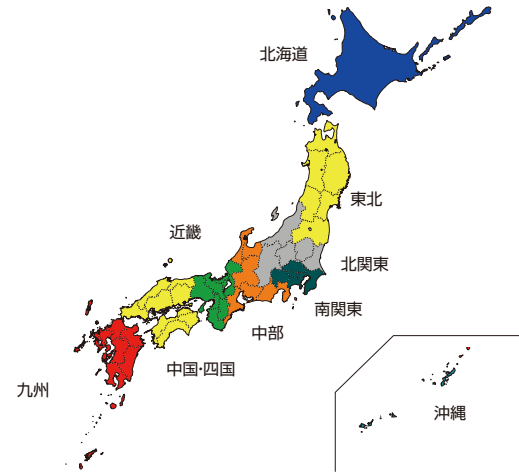
なぜないのですか？土地にはそれぞれ風土があります。風土の中で人は生きています。北海道や沖縄と前橋の風土が違うように、校舎の形も違っていいのです。

中央政府が市町村の独自性を認めず、創意工夫を許さないのは、地方自治体を信じられないからでしょう。せめて道州制にして道州政府に権限を渡してはどうでしょうか？北関東信越州くらいなら似通った風土の中にいる。同質な風土の州の枠の中で市町村が自由度を高められればいいと思います。

道州制へ

私は道州制に賛成しています。国は国防や皇室、外交を担当し、多くの権限を道州に移管すべきです。

この地図の日本列島は7つの州と北海道の色分けされています。政府の区割り案のなかで、私が推奨する8道州の案です。この場合、群馬は北関東三県と新潟・長野の5県で構成される州の中心になり、しかも埼玉県が南関東に編入されます。さいたま市が州都候補から外れ、真ん中に位置する群馬が州都を狙える。新潟県は北陸州には入らないでしょう。その理由は日本海側だけの州にはメリットが少なく、また北陸州の州都は金沢市が有力



だからです。長野県も北陸州や中部州と組むより首都圏と組むメリットを考えるでしょう。私たちは本州を太平洋から日本海まで横断するベルトの中央、つまりベルトのパックルに位置するのです。新潟と茨城の2つの空港、中国ロシアへの港とアメリカへの港の結節点に位置するので

す。群馬県、そして前橋市にとって道州制をデザインして群馬の発展になる形に導かねばならない。待ちの姿勢ではなく、能動的に働きかけていこう。都道府県の合併によって州を作り、都市が住民自治の基本になっていくのだ。

市民主体の街づくり

市民が自らの意思をもって個人で或は連帯し、自分たちの暮らしや街をデザインしていくことは都市が良くなる事です。市民は傍観者であってはなりません。

自らの暮らしの課題を解決する、主体的な存在であってほしいと願います。個人としての解、結びあう自治、コミュニティビジネスとしての社会問題の解決など市民主導の街づくりこそ複雑化する社会を良くするために大切な力です。

市町村が県や国に権限の委譲を求めるのと同じように、市民は市役所に権限の委譲、規制緩和を求めている。それは自らの地域は自らの意思と汗で作りたいという市民の意欲からです。地域のコミュニティに予算と権限を分与する方向で進んでいます。それば市民主体の地方自治の形を確立するという夢」に向かっているからです。

自由度の高いまちづくりを行うための規制緩和は不可

欠。どのようなまちにするかの裁量権は市民にあるのだから、私はそういう風に考えて行動してきました。それは市民が決めること。首長の勝手な思い込みと独断で決めることではない。ただ、一言でいえば、規制に縛られない自由度のある市民主体の社会を創りたい。その象徴的な都市がアメリカ・オレゴン州のポートランド市です。市民が自由に自分のクリエイティビティを発揮できる社会。それが前橋にふさわしい社会です。汗する市民に力あれ！

前橋市長
支社長に権限移譲
地合併「町村長を復活」

各支所と自治会に交付金

支所でできることは支所で。地域コミュニティで出来ることは地域で・・・旧町村で問題が解決できる仕組みこそ市民主体の街には必要です。そして自らの意思で町に参画する市民の存在が必要です。

4年前、旧町村の単位に100万円の地域振興費を配分しました。その4年間の実績を資料に添付していますのでご覧ください。私の感想では、支所長さんが地域のみなさんと相談しながら予算を配分されて居ると感じます。もし本庁の会議であつたら議論のテーブルにも載らない要望でしょう。だからこそ暮らしの現場に近いところに決定権限がある事が大事です。校長先生に学校運営費を任せ、各支所の地域振興費を200万円に増額しました、同様にサービスセンターにも50万円の振興費を配分します。各自治体への地方住民税の1%である1億7千万

円を人口割で配分しています。これらの予算は自由裁量の配分です。市役所の会議室で何でも決めないことです。それが地域の知恵と汗を引き出してくれるのです。

地域振興費100万円で取り組んだこと 4町村一覧

大胡
地区

	事業名	事業費
H24	1 大胡地区木障切り大作戦	167,000
	2 環境美化に配慮したゴミステーションの設置	196,000
	3 足軽町公民館立木の伐採	200,000
	計	563,000
H25	1 向町地区防犯灯設置事業	200,000
	2 上電活性化・利用促進啓発事業 電車・バス貸切使用料、路線バス使用料)	200,000
	3 横沢町旧公民館立木の伐採事業	151,000
	4 樋越町公民館前グラント補修事業	200,000
	5 茂木ふれあい農村公園緊急避難所整備事業	160,000
	計	911,000
H26	1 大胡地区文化芸術活動支援事業 合唱団の全国大会出場経費の一部)	60,000
	2 根古屋自治会館非常用照明整備事業	192,000
	3 横沢町自治会掲示板設置事業	194,000
	4 足軽町地域環境保全事業 自走式刈払機、格納納屋整備)	200,000
	5 上大屋町ゴミ不法投棄抑止事業 ゴミ集積所防犯カメラ設置)	200,000
	6 大胡地区防犯啓発活動推進事業 防犯のぼり旗設置)	154,000
	計	1,000,000
H27	1 河原浜町自治会掲示板設置事業	198,000
	2 大胡祇園まつりPR事業 まつりに来場する小学生の上電運賃補助、チラシ作成)	90,000
	3 地域伝統芸能復活事業 山車の整備)	186,000
	4 大胡小学校大けやき保護事業 養生ローフ柵の修繕、表示板の設置)	133,000
	5 大胡駅イルミネーション整備事業	200,000
	6 東金丸町自治会掲示板設置事業	193,000
	計	1,000,000

粕川
地区

	事業名	事業費
H24	1 老朽化遊具撤去事業 滑り台撤去)	36,000
	2 女淵公会堂床面改修事業	157,000
	3 庫屋撤去並びに整地、花壇の整備事業	200,000
	4 桑老木伐採事業	40,000
	5 駐車場造成事業 神社隣接地の駐車場整備)	200,000
	6 田面公民館トイレ改修事業	159,000
	7 自治会管理地整備事業 立木の枝おろし)	120,000
	計	912,000
H25	1 女淵公会堂空調機の更新事業	158,000
	2 新屋子どもを守る会防犯物品の購入費補助事業	51,000
	3 中区民センター空調機の設置事業 室外機盗難による緊急対応)	200,000
	4 ごみステーションの追加設置事業	126,000
	5 チーム ゼロ1交通安全物品の購入費補助事業	18,000
	6 ごみステーションの修理補修事業	58,000
	7 田面区民センター空調機の設置事業 室外機盗難による緊急対応)	182,000
	8 ごみステーションの修理補修事業	175,000
	計	968,000
H26	1 込皆戸子どもを守る会会員用の上着及び横断幕購入費補助事業	88,000
	2 ごみステーションの集積ケージ増設事業 3基)	200,000
	3 ごみステーションの集積ケージ増設事業 1基)	146,000
	4 交通指導備品 (ランシーバー) 購入事業 7台)	171,000
	5 子ども交通防犯指導物品購入	48,000
	6 女淵太々神楽装束購入事業 赤2緑2計4着)	200,000
	7 ごみステーションの集積ケージ設置事業 1基)	145,000
	計	998,000
H27	1 ごみステーションの集積ケージ増設事業 1基)	172,000
	2 ごみステーションの集積ケージ増設 1基)及び修繕 3基)事業	200,000
	3 深津区子供を守る会会員用の交通指導物品等購入事業	80,000
	4 ごみステーションの集積ケージ増設事業 1基)	168,000
	5 ごみステーションの集積ケージ増設 1期)及び修繕 2基)事業	200,000
	6 田面子どもを守る会会員用の交通指導備品等購入事業	117,000
	計	937,000

宮城
地区

	事業名	事業費
H24	1 馬場町町民広場トイレ改修	176,000
	2 三夜沢町自治会倉庫改修	162,000
	3 苗ヶ島町子ども広場改修	200,000
	4 大前田町子ども広場外灯設置	200,000
	5 柏倉町コミュニティーセンタートイレ改修	109,000
	計	847,000
H25	1 電動コミュニティバスを活用した参道松並木遊覧事業	58,000
	2 ごみ集積場 中田下地区)格納棚増設整備事業	117,000
	3 柏倉町物置補強整備事業	200,000
	4 大前田町ちびっ子広場フェンス改修整備事業	200,000
	5 三夜沢町掲示板移設整備事業	78,000
	6 市之関町物置補強整備事業	200,000
	7 馬場町格納庫補修整備事業	147,000
	計	1,000,000
H26	1 鼻毛石町リサイクル庫整備事業	154,000
	2 柏倉町物置補強整備事業	168,000
	3 市之関町健康管理に配慮した施設整備による自治会活動の円滑推進事業	30,000
	4 三夜沢町防災倉庫整備事業	154,000
	5 苗ヶ島町集落センター前広場排水改良施設整備事業	155,000
	6 馬場町集落センター倉庫改修事業	167,000
	7 大前田町町民広場フェンス改修整備事業	172,000
	計	1,000,000
H27	1 苗ヶ島町集落センター外灯設備整備事業	98,000
	2 大前田町町民広場防風堀撤去・フェンス改修整備事業	198,000
	3 宮城地区粟の献穀抜穂祭実施	84,000
	4 宮城地区ごみ集積所設置用看板作成事業	200,000
	5 鼻毛石町ごみ集積所施設設置事業	200,000
	6 大前田町獅子舞衣装新調事業	200,000
	計	980,000

富士見
地区

	事業名	事業費
H24	1 時沢不動堂山門屋根修理事業	200,000
	2 小暮公会堂樹木枝下ろし事業	200,000
	3 富士見役場の跡1の石碑移設事業	36,750
	計	436,750
H25	1 横室歌舞伎引き幕作成事業	200,000
	2 十二山公園整備事業 草刈、雑木伐採)	200,000
	3 愛宕公園休憩所整備事業 撤去、新設)	200,000
	4 受地会館敷地内樹木枝下ろし事業	200,000
	5 時中会館敷地内樹木枝下ろし事業	96,000
	6 諏訪広場樹木枝下ろし及び支柱撤去事業	104,000
	計	1,000,000
H26	1 原上子供みこし更新事業	200,000
	2 中島自治会八木節用備品更新事業 傘5本、扇子10本、子供用法被20組)	134,000
	3 所替戸自治会八木節用傘更新事業 11本)	65,000
	4 徳沢自治会納涼祭備品製作事業 傘10本、提灯50個)	113,000
	5 漆窪公民館敷地内安全確保事業 樹木伐採、石垣補修)	167,000
	6 田島子供みこし更新事業	200,000
	7 第50回富士見町体育祭記念備品作製事業 屋外テント張、プラカード2基)	121,000
	計	1,000,000
H27	1 原西子供みこし更新事業	200,000
	2 学社連携郷土芸能 横室歌舞伎)伝承事業 上演委託料)	200,000
	3 高松会館敷地内樹木伐採事業	88,000
	4 石井三区住民センター敷地整備事業	200,000
	5 旧富士見村設置の自治会掲示板撤去事業 4基)	99,900
	計	787,900

コミュニティビジネスによる社会問題の解決

市民、その集いである「自治会」が主体的に活動できる仕組みを拡充し、活動の場である公民館の整備など基礎的な整備を進めてきました。もっと小さい近所付き合いも大切な自治の力です。市民活動支援センターを中心に市民の自主企画を応援するプロジェクトも立ち上げ、市民活動のポイント制度も作り、活動に対して少しお得なポイント還元なども進めています。

※Mサボとの愛称の市民活動支援センターには多くの活動団体やNPOが集い結びあって様々な暮らしの質を高める活動を行ってくださっています。前橋の市民力の殿堂だと誇らしい気持ちです。今後は「ボランティア」の枠を超えてビジネスの観点から持続可能な活動団体への変革を期待してします。社会の課題を善意が解決する社会こそ新しい社会システムでしょう。

旧町村の大胡、宮城、粕川の3町村は合併して10年が経過した。それぞれの地域の問題を地元で解決していくための地域懇話会を昨年立ち上げてもあります。道路整備など合併時に策定した新市建設計画にある継続事業の進捗確認や地域の将来を住民と行政が一体となって考える会議として継続していくつもりです。

合併6年目となる富士見地区は、放課後児童クラブの設置といった子育て環境の整備など、新市建設計画に沿って事業を進めています。山ろくでの民泊などを検討し、赤城山ツーリズムも推進します。

旧町村の住民は、大きくなった前橋市が自分たちの地域を守ってくれているのかという心の問題が大きいと思います。大胡、宮城、粕川、富士見地区を旧市と同じように伸ばしていく責任がある。地域の人たちが大切にしてきた活動を大切に守り育てていきたいです。

17 章 行 財 政 改 革

無駄を省き、 納得できる負担を お願いすることです。 今までのやり方を変えていく リーダーシップが必要です。

私たちは変革の時代にいます。慣例の中で見過ごされてきた無駄や非効率を新しい視点で改め、市民のための新しい価値をつくっていかうと挑戦します。

全ての業務を徹底的に見直し、利権のよどみを打ち流します。負担をお願いする勇気も必要です、お金を生まねば何も始まりません。

市長の施策に関する報道機関からアンケートで、例えば「保育料の無料化をする・しない」という質問があった場合、全ての政治家が「保育料無料化に賛成します」と答えるでしょう。だからこそ、回答だけでは伝わらない市長の考えを正直にお伝えしたいと思います。

財政に余裕があれば「保育」も「給食」「医療費」も、全ての市民サービスの負担減が実現出来ます。しかし現実はそのではありません。財源には限りがあります。財源を生み出すための改革こそ大切です。政策全体の中でどの事業を優先するか？その考え方を説明する責任を果たしたいのです。

シティプロモーションとは何か？

ゆるキャラグランプリ、ころとん。ブタの着ぐるみのコンテストで市長が遊んでいる！との批判も頂きます。しかし“ころとん”への投票は遊びなのでしょうか？皆で政策的な対立もないこのゆるキャラへの応援で 市役所や市民が力を合わせ、その結果に一喜一憂することは前橋にとって大事なことだと思います。私はこのささやかな一致団結を大切にしたい。前橋という故郷、市民の暮らし。これらに寄り添うために 職務を少し弾力的に解釈することは不正義なのでしょうか？市役所の職員が業務中に道を尋ねられた老人を目的地まで案内をする。それは業務放棄なのでしょうか？私はそうは思いません。前橋のために資する行為だと思います。そのような善意の弾力性が前橋市という力を大きくするものだと考えるからです。

※おかげさまで 2015 ゆるキャラグランプリは過去最高の全国 29 位。率直に嬉しいですし、応援して下さった皆さんに心から感謝を申し上げます。

しかし、2016 ゆるキャラグランプリへの出場は控えました。企業のキャラクターまで参加しての得点争いには違和感を覚えたからです。市役所には商業主義に踊らされる時間はないと考えます。

都市の補完性とは？

連携中枢拠点都市等による周辺市町村との連携、中核市他都市との連携推進は、無駄を省き市民へのサービスを高める手段になります。「前橋市×高崎市の構図」はマスコミ受けが良く、茶化されて報道されます。高崎と前橋のどっちが勝ちでどっちが負け？という関係ではないです。それはツインシティーとして補完しあう関係です。市域も重なっていますから市民の交流も多く、両市連携が進めば保育や介護などの福祉サービスなど市境を越えて提供できます。すでに前橋済生会病院では病児預け入れを高崎市民にも行っています。行政情報を管理する基幹システムも、伊勢崎市・高崎市・前橋市では共同運用し、いわゆるバーチャル市役所化にして経費の削減に成功して年間2千万円の予算を省いています。高崎―前橋の市長連携会議や北関東4市連携、職員の交換交流など行っていますが、『お隣さんに蔵が建つと腹が立つ』ような競い合いは無駄の原因です。



※北関東の4都市 水戸・宇都宮・高崎・前橋は連携事業を2015年から始めています。

前橋市役所からは高崎市役所が見えます。隣接する高崎市の庁舎とは僅か12kmの距離しかない。高崎市の人口は県内トップの約37万人。中核市移行をめざした平成の大合併によって06年に初めて前橋市の人口を上回り、群馬県内最大の商業都市として確固たる地位を築きつつある。群馬県は他にも太田市や伊勢崎市などをはじめ、中規模の都市が群雄割拠しながらもネットワーク型の地域を形成している。各市がそれぞれフルセットをめざす必要はない。お互いに補完性を意識し、他にないところを伸ばす。広域で都市連携をめざせば、地域全体が発展するのではないのでしょうか。

民間にできることは民間に任せる！

「最少の経費で最大の効果を挙げること」は、地方自治法に規定された行政の義務であり、行政全体の効率化を図りながら質の高いサービスを提供することが、市民からも当然求められるものです。業務の効率化は、事業によっては民間の知識や経験、経営感覚を活用することにより、直営で行うよりも少ない経費でより高い効果が

コラム

藻谷浩介のコメントを引用

群馬県には高崎、前橋という同規模の都市が隣り合っているのは理由があります。江戸にとって前橋は越後街道の要衝であり、高崎は中山道の要衝。そこに徳川家の親藩譜代大名を配置したのです。地政学的に両市にはそれぞれの存在意義があったのです。

合わせると100万に近い都市圏になります。ところが悲しいかな、両者が完全に割れているのですね。その結果、五〇+五〇ではなく、三〇+三〇に、都市機能が減殺されてしまう。片やお隣の栃木県宇都宮市は、人口50万超だけど、高崎、前橋よりはるかに都市集積が進み、まちの規模も大きい。立派に中核都市としての機能を果たしているわけです。

期待でき、住民福祉の向上につながる事業もあると考えられることから、民間にできることは民間に任せるという考えで、行財政改革のひとつとして民間委託を進めています。前橋市の小さな遊園地・るなばあくも民間の指定管理者の知恵で利用者が年々増加しています。

群馬県住宅供給公社への市営住宅管理を委託した理由？

市営住宅に関しては、平成26年度から群馬県住宅供給公社に公営住宅法上の決定行為ができる管理代行という手法により委託をしています。

いろいろな効果が表れました。市営、県営住宅の空き部屋情報の一元的な提供により、住宅困窮者の速やかな公営住宅への入居が促進されるとともに、住宅管理における大部分の業務を委託したことから、業務の合理化、効率化に大きく寄与しています。

また、今年度、事業の経費削減、職員の時間外勤務の削減を目的とした事務事業のスクラップをサマーレビューで実施し、平成29年度に向けて各部局における事業費の削減や時間外勤務削減の事務改善が進んでいく見込みです。

今後も、業務の効率化と市民サービスの向上に向け、民間委託化をはじめとした行財政改革に積極的に取り組んでいきます。

土地開発公社を廃止した理由？

無駄の温床になる仕組みはどんどん廃止しています。土地開発公社は土地を自由に取得するブラックボックスです。将来使うかもしれないとの理由だけで土地を取得することはもうできません。市議会からは抜本的改革の要請があり、地価の下落が続く現状において、先行取得のメリットが薄れており、先行取得を主な業務とする公社はその使命を終えていること、借入金利子の累増により市民負担が増大していくため、解散することが市民負担抑制につながることを考えて平成26年3月末に解散しました。

前橋工業団地造成組合を廃止した理由？

群馬県と前橋市で構成した一部事務組合の前橋工業団地造成組合は、市包括外部監査などの各種指摘や市域内の一体的な開発上の課題、開発手続き上の優位性が無くなったことなど存続させるメリットが希薄化した為、平成26年3月末に解散しました。

塩漬け土地の解消状況

平成26年5月に「前橋市市有資産活用基本方針」を策定し、方向性のひとつとして、保有総量の縮減を掲げており、総合計画等で既に計画されている土地の取得を除き、新たな土地の取得は行わないことを原則としています。また、低・未利用地や将来的な利用が見込めない土地は積極的に売却を行うとしています。市有地売却の全般的な傾向としては、平成18年度から平成27年度までの10年間で、約43億売却しております。

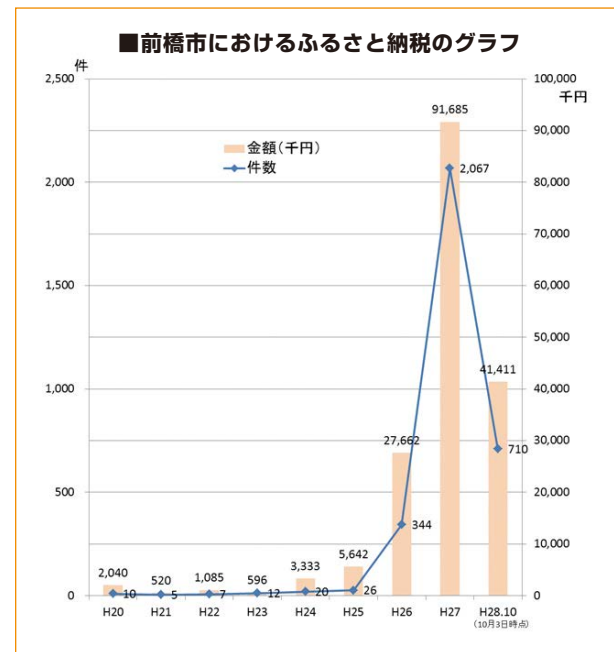
市場価値や条件整理等の課題から、売却が難しい普通財産・土地が残りつつある状況となっています。しかし、あの手この手で未利用資産の整理を進めます。

ふるさと納税

ふるさと納税もずいぶん頑張ってきました。担当課が納税返礼の品をあれこれ企画していた様子を知ってるだけに嬉しい記事です。まだまだ、充実して、“ふるさと納税10億円”を目指しましょう。

※前橋市民が他の自治体へふるさと納税する場合も増えていくでしょう？発信力は自治体の知恵比べです。

ふるさと納税
前橋市への寄付6倍に
金額は3倍 返礼品の充実が効果



日本一厳しい取り立てを改めました

1. 納税相談の機会拡充・丁寧な対応

私が市長に就任した頃は税金の取り立てに対する不満や批判が殺到していました。「問答無用の差し押さえ」とか「自殺に追い込む前橋市の強引な取り立て」などとマスコミからは取材される状況でした。私はよく話し合い、やさしい納税に変えようと職員と取り組んできました。今では「市長への手紙」や投書なども含め、納税に関する意見は激減しました。どのように変革したかを書きます。

市独自の新たな任意整理手法として、市税コールセンターを設置したほか、訪問嘱託員による納付の呼びかけや催告書等の発送業務を強化することにより、差押え前の納税者との接触機会を拡充し、自主納付の促進を図りました。

また、滞納整理の流れの周知や督促状等の文言の見直しを行ったほか、職員の接遇能力の向上を図ることにより、市税の滞納整理に対する市民の理解促進に努めました。今では収納率も上がり、市民からの納税に関する批判は激減しました。何度も滞納者と話し合い、資産や収入状況などをよく確認した上で、支払う能力のある方へは差し押さえを通告し、払える能力の無い方は執行停止をしています。詳細の取り組みは以下です。

【新たな取組】

- ①市税コールセンターの設置
- ②最終催告書の送付
- ③滞納整理の流れの見える化
- ④督促状・催告書等の文言の見直し
- ⑤課内研修の実施

※ 4 年間の実績（H24 年度～ H27 年度※）※ H28.1 月末現在
 ・訪問嘱託員（訪問件数：175, 331 件）
 ・コールセンター（架電数：5, 952 件）
 ・催告書・最終催告書等（発送件数：199, 103 件）

2. 納税環境の拡充整備

（ライフスタイルに合わせた納税手段の導入）

多様化する納税者のライフスタイルに合わせ、ページー、クレジット、モバイルレジなどの電子納付手段を導入することにより、全国的にも最高水準の納税環境を確立し、納税者の利便向上を図りました。

また、口座振替をしていない納税者すべてを対象に3年間をかけて口座振替依頼書を封入するなど、納税者にとって手間が少なく、かつ、本市の収納経費を削減することができる口座振替の推進に努めました。

【新たな取組】

- ⑥新たな納税環境の整備
- ⑦口座振替の促進

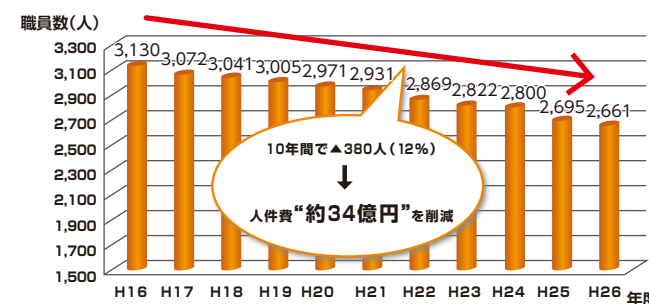
3. 収納率の向上、滞納繰越額の圧縮

自主財源の確保及び税負担の公平性の確保のため、上記のような新たな取り組み等を行った結果、経済環境の厳しい状況下においても、本市の収納率は順調に伸びており、また、懸案であった滞納繰越額についても着実に圧縮しています。

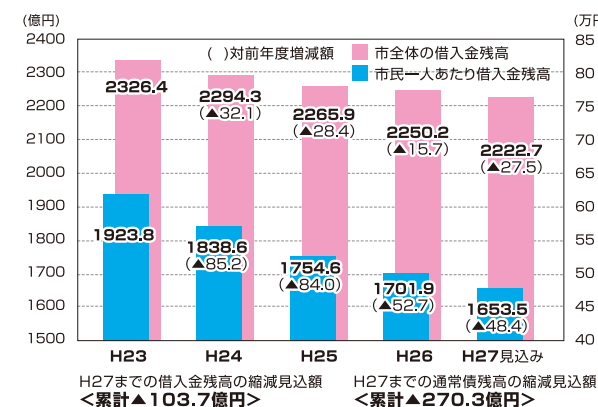
職員数削減？

前橋市の借金を減らし、財政再建に全力で取り組んでいます。限りある財源ですから、大切なのは“やりくり”です。事業の民間委託推進も一定の効果を上げており、職員数の削減にも成功しています。「歳入を増やして支出を削る」ことを心がけています。その経済効果として経費削減が約12.1億円、歳入確保が約25.8億円となり、合計約37.9億円の財政効果が生まれました。市全体の借入残高も4年間で103.7億円縮減できました。

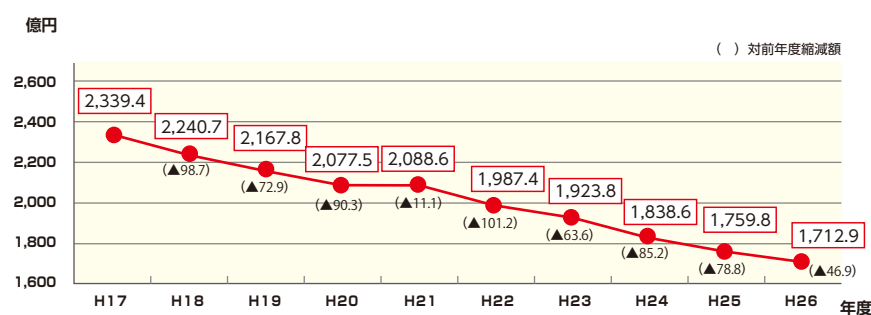
■前橋市の職員数の推移(H16～H26年の10年間)



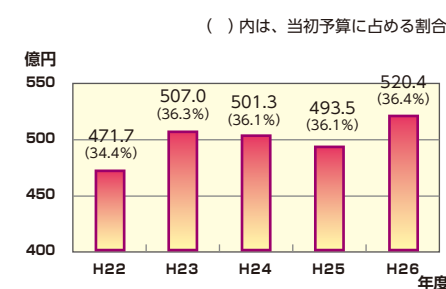
■市全体の借入金残高の推移



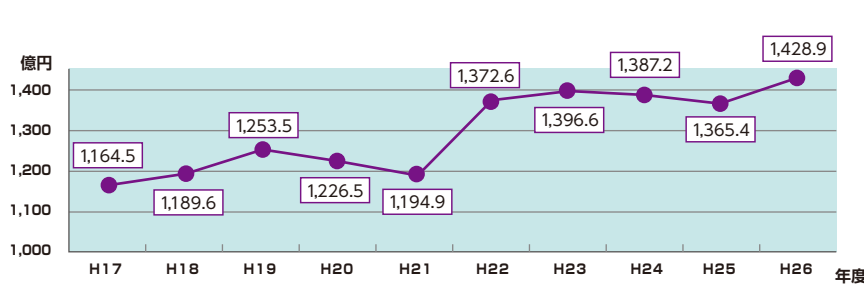
■年度末借入残高の推移



■市税総額の推移



■当初予算額の推移



官民共創プロジェクトとは市民への期待と尊敬です

中心市街地は人が集まる交流の場。前橋のシンボルです。中心市街地に住む人・訪れる人を増やすことに取り組んできました。行政が大型ビルを建てることは止めました。市長の独断で造る箱モノは必ず無駄になる。その代わり、民間団体や市民の企画を応援する仕組みを作りました。

市民の自由なイベントや市民・商工会議所、民間企業と連携した街おこし、歴史文化・サブカルチャーの発信、広瀬川テラス構想などを進めています。

最近の新聞記事に「空き店舗のシャッターが開いた！」とあった。嬉しかった。しかもその新しい店舗がシェアハウスやアトリエ、趣味の会やウォーキング会、デザイナーの交流の場など、地域や世代を超えた様々な市民の場、まさに共創の場づくりを目的にオープンするが多い。これは中心市街地がそもそも持っている意義だと思うのです。街中に商業以外の意味がある事を伝えたいと思っていました。

そこに登場したのが「前橋まちなか研究室」。前述の田中仁財団が開設したコミュニティ・スペースです。地元の文化人や経済人、地域活動家が交流し、そこでマグマとマグマがぶつかり、意識改革が起きました。ここからはまさに爆発的な化学連鎖で“イノベーション”が噴火したのです。

この連鎖は田中仁さんが発火点だ。しかしその火花を広げる触媒も必要でした。その触媒こそ「官民共創とい

うシステムの変更」であったと思います。前橋市役所だけでプロジェクトを行うのはなく、市民との共同チーム制としました。小さなプロジェクトは組織内プロジェクトで解決できますが、大きな課題については市民力を入れた官民共創プロジェクトが必要だと考えました。民間が企画提案するプロジェクトを市役所が応援するように努めてきました。私は市民を信じます。市民に勇気と優しさを信じ、尊敬して見守り応援していきます。ひとり一人の市民のまちです。皆の希望のまちです。まちの将来像は市民が決めるのです。**市民主体の民主主義とは市民への期待と尊敬だと思います。**



農業の改革者として女性たちが立ち上がった。彼女たちにも刺激を与えるのが JINS 田中仁社長のイノベーターとしての力です。自分の組織への刺激以上に社会の停滞に閉塞感を感じた人の心にもイノベーションを与え、彼のパワーに憧れます。

コラム JINS田中仁さんとの出会い。そして「めぶく。」

2016年8月3日ヤマダグリーンドーム前橋で起きたことは、今後、前橋市の歴史に深く刻まれる日となるかもしれない。「前橋ビジョン」発表会である。平日の夜のグリーンドームに4000人以上が集まり、前橋再生を予感した。「めぶく。」を共有した日である。このグリーンドームの発表会を前橋市と共催した財団法人田中仁財団の代表理事はメガネのJINSの社長・田中仁さんである。彼と初めて出会った日を思い出す。こんなにも未来へ繋がっていた出会いとも思わずに。

前橋市出身の実業家が起業する若者を支援するために上毛新聞と共催で「群馬イノベーションアワード」を創設すると聞き、是非会いたいと無理やり押しかけて訪問したのは2013年9月である。そこで、田中さんの人柄、地元前橋に対する深い愛情、何より「前橋の街を良くしたい」と語る姿と心が重なった。その後の意見交換の中で、「起業天国（ベンチャーヘブン）構想」や「前橋ビジョンの検討」が始まった。

就任直後から行政経営方針は「市民の英知とともに、前橋の宝を磨き、発信しよう」であり、一貫して変わっていない。「街を良くする」ために税金だけでなく、企業や団体の社会貢献活動（CSR、CSV）による官民連携で事業を進めようとするもので、「民間共創事業、シティプロモーション事業」として、いろいろな企業、団体と連携事業を図った。塗装団体「闘魂ペインターズ」との“るなばあく”のペンキ塗り事業やサンヨー食品、前橋おもてなしの会との「サッポロ一番前橋二番カップラーメン」による活性化事業、群馬セキスイハイム社との保育所への太陽光発電事業などある。

前橋ビジョンは市と田中さんとの民間共創事業で、まずは前橋市が50年100年先も持続し栄えるための理念である前橋ビジョンを策定した。ボルシェやアディダスを

ブランディングするドイツの会社「KMS TEAM」にビジョンの策定を依頼して、本市関係者40人弱へのインタビューと市が実施した市民アンケート等から、偏見の無い外国人から見た本市の強み、弱みを分析して、前橋のDNAから導かれたモノである。地方都市だけ



でなく、日本の都市ではありえない試みであった。田中さんの熱意が「本市の埋もれていた宝」である糸井重里氏をも動かした。理由は知らないが市と疎遠になっていた糸井氏を、もう一度、故郷に振り向かせ、ボランティアでKMSが策定した前橋ビジョン“Where good things grow.”を「めぶく。」として、ポディコピーを作成していただいた。

当日は様々なプロジェクト、前橋再生の具体的な動きも発表された。前橋市を日本のポートランド（アメリカで毎週350人が移住するオンリーワンな人気都市）にしようと、田中さんは白井屋跡地に世界でも著名な建築家・藤本壮介氏デザインのデザイナーズホテルを計画して、ポートランド発展の核となった「エースホテル」を前橋市に造ろうとしている。有名店のシェフが前橋の街を気に入ってポートランドの人気店を前橋に出店する。なんと世界初進出である。ミシュラン一つ星のオーナーが「前橋の豚」で出店を計画していること等々である。

そして何より日本でも世界でも初となるであろう試みが「太陽の会」である。本市関連のビジネスリーダー達が集まって、会が存続する限り、自分の会社の純利益の1%、最低でも100万円を、行政と連携して、まちづくりのために使おうとすることである。

前橋市の強みは多様性であり官民連携である。それぞれが「街を良くしよう」と立ち上がったのである。私には「前橋再生」がはっきりと見えてきた。その大きなきっかけと原動力が8月3日のグリーンドームで感じられたのです。



18 章
未 来 へ

これからの未来へ 優しくなりましょう。

今までの慣例に縛られることはしません。
改善の繰り返しこそ未来を開きます。
つまり『やりくり』です。清掃工場の新設⇒延命化を決断したのも「やりくり」への準備ができるからです。
マニフェストの実現に全身全霊を傾けてきました。
しかし行く道に予想外の課題が現れ、私たちにいく手を阻むこともありました。

例えば・・・

- 東北、岩手県から津波によって破壊されたがれきの処分の受け入れ
- 30人学級への対応より優先せざるを得ない課題の存在
- 大雪によって被災した農家復興への全力投球
- 地域の安全や安心の妨げになる空き家の増加や凶悪な殺人事件の発生
- 東京オリパラ、ラグビーWカップへの対応

政治は生き物です。時々刻々と情勢は変化し続けます。
大海原の波を乗り越えて進む船です。5年間の任期の前半は融和への妨げになっている課題の整理に没頭しました。前橋市岩神町にある前橋工業高校跡地の土地交換取引を巡る群馬県との裁判、政務調査費を争点に一部の議員さんとの裁判、美術館のあり方、新清掃工場建設の中止と現工場の延命化・・・市長就任ともに私に課せられた課題を先ず解決することからのスタートでした。前政権からの様々な課題についても、方向転換するには時間も必要だった。それらの波頭を乗り越えて進ん

で来ました。
この船は大型タンカーのように舵を切っても進路を変更するには時間がかかります。政策実現の舵取りをするのに、一番大切なことは組織のマインドです。新しいことにチャレンジするフロンティアスピリッツ、民間と協働し、民に寄り添うマインドこそ最も大切な船のエンジンです。
後ろを見るとようやく航跡がカーブを描き始めたと感じます。これからはスロットルを全開に進みます。皆さんが私を信じ、力を貸して下さいを祈ります。

“量”ではなく“質”を高める事を目指します。前橋市が優しくなる事です。

コラム 広瀬川のカモの卵、救出の舞台裏

広瀬川を歩くと何人もの人たちが川を覗き込んでいます。岩と岩の間のたまった枯れ枝に、カモの巣がのっています。覗くと卵が7つ。増水で流されそう。広瀬川(ここは川ではなく広瀬桃木用水という名の農業用水)の水門

が開かれているらしい。
ここから前橋消防が大活躍。無事救助を終えて、市民の拍手の中、隊員たちは帰って行きました。そして保護された7匹は元気に育って行きました。



巻末資料



前橋市の中核市ランキング

■中核市(46市)間の各種行政データ比較(※基準日:平成27年3月31日)

指標項目	市街地再開発進捗率(%)	人口集中地区(DID)人口密度	人口集中地区(DID)面積/市域面積(%)	都市計画道路整備率(%)	土地区画整理事業進捗率(整備面積)	公共賃貸住宅戸数/100世帯
前 橋 市	100.00 (1)	4362.50 (38)	14.76 (22)	55.96 (35)	84.12 (44)	5.67 (17)
中 核 市 平 均	90.40	6449.92	26.03	66.69	96.26	5.54
指標項目	市営住宅応募件数/公募件数	地域優良賃貸住宅供給戸数/1万世帯	一般世帯持ち家率	道路面積/市域面積(%)	市道改良率(%)	市道舗装率(%)
前 橋 市	1.34 (3)	5.12 (15)	66.30 (10)	7.32 (10)	59.16 (34)	77.90 (40)
中 核 市 平 均	7.08	5.06	61.20	4.77	68.00	90.97
指標項目	歩道整備率(%)	地中化電線進捗率(%)	1日鉄道乗車人員/市民1万人(人)	1日当たりの路線バスの利用者数/市民1人あたり(人)	ノンステップバスの導入率(%)	路線バスに対する補助金額/市民1人あたり(円)
前 橋 市	10.29 (35)	60.60 (35)	715.17 (34)	0.010 (39)	35.94 (24)	489.9 (35)
中 核 市 平 均	18.03	154.46	2455.65	0.090	44.43	179.6
指標項目	一世帯あたり自家用乗用車保有台数(台)	自転車走行空間の整備延長(m)	上水道普及率(%)	上水道有収率(%)	下水道普及率(%)	下水道雨水整備率(%)
前 橋 市	1.59 (44)	0.00 (31)	99.9 (9)	84.90 (41)	69.90 (39)	58.00 (16)
中 核 市 平 均	1.13	6785.00	98.3	90.74	83.57	50.93
指標項目	刑法犯認知件数/市民1千人	火災発生件数/市民1万人	管轄内世帯数/消防署、分署、出張所	管轄内世帯数/消防車両保有数	交通事故発生件数/市民10万人	交通事故死亡者数/市民10万人
前 橋 市	9.75 (27)	3.89 (42)	12968 (16)	1981.22 (8)	1077.50 (44)	3.24 (29)
中 核 市 平 均	9.20	2.92	15472.78	2730.21	521.91	2.84
指標項目	市民1人当たりの都市公園面積(m ²)	公害苦情件数/工場・事業所数(%)	河川BOD環境基準達成率(%)	ごみ収集量(t)/市民1千人	可燃収集量(t)/市民1千人	リサイクル率(%)
前 橋 市	11.43 (15)	8.66 (31)	71.40 (40)	327.36 (32)	292.90 (35)	18.00 (24)
中 核 市 平 均	10.33	7.65	92.84	307.53	256.43	19.61
指標項目	市民1人1日あたり資源物以外のごみ排出量(g/人日)	住宅用太陽光発電システム設置家庭数/1,000世帯(世帯)	低公害公用自動車/公用自動車(%)	悪性新生物死亡率(‰)	脳血管疾患死亡率(‰)	心疾患死亡率(高血圧を除く、‰)
前 橋 市	879.81 (29)	38.91 (9)	3.45 (27)	281.72 (9)	80.41 (16)	167.66 (29)
中 核 市 平 均	832.97	21.97	7.63	295.17	87.66	156.82
指標項目	病院、一般診療所施設数/市民10万人	病院病床数/市民10万人	医師数/市民10万人	国民健康保険被保険者1人あたり費用(円)	国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率(%)	国民健康保険被保険者一人当たりの医療費の増加率(%)

前橋市	107.81	(9)	1,435.97	(22)	455.68	(3)	321,892	(13)	40.9	(7)	3.35	(29)
中核市平均	91.97		1,508.57		286.47		349,158		33.88		2.68	
指標項目	食中毒発生件数／世帯10万 乳児家庭全戸訪問事業における面接率(面接数／出生数)(%) 1歳6ヶ月児健康診査受診率(%) 3歳児健康診査受診率(%) 保育園入所待機児童数 保育士数／保育所入所者100人											
前橋市	2.10	(25)	101.47	(3)	98.0	(6)	95.9	(9)	0	(1)	10.47	(37)
中核市平均	1.78		90.52		94.90		92.39		77.60		12.52	
指標項目	保育所入所者数、幼稚園在園者数／0～5歳人口100人 障がい児保育を実施している保育園数／保育園数(%) 保育園での障がい児の受入人数 乳児保育実施率(%) 延長保育実施率(%) 放課後児童クラブ設置数／市立小学校児童1千人											
前橋市	76.49	(3)	24.3	(42)	42.00	(36)	56.76	(45)	58.11	(40)	3.33	(18)
中核市平均	63.25		60.15		144.07		93.64		85.10		3.08	
指標項目	ファミリーサポートセンター 依頼会員数／0～12歳(%) ファミリーサポートセンター 協力会員数／0～12歳(%) ファミリーサポートセンター 両方会員数／0～12歳(%) 保育費扶養者負担金(保育料)の軽減率(%) 児童虐待通告受理件数(件) シルバー人材センター会員数／65歳以上1千人											
前橋市	34.94	(18)	9.93	(16)	3.01	(15)	41.7	(7)	42	(4)	12.70	(30)
中核市平均	35.41		9.28		2.76		34.55		266.78		16.38	
指標項目	老人クラブ会員数／65歳以上1千人 老人福祉センター数／65歳以上1千人 要介護認定を受けている高齢者の割合(%) 要介護認定者数のうち、要介護4及び5の認定者の割合(%) 地域包括支援センター箇所数／65歳以上1千人 グループホーム・ケアホーム利用者数／身体障がい者、療育、精神障がい者保健福祉手帳交付者数1千人											
前橋市	288.76	(5)	0.055	(10)	82.00	(17)	21.44	(30)	0.122	(26)	17.27	(6)
中核市平均	169.69		0.053		81.07		20.64		0.139		12.88	
指標項目	施設入所から地域生活への移行者数／施設入所者数 居宅(介護予防)サービス受給者1人あたり保険給付費(円) 地域密着型(介護予防)サービス受給者1人あたり保険給付費(円) 施設介護サービス受給者1人あたり保険給付費(円) 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)定員／1号被保険者1千人 小規模多機能型居宅介護定員／1号被保険者1千人											
前橋市	1.88	(13)	105,868	(34)	203,829	(10)	264,098	(14)	10.69	(16)	4.56	(18)
中核市平均	1.68		101,994.93		212,026.68		268,421.53		9.83		4.21	
指標項目	福祉施設から一般就労への移行者数／福祉施設(日中活動系サービス)の利用者数 就労継続支援事業所等における平均月給額(円) 市社会福祉協議会ボランティアセンター登録団体数／市民1千人 消費生活相談件数／消費生活相談員数 生活保護率(%) 民営事業所総数／市民1千人											
前橋市	1.35	(29)	16,972	(5)	0.17	(40)	581.50	(31)	11.40	(11)	48.4	(13)
中核市平均	1.99		13,839.80		0.49		501.24		19.00		42.40	
指標項目	卸売業年間商品販売額(百万円)／市民1人 小売業年間商品販売額(百万円)／市民1人 卸売業事業所総数／市民1千人 小売業事業所数／市民1千人 従業者規模4～299人製造業の1製造業事業所あたりの製造品出荷額(百万円) 1製造業事業所あたりの製造品出荷額(百万円)											
前橋市	1.86	(20)	1.10	(10)	2.40	(19)	6.82	(12)	772.38	(21)	1,254.34	(22)
中核市平均	1.87		0.97		2.14		5.86		4,149.31		1,821.88	
指標項目	昼夜間人口比率 有効求人倍率(倍) 就職率(%) 労働力率(%) 15～19歳女性の労働力率 20～24歳女性の労働力率											
前橋市	1.05	(10)	1.16	(17)	35.30	(17)	61.11	(22)	15.87	(21)	72.00	(20)
中核市平均	0.99		1.07		33.32		60.90		16.10		72.65	
指標項目	25～29歳女性の労働力率 30～34歳女性の労働力率 35～39歳女性の労働力率 40～44歳女性の労働力率 45～49歳女性の労働力率 50～54歳女性の労働力率											
前橋市	78.88	(17)	69.83	(14)	69.69	(17)	75.22	(10)	78.21	(9)	76.49	(6)
中核市平均	80.16		70.53		69.45		73.99		77.04		73.85	
指標項目	55～59歳女性の労働力率 60～64歳女性の労働力率 65～69歳女性の労働力率 70～74歳女性の労働力率 75～79歳女性の労働力率 80～84歳女性の労働力率											
前橋市	67.51	(7)	49.48	(12)	29.35	(17)	18.35	(11)	11.82	(7)	7.15	(9)
中核市平均	64.34		47.81		28.56		16.76		9.92		6.24	
指標項目	85歳以上女性の労働力率 完全失業率(%) ほ場整備済面積／田、畑総面積(%) 販売農家戸数／総農家戸数(%) 認定農業者数(経営体) エコファーマーの認定数(人)											

前橋市	2.82	(16)	5.22	(8)	110.20	(3)	55.29	(26)	573	(7)	116	(17)
中核市平均	2.70		6.46		42.28		54.89		272.96		159.65	
指標項目	観光客入れ込み客数／市民1人 ホテル、旅館客室数／市民1千人 全生涯学習センター(公民館)利用者数／市民1人 市立図書館における児童書の貸出冊数／児童数 市立図書館蔵書数／市民100人あたり 市立図書館年間貸出数／市民1人											
前橋市	17.97	(15)	7.67	(30)	2.60	(11)	36.18	(13)	297.84	(12)	6.05	(13)
中核市平均	19.28		11.69		2.05		30.10		247.35		5.02	
指標項目	市立小学校図書館図書書の充足率 市立中学校図書館図書書の充足率 市立小中学校の耐震化率(校舎・体育館) 放課後子ども教室実施所数／市立小学校児童1千人 学校と地域が連携して、学校を支援する協議会等を設置している小学校及び中学校の割合 学校栄養職員数(県費・市費)／児童生徒1千人											
前橋市	114.8	(16)	107.7	(22)	93.4	(25)	2.51	(6)	94.59	(11)	0.46	(23)
中核市平均	108.86		104.84		91.92		1.28		43.11		0.56	
指標項目	市立小中学校及び学校給食センターのうち栄養職員(県費・市費)を配置している割合 市立小中学校・給食センターにおける栄養教諭の配置人数 不登校児童数／児童1千人 不登校生徒数／生徒1千人 市立中学校英語授業助手数／生徒1千あたり 日本語指導が必要な外国人児童生徒数／児童生徒1千人											
前橋市	23.46	(26)	5	(40)	2.57	(10)	23.26	(6)	2.72	(6)	2.3	(31)
中核市平均	34.08		17.24		3.98		30.66		1.78		2.76	
指標項目	市立中学校帰国子女数／生徒1千人 短大学生数／市民1千人 大学学生数／市民1千人 体育館数／市民10万人 体育館延床面積(㎡)／市民1人 野球場数／市民10万人											
前橋市	0.57	(17)	0.82	(29)	18.05	(24)	1.47	(26)	0.060	(24)	3.24	(1)
中核市平均	0.61		1.57		25.35		1.81		0.063		1.16	
指標項目	野球場面積(㎡)／市民1人 陸上競技場数／市民10万人 陸上競技場敷地面積(㎡)／市民1人 プール数／市民10万人 プール延床面積(㎡)／市民1千人 スポーツ実施率(%)											
前橋市	0.773	(1)	1.47	(1)	0.346	(1)	1.47	(10)	12.669	(11)	39.1	(19)
中核市平均	0.228		0.36		0.100		1.03		9.101		40.24	
指標項目	公会堂、市民会館大ホール収容定員／市民1千人(市立+市立以外) 公会堂、市民会館利用者数／市民1千人(市立の施設) 市立美術館入場者数／市民100人 市立文化財展示施設等の延べ床面積(㎡)／市民10万人 市立文化財収蔵施設等の延べ床面積(㎡)／市民10万人 外国人登録者数／市民1千人											
前橋市	11.50	(18)	896.19	(24)	21.35	(15)	110.78	(37)	246.87	(31)	12.26	(17)
中核市平均	10.10		1,056.89		31.42		802.87		476.48		11.98	
指標項目	自治会加入率(%) 市職員数／市民1千人 各種審議会に占める女性の割合(%) 財政力指数 経常収支比率(%) 実質公債費比率(%)											
前橋市	90.4	(3)	7.77	(20)	22.80	(42)	0.78	(26)	95.60	(40)	8.00	(30)
中核市平均	71.23		7.82		29.06		0.77		90.62		7.28	
指標項目	実質収支比率(%) 普通会計の市民一人当たりの市債残高(千円) 自主財源比率(%) 義務的経費比率(%) 将来負担比率(%) 携帯電話普及率(PHSを含む)スマートフォン除く											
前橋市	3.20	(21)	447.78	(33)	54.4	(17)	45.70	(6)	67.90	(22)	71.1	(29)
中核市平均	3.37		380.68		51.71		51.75		64.65		72.46	
指標項目	スマートフォン普及率 パソコン普及率(デスクトップ型) パソコン普及率(ノート型(モバイル・ネットブック含む)) タブレット端末普及率 社会動態数／市民1千人あたり 合計特殊出生率											
前橋市	54.0	(34)	36.0	(33)	59.4	(26)	20.4	(27)	0.01	(20)	1.42	(21)
中核市平均	57.42		39.71		61.35		22.38		0.06		1.44	

前橋市の主なイベント

開催月	日程	イベント名称 (主催団体)	イベント概要	イベントの様子
4月	10日頃	ツナガリズム祭 (同実行委員会、 FMぐんま受託)	・中心協とFM群馬が総力を挙げて開催する春の恒例イベント。 ・著名ゲストを招いたFM公開生放送やステージイベント、各商店街のセール&抽選会、各種イベントも開催。 ・T-1グランプリのファイナリスト店舗の販売や、グランプリ店の発表&表彰式も実施します。来場者は約1万人。	
5月	下旬	前橋クラシックカーフェスティバル (伊香保おもちゃと人形自動車博物館)	・伊香保おもちゃと人形自動車博物館の横田館長のクラシックカー愛好者仲間が結集したまちなかイベント。 ・2016年に第2回を開催。中央イベント広場のみならず、中央通り商店街等もイベントに実施協力。 ・毎年秋に開催されるクラシックカーレース「スプレンドーレ」を併せて、まちなかの風物詩として定着。	
5月	下旬	前橋駅前まマルシェ (JR前橋駅とM・wave市：後援) H27年～	・地域の一次産業活性化・つくり手と消費者のコミュニケーション創出 H28年度は5月・7月・9月に開催	
6月	下旬	前橋合同学園祭 (市内の大学・専門学校生からなる実行委員会)	・各大学や専門学校のもつPRポイントを学園祭形式で発信することを通じて、市内・外の企業や進学を控える中高生とのマッチングを期待するイベント。 ・学生実行委員会がH24年度より年1回、開催中。中心市街地に馴染みのない若い世代に対して、学生時代にまちなかでの活動を経験してもらおうと企画。	
7月	上旬	前橋七夕まつり (同実施委員会)	・2016年度で第66回を迎える前橋市の夏の風物イベント。4日間の催事につき客足も多く、各店舗とも趣向を凝らした営業が垣間見られるのも七夕ならでは。 ・露天商の出店数も最大で、まちなかに子どもや若者を多数惹きつける4日間。 ・浴衣姿でお出掛けの人も見受けられ、まちなか全体が華やきます。	
7月	中旬	井上武士音楽祭 (一財)前橋市まちづくり公社)	・2016年度で3回目を迎える合唱イベント。前橋市に縁のある作詞家「井上武士」が携わった歌を、市内の小学生や事前応募の合唱団が、優しく雄大に歌い上げます。	
8月	中旬	前橋花火大会 (同実行委員会)	・前橋の夏の風物詩として、利根川大渡橋周辺を打上会場に毎年8月の第2土曜に開催。第1回は終戦直後の昭和23年の復興祭の一部として開催され、それ以降商工祭、前橋まつり、七夕まつりのイベントとして行われてきました。 ・第60回を迎えた2016年度には記念大会に相応しく、「第1回世界Web花火大会in前橋」を同時開催。テーマ性や話題性を大きく持たせた花火大会に進化中です。	

開催月	日程	イベント名称 (主催団体)	イベント概要	イベントの様子
9月	下旬	広瀬川BBQ (同実行委員会)	・本市では、まちなかの宝である広瀬川の魅力を様々な角度から磨き上げる取り組みを行っています。 ・その一環で、広瀬川河畔の落ち着いた雰囲気のもと、くつろぎの時間を過ごすイベントとして昨年度から実施しており、2016年度で2回目の開催となりました。 ・着実にリピーターも増えており、広瀬川からの情報発信が働き始めています。	
9月	下旬	まちなかリバーフェス in広瀬川 (カッパクラブ)	・上記の広瀬川BBQと同じく、広瀬川の魅力を磨き上げる過程で開催されたイベントです。2016年度、初開催。 ・利根川水系でラフティングやSUPボードを指導するインストラクター集団の協力の下、前橋市史上、広瀬川水面の「レジャー活用」に初めて取り組んだイベント。 ・同時開催のダックレースは家族連れの人気を博し、SNS上でも大きな話題に。	
9月	下旬	まえばしクリテリウム (同実行委員会)	・「自転車のまち前橋」を標榜する本市で、国内で有数の人気を誇る「まえばし赤城山ヒルクライム大会」と併せ、まちなかで競技会を開催することにより、交通安全の啓蒙活動や自転車の有効利用促進はもとより、本市の中心市街地から情報を発信することを目的としています。 ・2016年度に初開催となりました。	
10月	上旬	前橋オクトーバーフェスト (同実行委員会)	・中央イベント広場の市民の憩いの場にするために、2014年度からビール祭を開催、2016年度に第3回目を迎えた。 ・本場のオクトーバーフェストの雰囲気を楽しむようヨーデル歌手の北川桜さんを毎年ブッキング。固定ファンも多い。 ・会場内には、欧州産ビールや県内産の地ビールも用意される他、地元飲食店が総力をあげて、おつまみを提供する。 ・本市の秋の名物イベントに成長。	
10月	上旬	風のまち音楽祭 (同実行委員会)	・音楽の力で、まちなかの活性化を目指す民間主体のイベントで、2010年から開始。 ・前橋出身のジャズピアニスト福田重男氏やドラムニスト奥平真吾氏などジャズ界のプロの演奏家を招聘する一方、フュージョンやPOPSの一般演奏家も参加するなど、多彩な演目が楽しめるイベントに成長。 ・第7回を迎えた2016年度は、前橋オクトーバーフェストと共同開催となり好評を博す。	
10月	中旬	前橋まつり (同実行委員会)	・戦後間もない昭和23年に復興祭として始まり、24年から前橋商工祭、34年から前橋まつりと改められ、各町内会や企業、各種団体が参加する市民総参加へ発展してきたイベント。 ・平成7年開催から「前橋どんべえ踊り」がはじまり、より一層活気ある祭に成長。お年寄りからお子さんまで、参加して、楽しめるお祭。前橋三大まつりのひとつ。	
10月	中旬	前橋スマイルキャンパス (同実行委員会)	・家族の皆が笑顔になることを目指して開催される民間主体のファミリー向けイベント。2015年の45DAYSで初開催。 ・2回目となる2016年は、「マクニティ&ベビー」「親子で体験」「キッズたちの自己表現」の3本柱でイベントを開催。 ・期間中は、物販/ワークショップ/飲食で中央イベント広場は賑わいます。	

開催月	日程	イベント名称 (主催団体)	イベント概要	イベントの様子
11月	上旬	全国アマチュアちん どん競演会 i n まえ ばし (同実行委員会)	・全国から集ったアマチュアちんどんマンが中心市街地を練り歩き、中央イベント広場のステージでパフォーマンスを披露。 ・表彰式ののち合同演奏にてフィナーレを迎える、年に1度のアマチュアちんどんマンによる祭典。2016年度には第14回目を迎える本市の秋の風物詩的イベント。	
11月	中旬	前橋西の市祭 (同実施委員会)	・熊手や縁起物を売る露店が立ち並び、冬の風物詩として毎年開催。明治31年に、旧横山町の小石神社境内で師走の酉の日に市が開かれたのが始まり。 ・現在は千代田町の熊野神社境内で11月に開催。熊野神社には、古くから八咫鳥(ヤタガラス)が使者として祀られており、商売繁盛、五穀豊穡、合格祈願など、大願成就のご利益が。	
9月 10月 11月	下旬 上旬	Maebashi 45DAYS	・前橋の「まちなか」を舞台に「前橋を○○で盛り上げたい」とする市民の自発的な活動を、さまざまな仕掛けと演出によりクローズアップした地域活性化事業。 ・平成27年度に続き、第2回となる28年度は「45のわたしたちの前橋～やりたいことができる街。～」をメインテーマに9月22日～11月5日の45日間、45企画を展開中。	
1月	上旬	前橋初市まつり (同実施委員会)	・その昔、毎月4と9の日に開かれていた日用雑貨や生糸の定期市が起源とされ、厩橋城主だった酒井重忠侯の時代に始まったとされる。前橋三大まつりのひとつ。 ・現在はだるま市の名で親しまれる本市の新春の風物詩。 ・本町通りには、だるまや縁起物などの市が軒をつらね、だるまを買い求める人々で賑わいます。	



MAEBASHI index

ま え ば し い ン デ ッ ク ス

発行：山本りゅう後援会事務所

〒371-0022 前橋市千代田町2丁目7-19 ユーアイ井上ビル2階

電話：027-219-1005 / FAX：027-219-1006